

- 一八七 東京市施設表示盤
- 一八八 東京市設食堂成績建設狀況
- 一八九 東京市失業救濟事業登錄者ニ關スル調
- 一九〇 同市設勞働紹介所ニ於ケル日傭勞働者ノ賃銀立替狀況一覽
- 一九一 東京市授産場從業員ニ關スル調査表
- 一九二 同授産場成績
- 一九三 市設質屋累年成績表
- 一九四 同現況一覽表
- 一九五 東京市内公私質屋累年成績表
- 一九六 簡易宿泊所宿泊人員年度別一覽表
- 一九七 東京市營眞砂町住宅寫眞(五枚)
- 一九八 貸家貸間無料紹介圖表一枚
- 一九九 東京市小石川隣保館模型
- 二〇〇 市營住宅變遷一覽表
- 二〇一 住宅組合設立概況
- 二〇二 東京市養育院新入院者病類別
- 二〇三 東京市養育院收容者累年比較
- 二〇四 同新入院者種類別
- 二〇五 私設浴場數一覽表

- 二〇六 東京市設食堂成績(利用者數)
- 二〇七 同(賣上金高)
- 二〇八 市設食堂ボスタ
- 二〇九 道路鋪裝處理系統圖
- 二一〇 傳染病處理系統圖
- 二一一 水道檢新設處理系統圖
- 二一二 市政インデックス
- 二一三 瀝青乳劑製造工程
- 二一四 道路鋪裝標本
- 二一五 東京市授産場製作品
- 二一六 同
- 二一七 傳染病豫防ニ關スルボスタ
- 二一八 復興帝都ノ空氣試驗成績
- 二一九 震災當時ノ救療所病院バラック天幕等ノ溫度測定成績
- 二二〇 小學校ノ空氣試驗成績
- 二二一 水源ヨリ市檢マテノ水質淨化ノ過程
- 二二二 東京府各河川水質試驗成績表
- 二二三 東京府近河川水質試驗成績
- 二二四 東京市内飲用堀井水水質試驗成績

- 二二五 荒川隅田川及品川河海水浴比較表
- 二二六 東京市各區井戸數一覽表
- 二二七 依頼試驗件數一覽表
- 二二八 震災前後五箇年市立傳染病院患者收容成績表
- 二二九 震災前後各五箇年傳染病患者死者比較表
- 二三〇 防暑塗料ニ就テ
- 二三一 駒込病院配景圖
- 二三二 駒込病院模型
- 二三三 現在ニ於ケル東京市施設醫療並防疫機關配置圖
- 二三四 市内廣尾病院鳥瞰圖
- 二三五 東京市ニ於ケル震災前後各一箇年傳染病患者發生月別表
- 二三六 東京市ニ於ケル結核死亡數累計表
- 二三七 東京市諸救療機關取扱患者數
- 二三八 公園案内諸種
- 二三九 史蹟高輪大木戸趾(震災前)
- 二四〇 史蹟高輪大木戸趾(復舊圖)
- 二四一 史蹟品川第三臺場寫眞
- 二四二 史蹟淺野長矩墓及赤穂義士墓

- 二四三 市街地小公園配景圖
- 二四四 東京市第一塵芥處理工場作業系統
- 二四五 六大都市一日搬出塵芥量並經費比較表
- 二四六 震災前後市區直營尿尿採取一覽表
- 二四七 東京市尿尿採取一覽圖
- 二四八 塵芥處分経路
- 二四九 東京市テハカウシテ小賣價格ヲ一般ニ知ラセル
- 二五〇 六大都市市設小賣市場
- 二五一 眞砂町市場ノ復興
- 二五二 皇后陛下市場賣店御巡覽ノ狀況御寫眞
- 二五三 久邇宮良子女王殿下市設市場賣店御巡覽ノ狀況(同)
- 二五四 市卸設小賣市場配置鳥瞰圖
- 二五五 東京市設市場略史
- 二五六 旅荷ノ徑路
- 二五七 市設市場ハトシナニ利用サレテ居ルカ
- 二五八 季節ニ依ル青果卸價格ノ變動
- 二五九 主要日要品市場販賣價格高低表
- 二六〇 市設小賣市場別購買人員表
- 二六一 東京市移入食用家畜供給府縣別數量比較表

- 二六二 東京市黙肉消費比較表
- 二六三 配水小管漏水量比較表
- 二六四 東京市水道給水區域圖
- 二六五 地上式不凍消火栓(實物)
- 二六六 家庭下水ノ清淨サール迄ノ徑路(繪畫)
- 二六七 下水施設寫眞
- 二七六 芝浦船舶貨物統計圖表
- 二七七 芝浦前後ニ於ケル芝浦日之出町物揚場ノ狀況(寫眞)
- 二七八 吾妻橋配景圖
- 二八〇 兩國橋配景圖
- 二八一 兩國橋配景圖
- 二八二 築地月島間可動橋計畫案同配景圖
- 二八三 御茶ノ水橋配景圖
- 二八四 東京市交通量圖諸車之部
- 二八五 同上歩行者之部
- 二八六 各區別東京市公道内街路照明施設狀況圖
- 二八七 道路面積
- 二八八 四ッ谷新宿通地下埋設物之實況
- 二八九 東京市公道内街路照施設狀況一覽圖
- 二九〇 同上統計表

- 二九一 東京市ニ於ケル電氣料金ノ變遷
- 二九二 電氣需用家ノ使用狀況及負擔料金
- 二九三 從量制ノ普及狀況
- 二九四 大東京供給區域及送電系統圖
- 二九五 國別及製造者別積算電力計箇數
- 二九六 竣工セル芝浦發電所寫眞
- 二九七 全一日乘客潮流密度圖表
- 二九八 本邦最古ノ電車寫眞
- 二九九 市營以來ノ電車及乗合自動車乗客
- 三〇〇 東京市營電車及乗合自動車交通網圖
- 三〇一 電車々輛ノ變遷寫眞(九枚)
- 三〇二 復興七年ノ回想(パノラマ四景)
- 三〇三 電氣研究所ノ災害及復興寫眞(八枚)
- 三〇四 同所調査報告
- 三〇五 同所研究報告
- 三〇六 區役所廳舎寫眞並配景圖(十二枚)

財團東京震災記念事業協會

- 德永柳州氏筆震災狀況油繪二十四枚
- 攝政殿下燒跡御視察
- 皇后陛下行啓
- 震災第一報ヲ傳フ飛行機
- 上野公園ヨリ燒跡ヲ望ム
- 陸軍鳩隊ノ活動
- 陸軍ノ炊出
- 避難民ノ混亂
- 日本赤十字社ノ活動
- 十二階崩壞ノ刹那
- 永代橋ノ墜落
- 自警團
- 被服廠跡ノ遺骨
- 死者ヲ弔フ
- 河中避難ノ混亂
- 陸軍ノ傷病者救護
- 旋風

海嘯

- 熱海線列車ノ墜落
- 海嘯ノ襲來
- 新吉原避難民ノ混亂
- 九月一日夜ノ日本橋附近
- 花屋敷動物の射殺
- 御茶ノ水附近の猛火
- 二重橋及バラックの雨

附記ノ二

震災復興記念館

復興局東京市後援の下に財団法人東京市政調査会は昭和四年十一月日比谷公會堂に帝都復興展覽會を開催した出品物は何れも震災と復興とに關する貴重の資料にして震災當時を回想せしめ延いては復興事業の内容經過其の他の事情に就て新知識を啓發し得るもので觀覽者は何れも深き感動に満たされた依つて主催者及關係各方面ではかやうな好箇の資料を一時的展觀に止むることなく將來永久に保存陳列することは至當であるとの意見で茲に震災復興記念館建設の議があり又財団法人東京震災記念事業協會は従前蒐集中にある震災記念品を併せ陳列保存の計畫を樹て而して記念館建設を左の如く計畫した。

一 建設場所 本所區横綱町被服廠跡 横綱公園内

一 敷地面積 約四百坪

一 記念館建坪 延約四百坪

一 經費概算 約二〇〇〇〇〇圓

内 譯

建設費 一四〇〇〇〇圓

陳列費 五〇〇〇〇圓

設計監督費其他 一〇〇〇〇圓

一 陳列材料 約 一〇〇〇點

震災記念資料約 五〇〇點

復興記念資料約 五〇〇點

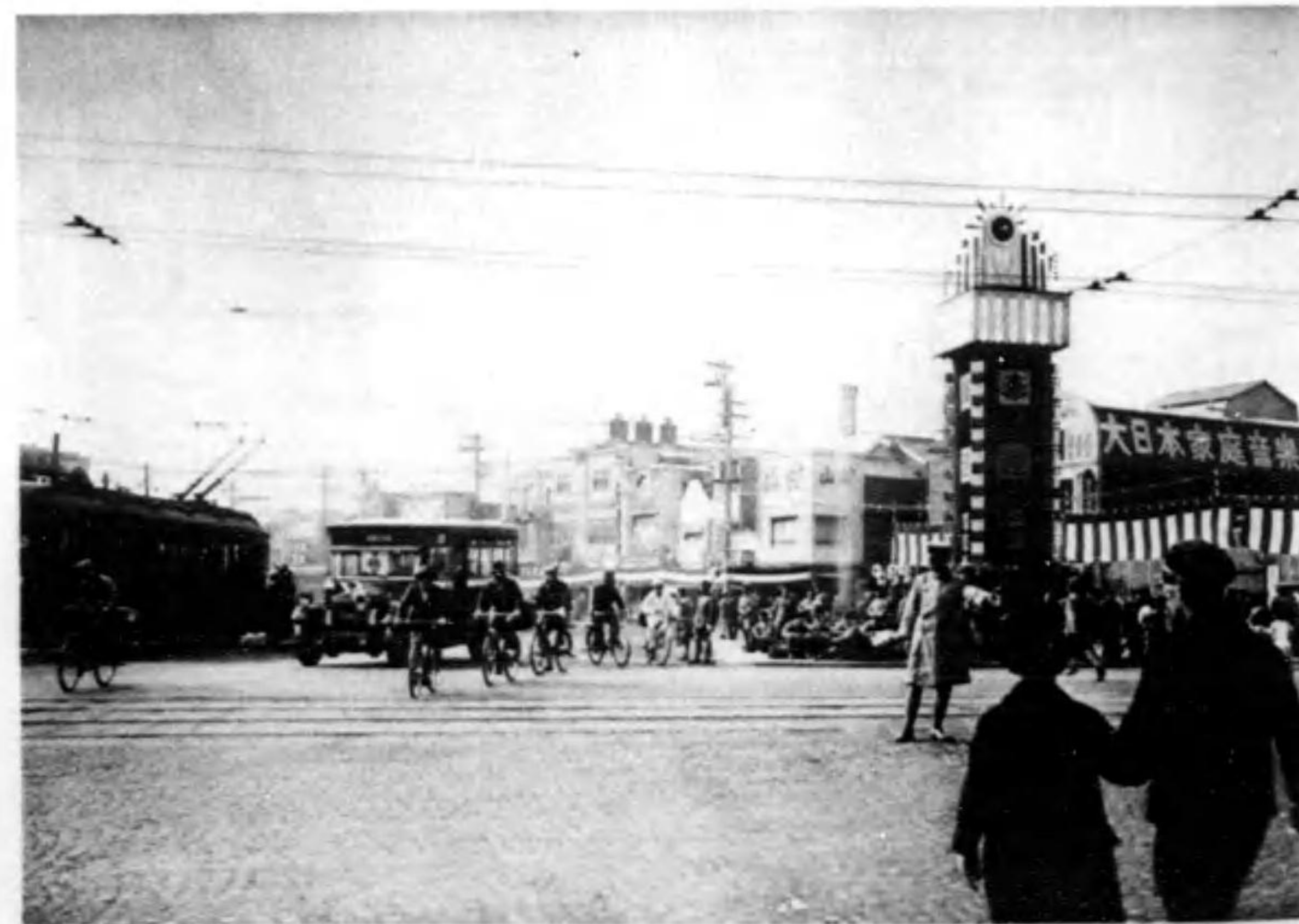
震災復興記念館位置圖



復興祭當日の内市



龜町區



神田區

帝都復興祭志

向ほ帝都復興記念展覽會及出品者に對し左の依頼狀を發して保存陳列の用意を整へ亦陳列目錄を作成した。依頼狀は左の如くてある。

拜啓時下愈々御清適奉賀候

陳者今般財團法人東京市政調査會主催復興局、東京市後援ノ下ニ開催致候帝都復興展覽會ニ付テハ多大ノ御援助ニ與リ幸ヒ豫期以上ノ效果ヲ收メ近ク閉會ノコトト相成候處該展覽會陳列出品物ハ洵ニ帝都ノ震災及復興ヲ永久ニ記念シ得ヘキ好箇ノ資料ニシテ他ニ需メ得難キモノト被存候ニ付テハ目下東京市ニ於テ考究中ニ有之候ヘトモ不取財團法人東京震災記念事業協會ニ於テ建造中ニ係ル東京震災記念堂内ニ保存陳列ノ方法ヲ以テ何卒御支障ナキ限リ御出品一部ハ閉會ト同時ニ同協會へ御寄贈若ハ保管御委託被成下候様御承諾相願度得貴意候

追テ午御手數右御諾否何分トモ至急東京市政調査會へ御回示被成下度

尙御承諾ヲ得候場合ニ於テハ東京震災記念事業協會ノ費用ヲ以テ不取敢東京市本所公會堂へ運搬保管致度申添候

敬具

昭和四年十一月九日

殿

財團法人東京市政調査會
東京震災記念事業協會
東京市役所

内市の日當祭典復



區草淺



區谷下

内市の日當祭典復



區橋本日



區橋京

復興祭當日の内市



本所區



深川區

第七章 帝都復興祭區施設

第一節 日本橋區

一 御巡幸施設

復興帝都御巡幸に際し畏くも 聖上陛下千代田小學校御立寄の御沙汰を拜したので本區は衛生施設災害防止に専心留意して遺漏なからしめた。二月八日各町會長に依頼し三月十三日御巡幸に際して區民各位へと題して諸注意を促かし各町會長に送付配布方を依頼した。衛生上に關しては、二月十日衛生協合理事長及日本橋區醫師會長區内警察署長の援助を懇請し、二月二十一日日本橋區醫師會長に定期種痘施行並傳染病の發生蔓延の兆ある場合に於ける通報方を依頼した。二月二十四日各警察署衛生主任道路課出張所長掃除監督を招き、左の件を協議し町會長衛生組合長町總代に配慮方を依頼した。

- 一 消毒勸行に關する件
- 二 腸チフス豫防注射勸行の件
- 三 是期種痘勸行の件
- 四 假設救護所設置の件

第四編 帝都復興祭

- 五 假便所設置の件
- 六 路面下水の清掃に關する件
- 七 清潔保持に關する件
- 八 公共便所に關する件
- 九 ベスト豫防に關する件
- 一〇 通常兒童に關する件
- 一一 患者の送致並消毒に關する件

次に沿道の堵列奉拜者中市の特定奉拜者たる區劃整理委員區會議員學務委員及待遇者百九十一名には市の依頼により堵列位置を通知し、徽章の送付を了した。區特定奉拜者取扱は町會長同總代各種委員醫師會長齒科醫師會長區産婆會長海軍團長神職會總代郵便局長愛國婦人會日本橋幹事部幹事囑託醫治療醫區内各新聞社長在郷軍人分會役員在郷將校青年團役員高齢者千代田小學校兒童千代田小學校保護者會役員千代田小學校附近町會役員等二千七百名には金座通より千代田小學校表玄関に至る御巡幸道路兩側を選定し警視廳の認可を得て堵列奉拜の手配を整へて參拜者に夫々位置を通知し所定の徽章を送付した。亦小學校兒童及私立學校生徒の堵列區分及位置は左の如く定めた。

城東小學校青年訓練所生徒共坂本小學校日本橋區女子高等小學校は江戸橋三丁目玉置青年訓練所生徒は伊勢町角常盤小學校十恩小學校は地藏橋有馬小學校東岸小學校久松小學校は千代田小學校附近の金座通日本橋高等女學校は米澤町一丁目十四番地日本橋高等小學校演町小學校私

立裁縫女學校、私立池田女學校は演町三丁目金座通箱崎小學校は清洲橋詰に於て夫々奉拜せしむることとした。

次に奉迎塔及アーチの建設は三月二十二日完成、尙ほ街道筋中甚たしく不體裁に亘る建物工事場等の實地検査を行ひ、所轄警察と連絡して適當の處置をなした。以上の準備を整へ御巡幸當日は區特定奉拜者指導の爲、吏員十九名を千代田小學校附近に配置するの外清洲橋附近に堵列奉拜せる小學校及私立學校の生徒を整ふる爲四名の吏員を配置した。

二 式典祝賀會當日の施設

三月二十六日式典當日、區吏員は參拜者受付係の任務を帯ひて式典場祝賀會場等に勤務した。

三 其の他施設事項

本區各小學校に於て式典祝賀會當日左の施設は前叙の計畫に基きてこれを行ふ、尙ほ千代田小學校の施設經過の概要は左の如くてある。

打合會

- 一月十五日午後藤井教育局長外四名來校、御巡幸當日に於ける諸般の調査を行ふ午後五時三十分終了。
- 二月一日午前十時三十分復興局大野加藤兩事務官藤井教育局長外四名來校し屋上展望所備品に付協議す午後二時三十分終了
- 二月四日午後一時宮内省主馬寮近衛師團司令部東京憲兵隊警視廳の諸員と市土木局吏員電氣局吏員復興局土木部長以下部員二十三名來校、宮城より千代田小學校迄の御巡路に關する打合を行ふ午後三時退去

二月二十八日午前十時警視廳永田警部外二名久松警察署員井上警部市水道局武藤庶務課長外三名來校
千代田小學校及其の附近に於ける警衛上の打合を行ふ午後零時三十分終了

三月十一日午後二時市各都委員會開催の爲羽生祕書課長其の他二十四名來校協議を行ふ午後六時終了

三月十六日正午廣瀬助役各局長以下約四十名來校廣瀬助役より各室の事務の連絡統一に就て説明あり
午後二時終了

三月二十三日午後一時各係の打合會あり供奉官辨當の變更、救護室の變更を決定し午後四時終了

觀察

三月十四日午後一時各省政務次官中川復興局長官藤井教育局長來校し田村區長武見校長の案内にて校
舎内を一巡し午後三時退出

三月十七日午前十一時三十分安達内務大臣堀切市長其の他八名來校し田村區長武見校長の案内にて校
舎内を一巡し零時三十分退去

下檢分

一月二十三日午後一時宮内省武官行幸主務官外三名復興局吉村笠原兩部長外六名廣瀬助役近藤井福田
各局長井上學務井下公園各課長來校御座所供進所供奉官室拜謁所天覽室御展覧所御巡路等の打合を行ふ
午後四時終了

二月十四日午後一時三十分宮内省木下侍從武官行幸主務官外三名復興局中川長官外五名警視廳高橋警
務部長外三名憲兵司令部小山堀榮兩少佐堀切市長廣瀬助役小川近藤藤井福田各局長其の他四名來校し曩に
決定したる各室を一巡し午後三時三十分退去

三月十九日午後五時鈴木侍從長河合侍從次長中川復興局長官堀切市長藤井教育局長外四名來校各室一

巡の後午後六時退去

三月二十二日午後三時宮内省木下侍從武官行幸主務官外三名堀切市長白上助役廣瀬助役各局長來校各
室を一巡人員の割當等を行ふ午後四時三十分退去

修祓式

三月二十日午前十時十分より校庭に於て修祓式を行ふ、參列員百十八名午前十一時三十分終了

伊勢神宮參拜

三月八日松下庶務課長武見千代田校長は伊勢神宮に參拜をなし大麻を受け翌九日歸京す

新調品設備

踏壇一個毛布一枚枕一個、ハート形マット二枚、卓子掛一枚、新モス六反、消毒手洗用具二組

工事及借入品

電燈取外し、取付硝子掃除床油拭等の工事、椅子十一脚、折疊椅子六〇〇脚、衝立四基、火鉢一〇個、卓子一五脚、
窓カーテン、卓子掛二八枚、盃籠を借入れ、三月十二、十三兩日千代田小學校兒童用机腰掛全部を濱町箱崎町兩
校へ運搬し御巡幸當日は午前九時掛員は夫々部署に就いた

燒失小學校代表兒童奉迎

畏くも 聖上陛下には午後零時十分着御武見校長御先行、白上助役御先導にて御座所に入御次て堀切市
長の御先導にて第一第二列立拜謁者に賜謁の後、御晝餐遊はされ小憩の後、武見校長御先行堀切市長御先導
にて屋上御展覧所に成らせられ一旦便殿へ入御の上、天覽室に成らせられ、バルコニー出御市内燒失小學校
代表兒童四百六十四名及引率職員全員の奉拜を受けさせられ、午後一時二十五分還御あらせられた。

催物

区内各町僮物として其の一二を擧ぐれば次の如くである

本區東部町會聯合會は三月二十五、二十六日の二日間濱町公園廣場にて晝間午後一時よりたぬき屋連の演藝午後七時より十時迄文部省體育研究所推奨に係る帝都唯一の民衆踊演町音頭を演したる外公園にて煙火を打揚げた

濱町音頭歌調の一例

御幸むかへて輝く金座ヤツトナ

復興まつりもにぎやかによい／＼よいやきソレエ

本區七ノ部南茅場町外五箇所聯合會は三月二十六日坂本分園に於て晝間は九一大神樂夜は東京日日新聞社の活動寫眞(帝都復興と震災前の狀況を映寫し一般の觀覽に供する外終日煙火を打揚げて祝賀した。

尙ほ學校催物は区内各小學校は計畫に記載したる外三月二十六日舉式後各學校兒童總代の氏神參拜及各通學區域内の旗行列を行つた。

第二節 深川區

一 御巡幸施設

復興帝都御巡幸に際し本區施設の大要は区内御道筋裝飾及各種團體鹵簿奉拜等であるか奉拜は左表の如く配置決定した。

團體區分	奉拜人員	奉拜場所	區役所掛員數
各種名譽職及待遇者	五三	清洲橋詰北側	二
各種團體役員	六七	同	二
小學校兒童	四六〇四	清洲通り北側	一
軍人分會役員	六五七	清洲橋南詰	一
中村高等女學校學生	一一〇九	清洲通南側	一
深川町裁縫會役員	一一九二	靈岸町電車通西側	一
第二第六實業學校及深川商業學校生徒	一〇七	靈岸町電車通東側	一
区内高齡者	一一八	西平野町一先	四
深川區女子青年團員	一〇四	同	一
區役所及道路課出張所所屬員	一八七	海邊橋詰西側	三
小學校兒童	五九一〇	海邊橋—富岡橋間電車通西側	三
府立高等女學校工業學校小學校兒童	四五六七	黑江町電車通北側	二
市立高等商業學校工業學校各小學校兒童	二三七三	福島橋永代橋間電車通南側	二
府立第三商業學校青年團員及青年訓練所生徒	二二〇四八		二
計			三八

二 式典祝賀會施設

三月二十六日式典祝賀會當日に本區に於て午後三時より明治小學校屋內體操場に區長主催復興深川區

祝賀會を開催し、參會者三百三十三名復興祝賀の歡談を交へ盛會裡に午後三時十分閉會し尙ほ一同に御巡幸復興深川區全圖を記念品として贈呈した。

三 其の他の施設

三月二十六日本區各小學校に於ては兒童に對し帝都市民としての自覺を促し市民精神作興に資する爲帝都復興式典に關する講演會を開催した。

催物 本區催物は深川公園清澄庭園本村町安田製釘所の三箇所に於て午前九時より午後九時迄花火を打揚げ、深川公園深川小學校前廣場扇橋小學校附屬小公園の三箇所に舞臺を設け正午より午後九時迄連續各十數番の餘興を演じた、學校催物は三月二十六日區内尋常小學校同附屬幼稚園兒童幼兒及補習科及小學校女兒並實業補習學校女生徒の旅行列を午前十時より各校毎に補習科高等小學校實業補習學校の女兒女生徒は別に一團とす、通學區域内に舉行して大に復興を祝賀し、高等小學校尋常小學校補習科の男兒及實業補習學校の男生徒の一團は午後五時三十分提燈行列隊を組織して、深川小學校庭に集合、區長は團長となつて「吾人は滿腔の誠意を捧げて帝都の復興を祝すると共に今後經濟の復興に市民精神の作興に一段の努力を要す」と訓話の後、復興歌合唱午後六時深川高等小學校長指揮の下に出發、復興歌を高唱しつつ區内樞要街路を一巡して同八時深川公園に到着、團長の發聲に依り萬歳を三唱して解散した。

第三節 本所區

一 御巡幸施設

御巡幸當日本區施設の主なるものは區内の裝飾、奉迎塔の建立、源森橋の裝飾等であるか其の他

奉拜所として石原町交叉角二徳園内に設備し亦高齢者接待所を設けて奉拜せしめた、而して奉拜者には特に當日記念品を贈呈した。

二 式典祝賀會施設

三月二十六日式典祝賀會當日は本區に於て前記計畫通り旅行列、煙火打上を行ひ祝賀の意を表した。

三 其の他の施設

本區内小學校は當日祝賀式を行ひ晝間旅行列夜は提燈行列、音樂會等を催した。

記念事業 本區復興祭記念事業として區勢要覽を刊行し、五〇〇〇部區勢を統計に表示し、其の裏面には復興の本區地圖を印刷し之に言問藏前の二橋隅田錦糸兩公園區役所震災記念堂區内小學校全部國技館本所公會堂兩國橋驛及街衢の一部合計三十七箇所の寫眞を配して印刷し、各關係方面に配布した更に本所區史を刊行(五〇〇部)、區民及町會記念事業としては菊川町一丁目向島押上町々會は帝都復興完成を記念すため、之か功績者の表彰を行つて記念品を贈呈し、太平町二丁目町會は町内七十歳以上高齢者の表彰を行つて記念品を贈呈し、其の他綠町五丁目町會は帝都復興完成を記念する爲め町會事務所の建設、申ノ郷元町々會は御巡幸を記念する爲原庭停留場より枕橋に通する十五米道路兩側延長九百米に對し百二十本の篠懸木を植樹し、新小梅町向島小梅町小梅五町向島中ノ郷町向島須崎町各一部を區劃整理第六十六地區完成尙ほ松代町々會に在りては復興記念として復興大黒天(金色貯金箱)を調製し各戸に配付し貯蓄心の涵養に努めた。

催物

本區催物は區東兩國三丁目北部相生町五丁目菊川町一・二・三・四・五丁目五箇町聯合永倉町柳原町三丁目茅場町三丁目中ノ郷業平町以上各町會は町内兒童を主とする旅行列を爲し、綠町一・二・三・四・五丁目五箇町聯合町會の如きは参加者に奉祝菓を給與し、三笠町中ノ郷瓦町二箇町聯合小梅業平町小梅瓦町新小梅町茅場町三丁目松代町向島須崎町中ノ郷業平町以上の各町會は町内兒童青年團在郷軍人等を一團とする提燈燈列を行ひ、中ノ郷元町中ノ郷瓦町二箇町聯合小梅瓦町新小梅町々會は参加者に奉祝菓を給與した又東兩國三丁目北部菊川町一丁目同二丁目柳島町以上各町は神輿の渡御を行ひ、御祭氣分を満たし、横網双葉會柳原町三丁目小梅瓦町向島須崎町以上各町は獅子舞神樂地方民謡手踊茶番狂言活動寫眞等何れも數種の餘興を行ひ、双葉會は參集せる子供に對し、菓子を給與し、松井町一丁目町會に在りては各戸に對し、赤飯折詰菓子祝酒を向島須崎町々會は貧困者に白米を中ノ郷業平町々會は各戸に對し、奉祝菓給與等を行ひ相互に復興の喜びを分かち太平町二丁目町會に在りては祝賀會を開催し、俱に復興を祝賀した尙ほ横網双葉會小梅瓦町新小梅町向島須崎町以上各町會は御道筋沿道に奉拜所を設け、一般會員の奉拜を爲さしめ、又中ノ郷竹町の如きは特に七十歳以上の高齢者に對し適當の奉拜所を設け、千歳一遇の光榮に浴さしめた。

第四節 淺草區

一 御巡幸施設

御巡幸當日本區の施設は奉拜設備を整へた即ち名譽職待遇者町會長各種委員各種團體長神職寺院關係區内新聞社長等の奉迎送の爲め田原町、藏前片町の二箇所に亦高齢者の爲に花川戸町東武鐵道工事場前に奉拜所を設置し、奉拜者に一定の徽章を交付使用せしめ、何れも之か整理に吏員

をして従事せしめた。

二 式典祝賀會施設

三月二十六日本區は公會堂に於て復興祝賀會を開催し、參會者一同に記念品を呈した、會後の餘興は淺草公園藝妓組合の舞踊其の他數番の寄附餘興あり、又淺草公園内にて晝夜に亘り花火二百發を打揚げた。

三 其の他の施設

本區内の學校は御臨幸當日は奉迎送を行つた亦晝間には旗行列夜間は幻燈の催しかあつた、青年團は團長以下五百餘名高張提燈、團旗を先頭にホウズキ提燈を打鑿し、市内を行進、宮城内に集合萬歳を三唱して復興祝賀の意を表した、其の他學校記念事業としては精華小學校小島小學校待乳山小學校千束小學校松葉小學校柳北小學校は校庭に記念植樹し、福井小學校は帝都復興記念文集の編纂、學校校庭の完備、學習設備を整へた、柳北小學校は復興祭の所感文を蒐録、正徳小學校は兒童貯金の獎勵教育研究會修養會を開催した。

記念事業

本區南松山町會猿屋町會は復興祝賀會を開催し、區劃整理事業功勞者を表彰した、地方今戸町會は今戸八幡神社に記念樹献木、今戸公園へ國旗掲揚場を新設し、新猿屋町會は記念品を町會員一般へ贈り、尙火災報知機を設置し、今戸町會は區役所警察署等の願届相談所を新設し、下平右衛門町會は、淺草橋以東柳橋に至る神田川北河岸へ櫻、柳を二十餘個所に植樹し、向柳原町二丁目町會は町會員一般へ記念品を贈つた

催物 本區催物は公會堂に於て三月二十四日以降三日間淺草公園藝妓組合主演の舞踊及諸演藝を出演して一般の觀覽に供し地方今戸町神吉町馬道町七丁目町會は提燈行列を行ひ、象潟町會は町内に餘興場を設けて演藝を行ひ一般の觀覽に供した。

第五節 神田區

一 御巡幸施設

御巡幸當日本區施設の重なるものは奉拜所の設備にして奉拜所は錦町一丁目十二番地及今川小路一丁目六番地九段下狙橋際に跪座奉拜者の爲蓮毛布座席を準備し午前八時迄に名簿と對照の上入場奉拜せしめた沿道各町は一橋通町、南神保町、今川小路一丁目、同二丁目、同三丁目、北神保町、西小川町一丁目、二丁目、中猿樂町、三崎町一丁目、二丁目、猿樂町一丁目、表神保町、表猿樂町、錦町一丁目、二丁目、小川町、淡路町一丁目、美土代町四丁目、佐柄木町、雉子町、連雀町、新石町、須田町、小柳町、平永町、元柳原町、北乗物町、美倉町、紺屋町、松下町、材木町、東紺屋町、東福田町、松枝町、岩本町、同朋町、末廣町、五軒町の歩車道境界に一樣の幔幕を張り提燈國旗を掲げ祝賀裝飾を施した。

二 式典祝賀會施設

三月二十六日午後三時本區議事堂にて區名譽職公職關係者町會長其他四百六十三名を招き神田區帝都復興完成祝賀會を舉行し當日職員備人七八〇名に對し職員一圓備人五拾錢の酒肴料を贈與した。

三 其の他の施設

本區市立錦華外十二小學校四年生以上及一橋高等小學校一二年生兒童並佐久間橋本神田錦華練成商工専修今川専修女學校生徒及第一第二青年訓練所生徒は御巡幸沿道既定の奉拜所にて奉拜し市立各小學校に於ては式典當日祝賀會舉行の上復興唱歌の唱和し校長の訓話等かあつて會を閉ち當日兒童には祝菓を給與した。

記念事業

宮本町	府社	神田神社	表神保町	無格社	稻荷神社
三崎町二丁目	村社	三崎稻荷神社	富山町	無格社	稻荷神社
駿河臺紅梅河岸	村社	稻荷神社	松富町	無格社	稻荷神社
柳原河岸	村社	柳森神社			

以上の七社帝都復興完成報告祭執行神饌料を供進し其の他區民及町會記念事業として表猿樂町會は復興完成を機として震災前震災當時復興途上並復興後の町内状況を撮影して記念寫眞帳を編纂町内全會員に配付し又町會報を發行した。一神會は子供神輿及大太鼓を新調し且敬老の意味にて町内高齢者四名に木杯を贈呈した。

龜住町々會は震災當時同町交番に勤務中の警察官二名に對し當時町民救護の大なる功勞に報ゆる爲銀盃及感謝狀を贈呈し尙前町會役員現役員に對し町務に盡瘁せる功績に對し銀盃及感謝狀を贈呈した。

催物 本區の復興祝賀催物として三月二十六日午後二時より神田區青年團主催左記分團參加驛傳競走

を開始し優勝者に夫々賞品を呈し盛會裡に終了した其の参加團體は千櫻分團西神田分團龍分團松住町
蕾會青年團神田橋青年團和泉分團佐久間分團中猿青年團今川分團昌平會青年團である更に同日夜東京市
聯合青年團提燈行列に参加し終了後當區分團のみ單獨にて區内廻橋より神保町小川町神田橋通を左折し
て三河町皆川町塗師町紺屋町地藏橋通を一直線に和泉橋通松永町より左折して五軒町練成小學校迄進
解散した。

表猿樂町會は三月二十四日午後六時より區内猿樂町錦華小學校々庭に於て同町會主催東京日日新聞社後
援にて映畫會を開催盛會裡に終了した三月二十五日午後六時より會員八百餘名は提燈行列を行ひ町内を
一巡したる後村社三崎神社に参拜解散した。

神保會は三月二十四日より三月二十九日迄六日間通神保町六番地路上に神樂殿を建て大神樂を奏し南乘
親和會は南乗物町十番地先空地に舞臺小屋を設けて三月二十五日二十六日の兩日喜劇茶番奇術を催した
三河町會外十六箇町會は何れも祝賀會を開き帝都復興を祝賀した。
學校催物は區内市立十四小學校兒童の旅行列で夜間は各補習學校生徒の青年團提燈行列に参加して何れ
も盛會に終了した。

第六節 芝 區

一 御巡幸施設

御巡幸當日本區の施設は御道筋沿道に小學校生徒町會長青年團其他團體及高齢者の奉拜場
所を整へ豫定の如く萬事遺漏なく奉拜を了した。

二 式典祝賀會施設

二月二十六日式典當日は本區としては區吏員を式典場祝賀會等の支持任務に派したる外特記
すべきものはないか當日午後一時より式典後本區公會堂に於て名譽職町會長其の他有志吏員一
堂に會し式典後祝賀會を催した。

三 其の他の施設

三月二十四日御巡幸に際し市立小學校職員生徒代表三千六百名は愛宕町停留場御成門停留場
間(延三六〇坪)に於て奉拜し二十六日式典祝賀會當日は市立小學校生徒全部各通學區域内に旅行
列を行ひ尙ほ同日各學校に在つては舉式後職員生徒代表は各鎮守神社に参詣報告式を行った。

催物 區催物は區の祝賀會に於て芝區青年團管絃樂團のオーケストラ區民催物は本區櫻川町會に於て
三月二十四五六日の三日間盛大なる祝賀會を催し餘興の芝居茶番を續演した。

第七節 本郷區

一 御巡幸施設

御巡幸當日本區の主なる施設は早朝より御道筋に高齢者の爲筵を敷いて奉拜所を構ふると共
に女子青年團員をして高齢者を接待せしめ祝菓を贈呈した其の他町會代表者の奉迎所を設置係

員の案内にて遺漏なく鹵薄を奉拜せしめた。

二 式典祝賀當日施設

式典當日區祝賀式を區役所樓上に開催し當日區長は左の式辭を朗讀した。

帝都復興完成シ畏クモ

天皇陛下ニハ本日市内復興ノ狀況ヲ御巡覽遊ハサレ又本月二十六日帝都復興完成式典ニ親臨アラセラレントス此ノ嘉辰ニ當リ茲ニ區内各方面ノ有力ナル代表者各位ト相會シ帝都復興完成祝賀會ヲ舉行シ式辭ヲ述ルコトハ本職ノ最モ光榮トシ且ツ欣幸トスル所ナリ

回顧スレハ大正十二年ノ大震災災ハ帝都ヲシテ其ノ大半ヲ烏有ニ歸セシメ實ニ慘憺ヲ極メ之カ復興ハ蓋シ一大難事業タリシナリ當時

天皇陛下ニハ深ク之ヲ軫念遊ハサレ悉クモ大詔ヲ渙發シテ對災復興ノ大方針ヲ指示シ給ヒ朝野之ニ感激シテ復興ノ施設一ニ聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期セリ

爾來當局ハ特別都市計畫ヲ樹立シ我東京市ヲシテ舊態ニ復スルニ止ラス面目一新シテ政治經濟其ノ他凡ユル文化ノ樞軸ヲ爲ス帝都トシテ甦生セシメ近世都市トシテ遺憾ナキ様諸般ノ施設ノ完備ヲ期シ區民亦此ノ一大試練ニ際會シ捲土重來ノ意氣ヲ以テ凡ユル困難ニ耐ヘ一路復興ノ爲メ勇往邁進シ悲戰苦闘ヲ重ネテ斯ク上下一致ノ努力ニ依リ克ク其ノ目的ヲ達成シテ今日ノ歡ヒヲ見タルハ所謂轉禍爲福ノ實ヲ揚ケタルモノト謂フヘク洵ニ同慶ノ至リニ堪ヘス熟々思フ七年前ニ致セハ感慨ノ實ニ無量ナルモノアリ今ヤ復興ノ街衢ハ壯麗且ツ整然トシテ帝都ノ面目ヲ一新シ交通、保安、教育、衛生、社會事業等凡ユル諸相ニ於テ統制セラレ之ニ依リ區民ノ便益ハ愈々甚大ニ福利ハ益々増進セラレタリト謂フヘシ冀

クハ區民諸君協力一致更ニ區勢ノ進展ヲ計リ所謂理想的都市ヲ現出スヘク尙一層努力アラントヲ期カ蕪辭ヲ述ヘテ式辭トス

昭和五年三月二十四日

東京市本郷區長 前田賢次

以上區祝賀式を舉行する一方本區小學校兒童の旗行列は各通學區域を巡回し區役所前にて萬歲唱和して解散し夜間本郷青年團は區役所に集合、ラッパ鼓隊を先頭に提燈行列を舉行し宮城二重橋前にて萬歲三唱の後本區まで行列し區役所前にて解散した。

三 其の他の施設

参拜及感謝並催物

本區復興事業關係區會議員、區學務委員、區劃整理委員、燒失區域町會に感謝狀を贈呈した。又區長は三月二十五日各神社に参拜神饌料を供進して復興を奉告した。當日催物しては三月二十六日湯島天神町三丁目町會外十七町聯合し神輿渡御があつた。

附記

上述七區の外東京市全區は一樣に御巡幸及式典並祝賀會の施設をなして帝都復興興祭に備へた。本記中下谷其の他の區は同祭當日の施設は前章各區準備其の他の章に掲記し本章に之を省略した。

第五編 帝都復興祭結了

第一章 施設物公開並展覽

第一節 祝賀會場公開

三月二十六日帝都復興完成祝賀會終了後、日比谷公園を公開すると共に祝賀會場と公園内に設けたる各種餘興催物を一般市民の觀覽に供したか園内は數萬の觀覽者に滿され、帝都の復興に恰もふさはしき連日の賑ひを呈した。

第二節 陳列品一般展覽

畏くも 聖上陛下三月二十四日復興帝都御巡幸の御千代田小學校に御立寄あらせられ、復興局東京市の出品陳列したる復興關係資料には御興深く天覽遊されたることは、前編に於て謹叙の通りであるか更にこの光榮ある天覽品は三月二十五日、二十六日、二十七日の三日間に亘つて一般市民に公開した、參觀者實に一萬數千に達し稀有の盛況を呈した。

第二章 事務機關廢止並施設物處分

第一節 帝都復興祭事務委員會廢止

帝都復興祭は三月三十日を以て滞りなく終了し、東京市は訓令第九號に依り同月三十一日帝都復興事務委員會規定廢止の旨、市各局課所院區役所所屬公廳掃除監視員等に通達した。

第三節 復興祭施設物處分

帝都復興祭終了と共に關係施設物一切を解體し、本市所屬の主なるものは二重橋前の奉迎塔、日比谷公園の帝都復興祝賀會々場等であるか奉迎塔は三月二十九日より解除に着手し、電氣設備の撤去と共に同月三十一日に終了した祝賀會場は前者と同様解除し二者の建築費及請負者を附記すれば左の如くである

奉迎塔

建築費 金七千九百九十圓

請負者 藤本清治郎

祝賀會場

建築費 金二萬七千六百七十九圓

請負者 日本裝飾株式會社

其の他復興花電車七臺は三越呉服店と高島屋呉服店をして分擔調製せめしたるもので其の跡仕末は前記契約に従ひ三月三十一日兩店に於て之を處分した。

附記ノ一 復興帝都

帝都の復興全く峻り、近く陽春三月二十四日畏くも、天皇陛下には甦生せる復興帝都を御巡幸遊はさる。輦轂の下二百萬市民は大御心の厚きに感泣し此處に新装を凝せる街衢も市民と齊しくこの無上の光榮に喜び勇んで、陛下御巡幸の日をお迎へ申し上げんとして居る。今日帝都の再生せる姿を見て市民は齊しく感慨無量である。七年前の大震災災に無残に蹂躪され破壊されて見る影もなく黄灰芒々沙漠と化し去つた有様を見ては、帝都復興絶望の嘆聲の出つるのも無理はなかつた。

悲惨な廢墟を目の當り見せ付けられた市民の間にこの嘆聲が起つたのみならず國外の批評てさへこの甚大な打撃をはね返して復興を計る市民の努力に期待することを一應も二應も躊躇した。東京都再起の悲觀説か唱導された所以である。それほとに無殘な絶望的な打撃であつた。併しこれ位の打撃で尻古垂れる東京ッ兒てはなかつた傳統と意氣に燃える帝都市民は奮起して灰をかきわけ復興の礎を据えた。復興に優る供養なしの悲壯な標語の下に一意専念復興へと奮進した。見よ！華々しく裝ひ立ちガッチリ肩を並へて甦生した姿を！この二百萬市民の意氣の結晶涙と汗の所産は今や百萬卷の讀經よりも千萬

の卒塔婆よりも十萬餘の犠牲者の靈を慰さめるに充分である。

僅々七年の間に、灰の都をして世界大都市と比肩して恥つかしくない大都として建設した、東京市民のこの絶大な努力は今や世界環視の中に驚異的な稱讃を恣に浴びて居る。外觀の化粧は充分に出来た外形の復興は先づ舊都に倍して、世界の東京都として建設された。併し外形的の復興か全く竣つたとて喜びに酔ひ痴れるには未だ々々重大な宿題が数多く横つて居る。ほんたうの意味の復興への首途はこれからである。——外形復興のゴールに入った市民は、その瞬間から内容復興のスタートラインに立たねばならぬ。震災に依つて巨億の富を失つて更らに帝都の復興費として莫大な借金をした市民は、経済的復興を圖らねばならぬし、近時大資本に迫撃を受けて居る中小商工業者の問題や洪水の如く街頭に溢れる失業者群の救済も考へねばならぬし、内容復興の宿題は山積して居るか、筆者は此處で内容復興問題を論ずるの目的ではないから筆を急ぐ。

大震災を劃期として帝都のプロフェルが一變した事に就いては去る十五日の朝日新聞は語つて居る。表現派分離派ライト式ロマネスクさては正統派反動派インタナショナル式のものスペイン風のものと各種各様いづれもモダンスタイルを競うて帝都の建築界は正に百鬼夜行の有様だ。

その様式の多様にして大膽な點ではおそらく世界一のモダン都市たとなし、これは誇か恥かと論じて居るか建築界の現象に止まらず、帝都の變りやうは全く横顔の變りやうたけとは言へない。

震災前の東京都に思ひ較へると、その變り様は少し淺間し過ぎる程である所謂江戸情緒なるものも、震災の祝融子か持つて行つて仕舞つたのか、後から出来る街は凡て明るい輝かしい西歐外國の街並になりつつある。いや街の變りやうたけては、職業上の變化思想界の混沌等々々々震災前の東京の傳統的な香ひの洗ひさらひ灌腸されてしまつたかの觀がある。

三月二十四日の 陛下御巡幸の御道筋は大體御内定の由であるか、筆者は御内定の御道筋をたどつて昭和帝都の筆栗毛をものしやうと思ふ。筆栗毛も大仰たか御道筋の近傍に稚拙なスケッチを試みようとするのである。

變つた變つたと言つてもどんな風に變つたのか何う言ふ風にモダン化したのか、寛政の十通舎一九先生はとても鈍足で昭和のスピード時代のお商には合はないから、筆者はスピード時代に忠實に帝都の目抜の場所を駆け廻つてせい／＼テンボの早い所て喝采を拍さうと言ふ魂膽である。

流行的の感覺を尊重して、徒らに江戸への感傷的懐古或は明治への對比を重しとせず、専ら昭和の帝都のみをスケッチして行かう。

麹町區と言へば、畏くも皇城の地域を思ひ浮へ、次いで丸の内を想起する丸の内と問へば丸ビルと答へるのか近代人も常識的の神經のやうである。それ程新メトロポリス丸の内界限は近代時のコンモンセンスに親しい。

否近代人の常識百科全書には丸の内が特大なベエジを占めて居る。凡る職業百態を抱擁し、常に時代の最トップを切る新職業の策源地として瞬時も停滞しない。昨日の新聞はマネキンガールの丸の内出現を掲げて都人士の耳を刺しマネキンボーイの出現を揶揄して喝采を拍するかと思ふと今日は既にカリカチュアならぬ本物が悠然と葉巻を喰はへてショウウインドの中に收つて居る。それが丸の内の本態である。高速度のビジネス資本のりう／＼たる動脈が間断なく唸りつつ居るのか今日の丸の内である。亞米利加のドル文化百%の機械化を要求する能率膨大膨張落頭落凡る資本の脈搏が空中を駆けるエルテルのやうにビルディングの角度から放射される。併し行き交ふ雜關の巷にフト立ち停つて歴史のベエジをくるとプラタナスの陰から、圓タクフォードのガソリンの尻尾から我々は武藏野の香ひを想起する。

倭名抄載する所の日頭郷或は今の皇城附近の郷名なる可しの昔昔はいさ知らず僅々半世紀前まではこ
こは立派に武蔵野の一部たつたのである。今丸の内と總括的に呼ばれる部分で南部に屬するところは維
新後大名屋敷を取り拂はれ日比谷公園の處から大手町方面へかけて鍵の手に練兵場か設けられ茫漠た
る原野で月夜の晩なと狸か大鼓小鼓を鳴らして同じ穴の狸共をも訓練したのはそれ程遠い昔のこと
はない。何々殺し何々殺しとうす氣味悪い犯罪名所暗黒の原つばたつたとは今の若い者には信じられな
い。明治二十二年陸軍省で持て餘して時の富豪連を説得しても誰一人買手が無く結局岩崎の三菱か貧乏
籤を引いたつもりで坪何錢とか何圓とか巷説一致せず何厘説或はハッキリ五圓也と言ふあり兎に角
ロハに毛か一本生えた位の法外の捨て値で背負ひ込みそれでも世間の物笑ひの種になつて居たとはウ
ソのやうな話である。それかとうた四十何年経つたか経たない今日あの通りの土地になつて坪八百圓と
か坪一萬とか土一升金一升を文字通り自乗倍したウソのやうなほんとの話なのである。海の中から入江
の漁師町となり更に武家屋敷に進出し練兵場と化し遂に現在のビルディング街になつたのである。震災
後急激にビルディングが増加したことは讀者諸君既に御承知の通りである。よく軍縮の標本に引つぱり
出されて戦闘艦一隻の建造費で丸ビル十幾つ造れるとか造れないとか政治演説にまで引用される丸ビ
ルは敷地二千八百二十一坪延坪一萬八千二百八十坪同ビル通勤者五千人事務所三百六十一と言ふ老太
なもので震災後の膨脹は勿論向ひの海上ビルを増築震災で無残な犠牲者を出して血腥い記憶を残した
内外ビルの後には昭和ビル續いて昭和銀行時事新報社等に震災後の丸の内發展は目まぐるしい。
東京驛前から少し日比谷方面へ進んで馬場先門に至ると丸の内界隈で最も落ち着いたビルディング
街を見る赤煉瓦の建物に時代の錆ひか付き街路趾木の公孫樹の年齢も適しい情景である。此の近所は八
代洲河岸即ち丸の内と改稱になるまでの八重洲町であつて邊りは入江で漁師の賤か家か散點して居た
居る。

とは驚く慶長年間ヤンヨウスと言ふ和蘭人が居住し八代洲河岸の名はそこから出た。明治二十七年此
の界隈が草原たつた時分只一軒赤煉瓦の西洋館が出来それが工費タツタ二十萬圓で建てつたとはその
名を三菱銀行丸の内ほんとうの草分け少し先へ行くと市廳舎敷地の角にとつもない大きな赤十字社
の建物がある。右した有樂館を初めとして大小無数のビルディング。
馬場先門の通りの端れに來ると田舎の縣廳然たる芝土堤に圍まれて市廳舎か古色蒼然として立つて
居る。

玄關には江戸開拓の勳一等の太田道灌のカーボーイ姿と徳川家康の陣中姿の像か人目を惹く。今てこ
そ赤煉瓦なそと時代に遅れた謙遜した建物になつて居るか建設當時はモダンな點て市民を唸らせたも
のである。其の建築費用か江戸幕府時代の自治機關たる町會所の餘剰金寛政以來七分金と謂はれて町費
節約額を積み立てた六十七萬餘の金のうちで出来上つたことは有名過ぎる話である。

馬場先門に引返して少し先に進むと資本主義全盛の社交俱樂部たる東京會館永年芝居王國の王座を
占めてついで此の間松竹トラストに合流された帝劇がある。日比谷の角の警視廳の嚴ひしい併し震災前の
市民にお馴染の赤煉瓦は櫻田門外司法省前に堂々モダン建築の工事中で都市美かとうのこうのとお冠
を問題にされて居る。日比谷四角の跡地は震災の記念地として保護するのか全市中震災直後の光景を如
實に荒れた儘になつて居る。

次は震災後の昭和丸の内展望から逸してならぬものには新聞社の丸の内進出がある。前掲の時事新報
社仲通の電報通信社敷寄屋橋畔の東朝お隣りの東日報知ずつと駆け足して丸の内の端れに來れば毎夕
逆に戻つて圖書館前の都ジャバンタイムスガードの兩側に中央日本川向ふに國民ジャバンアドヴァタ
イザイ讀賣等市役所を中心にして一二哩直徑圓周上にこれ等の新聞社か夫れ々々必死の火花を散らし

て居る。

近代の高速度を具體性を以て示す場合は誰てもか新聞及新聞社をその念頭に描く筈である。若し描かないとすればその人の頭か既に時代の尖端を感じないことを意味する。しかし左様に近代こそニュース時代と言へよう。一時間に四頁大で八萬枚、十二臺の機械で一時間九十六萬枚を濕布のやうに奔出する高速度輪轉機電光ニュース廻光燈イルミネーション活字活字活字の競演亂舞有樂町驛に積まれる新聞の出流れる投げる積む走る丸の内界限はさながら新聞と通信の目まぐるしい競技場である。ダグがビクフォードを肩車に乗せて現はれる。草人かモンゴリル髭を撫して入京する。東朝の講堂た、東日のレセプションたと、映畫以上の活躍をする。高速度の特使、グラフィックエベリンかこのプロックの一角を切ると、もう各新聞社は全體容を歪めて戦慄し飛躍する。新聞時代なればこそである。

昭和東京名所行脚のプログラムに、汽船の胴ッ腹のやうな東朝か入り、東日の超輪轉機か増える。又故なきに非ざるなりである。

次に此の近所名代の山カン横丁、岩崎おでんやかなくなつて、月賦階級のルンペン氣焰か聞えなくなつたのはもの寂びしく、褐色の怪奇な建物で野蠻人の食欲をそそるやうな電氣事業關係の電氣俱樂部も震災後の新名物と言へやう。更に此の近所は人も知る官舎長家かあり俱樂部横丁である。

往年徳川幕府時代は此處ら一圓から八重洲町大手町方面へかけて十萬石内外の大名屋敷の塀を連ねる故を以つて大名小路の異名かあつたか昭和の近代は資本家小路俱樂部小路又は新聞社小路である。海外映畫のファーストラン・ハウスとして映畫好きの歡樂境であり、トキキにトキキを忘れさせる今の邦樂座のあたりか名判官として令名高かつた大岡越前守か居つた南町奉行所の跡たと知れば時代の推移とは言へ人々に奇異な念を抱かせる。

日比谷の交叉點は銀座四丁目と共に、ゴーストツブの大關所、一部昭和帝都の規模を観客に紹介する立派な建物を繞らした。また往來雜沓の交叉大通りである。往來人の流れを見れば日比谷は日曜祭日を利用しての善良な家族連れかサイレンと共に駆ける。駆ける一駆ける。

又日比谷の交叉點は銀座のそれに較べて遙かに、田舎の觀光客か多い、勤人や學生か田舎の父親や、母親を案内してくすくすつたい顔で横斷する。日比谷を通ると銀座を通ると各々の氣持ちか變つて共に昭和の交通に窮はるる變つた觀察の一つである。

日比谷の交叉點に立つて(正直に言つて眞夜中てなければ立てないか)四顧すれば何れも絶佳の展望お濠に沿うて外櫻田の方を見れば篠懸の四列竝木を通して司法省參謀本部方面の眺めは世界に誇る景である。丸の内方面を顧みると殊に宵の景色は美しくビルディングの各層から洩れる燈はお濠はうつてダイヤモンド、ルビー、サファイヤの珠數又柳の竝木の蔭をかすめて、まんまろな月かお濠に浮ひ皇城の石垣の松籟と共に詩韻か深い。

日比谷公園は人も知る、歐米花壇式公園の白眉往年の國民大會の群衆は時代と共にオーケストラの聴衆と變り、××の夕のデレタントて埋まる。

廣場は大供小供のスポンヂ野球で賑ひ、ベンチには都の塵埃を避けて寛ろく人々往還に出れば右側に、常磐生命、三信ビルのクレインの響裏の日比谷大神宮は震災後九段に引越して、昭和の新郎新婦の姿は消え、少し先へ進むとライト式の帝國ホテルの建物かある。オリエント風味たつぶり千客萬來外國人のガレージ舊華族會館勸銀の封建的いかめしい建物、その裏は丸の内のチェインブロック東洋ビル、政友會本部大阪ビル仁壽生命の高層ビルかそれ／＼そそり立つて居る。日比谷公園角の市政會館は人も知る、安田翁の寄附金四百萬圓を建築資金として建つた總建築費三百萬圓で茶褐色、タイル張の色調は周圍の緑の風

致と階調を失はず殊に公園廣場に向いた公會堂は二階、三階、四階、五階、大通りの大ホール、廣大なステージ、土間二千三百六十八人ギャラリ、一千三百五十四人の定席音楽會に政談演説に數千の聴衆を吞吐する有様は昭和の偉觀である。會館前通りの竝木道は美しい散歩歩道を持つ公園課の自慢なたけあつて落ち着いた床しい通り、讀書に疲れた讀書子の目か圖書館の窓からボンヤリ注かれる。

大平ビル飛行館東電の各ビルは道を挟んで立ち朝鮮臺灣の各總督府東京出張所、各政黨俱樂部等が各兩側に割れて居るのは意識的な對立のやうな五月の爽やかな風か吹けば、メイドの轟きわたる行列か二哩も三哩も続くやうになつたのも近代の年中行事。

品川を起點としてえん／＼三ノ輪に續く第一號幹線道路は世界に誇る昭和帝都の大動脈である。幅員二十二米乃至四十四米延長十三軒半に及ぶ大道路で、さながら帝都の帯の役目を果す。起點の品川は昔の面影を全く失ひ、哀れな凋落振りを示し、往時商家軒を並べていんしんを極め、東海道の上り下りの旅客を踵を接した賑ひ振りは最早昔の夢である。市電路と省線に挟まれて悲鳴を擧げて居る細長い凹地の地帯は殊に哀れ深い。東海道の線路縁まで浪かヒタ／＼打ち寄せて居たのは、僅二十四五年前のこと、今は見はろかす芝浦の蔓の浪で、かすか遠くに棧橋の汽船の煙を見るのみである。

第一號幹線道路は芝口に這入つて初めて昭和の色彩を濃く出して生々と脈動し初める。芝口で銀座と幹線道路は左と右に岐れ、垣々砥の如き大道路が京橋をつん抜き、日本橋を走り、神田、下谷へ延びて、三ノ輪に達する。芝口から右に入ると蓬萊橋際に緑樹帯の小公園が目立つ。右は汐留驛構内、演藝宮の森かこんもり盛り上かつて見える。

先へ進む。右は築地一帯、左は銀座裏、アスファルトの車道をひつきりなしに自動車か飛ぶ、オートバイ、サイドカー、自轉車か帯のやうにつなかつて走る。走る走る！圓タクの流しは姿も見せない。自轉車を引きす

つた小僧か車道の間中に挟まれて、動きかとれないでまこついて居る。自動車か秒間途絶えると、小僧は機敏なモーションに移るか、直ぐ帯のコブをたくり寄せるやうに、大きな奴か疾走して来る。停止二分！

所々に交通巡査か時計を握つて、速力監視に目を光して居る。

歌舞伎座を右に見て進むと、トラツクの行進はますます／＼ひとくなつて来る。屋並はヂグザグで奇怪な建物が時々目を惹く。

歩道はひとく寂しい。時折岡持を持った女中や、小守女が歌ひながら通るのか目立つたけた。

何しろ二三十間表には銀座の賑はしい通りを控へて居るので、幹線道路の寂しさは殊に往來の人々に感し入らせる。

京橋區役所近くには寫眞のやうなY字型の三吉橋がある。横町大通りとの交叉點に出ると、廣々とした感して遙かに東京驛の塔が見える。凡そ建物は百鬼畫行といふていたらくた。赤黄橙から青黒と色とりとり、形は皆駄菓子に似て居るからお可笑しい。ねぢり棒コンベイ、糖おこしビスケット等て食欲も更に感じない。駄菓子に交つて時々ドイツケーキのやうな建物か飛び出す。日本橋に這入るとそれか尙ほひとくなつて来る。白木屋の姿を斜めに見ると一寸目かさめる。少し先に進むとウファのセットに使へそうな某商會の建物がある。江戸橋筋には大阪おこしのやうな日本橋郵便局か頑張つて居る。玄關の圓柱はさながら青蓮を被せたやうな野菜ソリスを想はせる建物の肌色は、折柄午下りの陽光を浴びて、不思議な哀感を呼び起す。

江戸橋を右すればゴールドラッシュの世界、左すれば、西川律傳白木屋通りのデパート街、江戸橋を越すと、緑樹帯が目惹く。棕櫚のヌーボー姿か亞熱帯の情緒を放散し、川風にユーモラスな音を立てて文字通りオアシスの感し左を見ればお江戸日本橋市電バス、人、人、人が黒々と通る。橋袂の帝國製麻の赤煉瓦か親

しく呼びかける。人も知る往時の魚河岸も築地に引越して今はひっそりかんと静まり返へつて居る。江戸橋を右すれば下町の盛り場人形町水天宮ボブに交しつてつぶし島田の江戸娘を見るのは廣い東京にここはかりあらたかな水天宮の鈴をチャラ／＼鳴してボン／＼と拍手を打つて拜んで歸りはユニオンダンスホールで一踊り踊つて矛盾を感じない昭和のキャラクター情調。鐵砲町の淺草行電車を横断して神田に入ると屋竝か急に落ちて寂しい感じ、歩道にメク／＼温そうな感しの砂か盛り上かつて居て完成まで未だ一二週間ありさうな所か二三箇所目につく。

岩本町に來ると、又急に賑かになる。右角の古着の卸賣市場は老大な建物で、廣くはたかつて居る姿はまるで停車場のやう。

此處まで來て振り返つて見ると眞一文字の一號幹線道路かさながら流れる都會の帯と言つた感して、廣く走つて居る。

勘定して見ると芝口から岩本町までにガソリンの赤柱が二十近くもあつた。紫の事務服を着たガソリンガールが町角の空洞で筒を持つて自動車を待つて居る姿は、斷然昭和帝都の情景である。ビルディングの一角におでんののれんか翻かへつて居るのも、稀しいか殆んど小商人もなく、食物屋らしい食物屋がなく、事務所洋品店や自轉車器具商、自動車のガレージなどか繁昌の移りの來るのを待つて居るかの觀て竝んで居る。

買つた直く後から途微も無くよく切れるので、口の悪い江戸つ兒に、柳原の正宗と洒落のめされた柳原古着街も震災で名代の煉瓦長家を焼き拂はれたのみか、電車線路までも、裏町の岩本町に引つ提らはれて、寂然と静まり返つてしまつた。震災前錦糸堀行の電車の窓から覗くと、金ピカの大禮服や、鹿鳴館型のフロックか封建イデオロクのサンプル然として塵埃と夕陽を浴ひながら、鹹張り、紳毛氈の上では、あの手、この

手と躍起に人々の購買心をそそる番頭か、しきりに客に算盤を突き付けて居る光景が窺はれたか、昭和の柳原風景は寧ろ科學的に合理化されて居る。セコンド、バンドからテニス、バンドに至る吊しの幽霊か中隊縦隊に竝んで洋服細民の臆病そうな入來を心から歓迎する。岩本町を九段方面に歩くと震災後スツカリ形體を變へた須田町の交叉點か展開されてゐる。御馴染の軍神廣瀬中佐と杉野兵曹長の銅像が見當らぬので一寸勝手か違つた感しかする。四通八達の須田町のバナラマにはどうしても中佐と兵曹長の銅像かないと實に物足りない感しかする。東京見物のお上りさんか、杉野兵曹長、兵曹長と三度も呼ぶかはりに銅像や銅像！と迷兒になつた銅像を捜し廻つて居るのも復興帝都の生んだ一ユーモア。またお馴染の高世橋のステーションも位置を變へたやう。日本橋の魚河岸と共にいさみの神田ッ兒て鳴した、多町を中心にして連雀町、佐柄木町、須田町、通新石町の五箇町に跨つた青物市場も震災後秋葉原に引越してその名も神田青果市場として、耳遣り袖の下のしきたりを嚴禁されて昭和風の商賣振りと變つた。

神田と問へば學生街と答へるのは今日の通用語たか、火事と言へば、神田と呼へど、火事を連想したのは往年の稱呼た。チャンと鳴れはすぐ、神田と駈け出し、それほと神田に火事は深い印象をととめた。寛永正徳享保文政天保安政明治と名代の火事か起つて居る併し復興昭和の神田は何はともあれ火事には三行半を遣らなければならぬ。小川町から右へ眞直ぐに本郷へ上る街路は昭和帝都の名所である。ニコライの教會堂に朝夕の陽光か和こやかに射す光景は繁雜な都の人々の心を落着かせる。聖橋も昭和帝都の新名物。總工費七十二萬四千八百六圓、面坪當り千八百八十四圓、工事に要した延人員三萬七千三百二十八人、延日數千三十三日、滿三箇年に僅か二箇月缺けるを要した。復興局か鼻を高くして自慢する橋、引つ返して小川町を進むと兩側に竝んだ洋品店、眼鏡店、洋服店、カフェー、運道具屋、ラヂオ屋の神田銀座街の賑ひ、わけても中元歳暮の賣出しとなると小川町特有のデコレーションで行きかふ人々の大半か學生であるせむか外の

商店街では見ることの出来ない凝った看板が多い。駿河臺の交叉點を右へゆるやかなスロープを上ると、私學の權威明治大學のモダン校舎が巍然と聳えて居る。向ひはジャイナリズム界の王者主婦の友の居城。こら一圓の駿河臺は往時神田山と稱し、もつともつと峻しい山であつたとか。この高い山を慶長年間家康が諸侯に命じて、千石に付一人の割合て人夫を徵發して神田山をけつりその土で現在の日本橋濱町、霞町、八丁堀、銀座、日比谷方面を埋めしめたと言ふ。今日てこそ駿河臺も低くなつたとは謂へ、白雲のたなびく高きはある。明治大學裏一圓は立派な邸宅街で巷の無禮な雑音を遙か底に聴いてると、電車線路を挟んで醫博か軒を連ね病院市場をなして薬の香かムンと鼻を衝き、病人を載せた自動車か不幸な速力て這つて來る。先へ進めは名代のお茶の水和製赤璧もすまじい。後へ戻つて神保町方面に進むと、通りの左側に神田名物の本棚か五六町の長さで倒れて居る。和本横文字ウッスベラな木、デカイ本兎に角何ても本棚にある道幅が廣くなつたたけで震災前とあまり大差かない。南裏側の雜聞股賑も昔に優るとも劣らない。東京堂三省堂富山房等の小賣部には黒々と並んで一生懸命に讀書する。字を食ひ食ひ神田の書生は一昔も二昔前もの話で最早音吐朗々詩を吟して荒尾讓介の風貌を氣取る若人は一人も居ない。

神保町の交叉點に立ては目の前の靴の安さで文明開化のほとを痛感する。

則ち左は往時の名にし負ふ護持院ヶ原右は明治の中頃て正一位の御使様か縦横に駆け廻つたと言ふ三崎ヶ原、何れにしても若い者にはとても信じられない話。

震災前と大差ない街並を眺めながら一直線に九段ヶ原前進すると九段坂に突き當る。左は牛ヶ淵公園、往時山王祭で山車引きの牛か馬鹿囃しの調子に乗つて踊り過ぎ山車諸共見事なダイビングをした所から起つた名たとか。

坂上からの帝都復興の展望はそゞろ感懐深いものがある。七年の間にこれだけの都をよくも建設した

ものたと感動させる神田下谷日本橋京橋芝へ展く大パノラマは七星霜市民の涙と汗の所産である。

振り返つて見れば、震災にビクともしなかつた燈明臺大鳥居大村益次郎の銅像か立つて居る。維新前は二十六夜の月待に老幼男女か集ひ寄り品川の海に龍燈の點くのを待つたとか。

坂上停留場附近の銅像三、四基か長年の功蹟で大地震に恨みつらみなく、破損されたのは震災エピソードとして知られて居る。

九段下を起點とする第二號幹線大道路は二十二米乃至三十六米の幅員を以つて南神保町兩國橋を経過して龜戸町に達する十二軒四百三十米の長さで走つて居る。

神保町から水道橋を望む一、道アスファルトの香り高く復興の姿を見るか一度靜かに町の空氣にふれる時、大震災の創痕未だ癒えず深刻なる内面的苦痛か華かなる外面的復興の裏にある事か感得出来る。

何となく新聞地を思はせる様な薄い感じ、そしてたてかけられた極彩色の賣出し看板は、市民復興の外面的な薄層を物語るものではないか。かつては美土代町の青年會館に次いで演說會毎によく解散を喰つた明治會館もその姿を消して町家か四五軒並んで居るのも淋しい。震災て一段の聲價を起したニコライ堂の廢墟と共に荒寥たる燒野原自身の内に美を保つて居た佛英和女學校々庭のジャンダークの像、それもニコライ堂か全世界の信徒の貴い献金によつて復興し、依然として駿河臺の名物として美しい讚美歌のメロデーを朝夕の鐘の音に託して居るのに引換へ佛英和女學校の移轉に伴なつて其の美しく勇ましい姿を消し、裏面に天主教會堂のみか靜かに復興して居る。

お下げ姿の女學生と工場の様な赤煉瓦校舎とて有名たつた佛英和女學校の跡には同じ女學校でもこは又ひとく現實的な感しの水原産婆學校か出現して居る。受験生におなじみの研數學館かすはらしいピルディングにおさまつて居るのも入學難か齎す昭和帝都に氾濫する受験生の惱みの靈堂と見られやう

か。三崎町から駿河臺へ日本大學通りか出来るんと豫科生か威張つて居る。日本大學の新館か大成中學校のバラック建築を壓して堂々と出現して居る。學校の街頭出現とても云ふか、ひとく事務的な感じの玄關か従来の學校の型を破つて居る。通りに面した一階を商店風にして、日本大學出版部學校か本屋さんと姿を替へて居る。軒竝にバプテスマト教會堂、これは舊體を復興してお見えして居る。復興局の出張所か七年の苦闘を終へて廢止を前にみしめなバラック姿を横たへて居るのに向ふ側には日本商科醫學校のモダン校舎か堂々と復興して居る。通一體所々に堂々たる公共建築物の復興振りを見るのに引きかへ市民一般の復興ふりかみしめに遅れ勝ちのやうである。

三崎町名物の郷社三崎神社か日本商科醫學校の横に區劃整理で縮こまつて居る。水道橋には陛下の行幸を御迎へする府立工藝學校の校舎か巍然として姿を表し、背後の高臺には市立元町小學校の復興姿を初め大小とり／＼の復興建築物か聳えて居る。小石川の繁榮を妨害する存在と云ふわけて區民か移轉を要望して居る砲兵工廠か古い塀に圍まれて新興道路と對象してふさはしくない。塀のうしろには歸物工場の建物か一棟竝んで時々黄色い煙をあげて工廠の臭ひを附近に漂はす。此の奥に名園後樂園か認められてあるとは一寸と想像かつかない。

この塀とにらみ合つて居る片側道を登坂坂へ、一般市民復興の歩みは遅々として町竝はみしめに復興アスファルト道路に壓倒されて居る。

春日町から本郷一丁目新設四十四號線道路を歩いて見る時にその感か益々深い。

堂々たる道路それに對して町竝はともかくもそれに足竝をそろへて復興しようとして居るか何と斜めにはられた貸家札の多い事。

假建築ながら此の方面唯一の大劇場として氣をはいて居る本郷座も新設復興道路に面して芝居氣分

も新興割壇向に變つて來たのも時代を語る本郷風景の一つか、湯島聖堂を右手に湯島四丁目を起點とする第二十二號幹線道路を下つて來ると神田末廣町に出る。

町角に垣をして地中にめり込む階段地下鐵入口も震災後生れた帝都名物の一つ區劃整理中の難所とされて居る。上野松坂屋前の三角廣場には下谷郵便局の假バラックか建つて晝夜の別なく活動して居る。大商店の偉力を示して地下鐵と地下連結をほこる松坂屋は正に帝都の北支關上野驛をひかへて東北一帯の客を集めて居る。花に明け鐘に暮れて行く上野の春も徳川三百年間の寛永寺中心の繁榮に引き續き近代的文化の恩恵をほしきままに取入れて榮えつつ帝都北門の繁榮は正に上野廣小路か如實に示す。市民の散歩公園として甦生せる上野及不忍池畔は復興公園中の特異な地位を占めて四時市民に呼びかけて居る。

右手に愛犬をたつさへた大西郷の平民姿と可憐なる切腹姿に維新帝都甦生の犠牲を偲はせる彰義隊記念碑の舊き日本の香りと舊き上野の香りを多分にたたよはせて居る上野。一度それを背景として見晴しに立つ時、震災後に連絡した省線のガードを越えて一望焼野原の罹災地たつた下町か内から湧き起つて來る復興のとよめきを響かせてすつかり新らしき姿となつて建ち竝んだのを見る。眼下に見る地下鐵入口の新風景に帝都唯一の復々線を持つ車坂乗換の廣場、雜然と薄暗い感じを持たせられた舊車坂乗換場の狭さを記憶して居る人々は新車坂の豁然と開いた乗換場の明るさには眼を見張るにちかひない。此處に於て第一號幹線道路が淺草方面に走る第六號幹線道路と交叉して居る。復興道路工事と地下鐵工事と二重の工事に苦しめられて來た車坂から淺草への第六號幹線道路も兩工事の完成を見て嘗ては玄海灘を行くよりも動搖のひとかつた乗合自動車も今では垣々とし鏡の上を走る如く復興道路の快感をふんたんに味はせてくれる。あの猛火にも焼け残つた觀音堂か今大修繕をやつて居るに引きかへ、田原町角の

東本願寺か未だ復興の氣振も見せぬのは淋しい。

淺草一帯、寺院や墓地が震災を期として完全に整理された結果一帯に住宅層は廣げられたわけであるが然し區劃整理の結果は小さき所謂露路がなくなり、通りが増した結果、小商人が増して来たことも一つの變化である。

復興の嬉ひに大通りを走ることをやめて一寸二町横丁に廻るとそこには復興祭に復興しきれない、苦しい情景が幾つも見出される。空地の多い事、貸家貸事務所の多い事、特異な盛場、淺草活動街を目前にひかへた數町の範圍にひつそりとした淋れが見られる。

内容の復興へは幾多それに伴ふべき苦痛多きことを感ぜざるを得ない。

復興完成は道路より、それはやかてはスピード時代の出現を速進し、盛場は漸次局部的に獨占されて行く。上野から淺草へ途中の町は大部分の市民から見離されたやう、市電、乗合自動車、圓タクそしてつひには地下鐵と交通機關が進んで往時の賑やかさも今は夢となつたとしか思へぬ。

漸時道路完成から繁榮は局部的に集中されたと云ふ見界は誤つてゐるか知らないか、事實に於て小賣店は大商店に客足をとられる傾向は争はれぬ。

淺草名物觀音様の偉力は猛火を防いで焼け残り、淺草一帯の復興に最も大きな力を與へた、その門前外形は舊體をそのままに明治時代の名残りととめて以前の如き商店街として仲店は獨特の氣分を漂はせて居るか建物の骨組に到つては純防火建築鐵筋コンクリートで今度は火でも地震でもびくともしない耐震耐火建築家主さんは觀音様かと思つたら大間違ひ、天下の家主さんは我が東京市である——市民一人一人かより集まつて出来上つてゐると云ふてもよい東京市である——市民諸君は二百萬分の一たけの家主氣取りになつて石疊の仲見世通りを測歩して見るか家主か仲店の使用料を知らないては問題

にならないと、そこで市例規中の市公園使用料條例のくたりに開いて見る。

東側建家、建一坪一月金十二圓四十錢、西側建家、建一坪一月金十三圓六十錢、番外同、金十二圓四十錢、道路同上、同、金五圓、其の總家賃収入を昭和三年度決算で見ると年四萬七千四百七十四圓也、即ち東側二萬四千六百七十二圓四十錢、西側一萬九千三百三圓七十六錢、番外三千四百九十七圓八十四錢也とあるか、市財政困難の折から少し賃賃料を上げてもらへないものかと市會で相談中。

さて有名過ぎる程有名な仲見世の名物に就て明治四十年當市々史編纂係の手によりて編纂された、東京案内より抄録して見ると、

上略仲見世は、雷門より仁王門に至る七十餘間の間に於て、幅五間餘を敷石にて填め、兩側に煉瓦造りの商店百三十餘あり、軒を並へ店を開く。中にも金龍山、淺草餅、紅梅焼、七味唐辛雷おこし等、名物と稱せらるゝある。

朝から真夜中迄、雜鬧を極めて居る仲見世の入口、雷門交番には往時に變つて交通機關の繁雜な時代の惱みかそのまま圓タクの苦情か次から次と持ち込まれて居る。黒山にたかる彌次馬の目前で双方の言分を聞いて正しい判断をして型の如く捌きを行つてゆく雷門の交番の巡査はけたし名判官である。

地下鐵ビルか古き十二階の名残をしたつてか、その塔上に展望所さへ設けて居るのも、そしてもくらの様に穴にもくる地下鐵入口にあるのも、共に新雷門風景の異彩である。

吾妻橋か復興橋梁の敷りを承つて今正に工事たけなはてである。本市施行復興橋梁中の雄であつて復興局施行の永代橋言問橋の工事と同じ潜函工事を施行して居る。工事設備は復興局のをそのまま應用してやつて居る。

橋のたもとを左折して、東武鐵道の淺草終點か大地下工事をやつて居る。東武鐵道ビルの出現も目の前

である、その工事と平行して隅田川上流吾妻言問兩橋間に新たに鐵道橋の架設工事が進行して居る。春の向島は隅田公園に甦生の姿を見せやうとして居る。花見と關聯して忘れられない行樂の地であつた向島か時の流れに押され押されてその魅力を失つてから大分の年か経つ。水の公園隅田は歡樂境淺草活動街と大きな對象をなして往年の向島の持つたより以上の魅力を以て市民に喜ばれるにちかひない。靜かなる散策公園の第一歩か今度無上の光榮。御巡幸の跡を印する事は本公園の持つ輝かしい一事であると同時に亦その未來を明示させられて感激にたへない。

言問橋上河上への展望は眼下に展望する公園の美觀をのそいても一幅の繪巻物たるを失はない。ボン／＼と煙を輪に吹いて川蒸氣の古めかしい姿、くつきりと右手の蒼空をくきる筑波の遠望共に晴れたる隅田川を詩化せずには己まない。

江戸文化から大東京を育むてくれた母體隅田川の持つ詩境味は言問の橋名の起源にまでさかのぼつて漲つて居る。言問橋は復興計畫第三十八號線、下谷區入谷町から本所區中の郷業平町に至る幹線道路中の隅田川上に架してあり、兩岸共に隅田公園となつて居る關係上その底地に對しては特殊な河岸橋を作つてある。主橋は三徑間の上路型突桁式鋼鉄桁を採用し、河岸橋は兩岸共三徑間の上路型鋼鉄連續桁を採用してその長さか二百三十八米六六で有效幅員か二十二米である。その基礎工事に至つては永代橋に施行したと同様、壓搾空氣利用の潜函工事により施行され、大正十四年五月十一日の起工から昭和三年二月十日の開橋式に至る三年半の年月と延一萬二千人以上の人手と總工費二百三十一萬六千七百一圓とをつひやして出来上つたのである。世界に誇る隅田川上復興橋架中の雄として復興は橋からを如實に示して居る。

橋を渡り盡きて右折の復興街に到る時、押上行の電車通りの幾分活氣を持つて居るのみ、その堂々たる

復興街路の兩側は丸の内附近のビル街になつた人には別世界の感じ、高さを奪はれた町の感か多分にある。

見はるかす復興道を挟む町家は、すへて二階建のみの様である。そしてその中に眼に付くのはトタン板銅板張の四角張つた家よりも瓦葺き看板の後ろに格子窓を見せ舊日本の香りを多分に持つた家が多い事である。

古い赤煉瓦の倉庫が少しく目障りなところと、それに本所消防署の見張塔が少し高いたけである。本所の町々は何と云つても隅田川上の橋梁によつてその繁榮の如何を左右されて居ることは争へぬ。それは町を歩いて初めて切實に感ぜられる。吾妻橋による押上の繁華、厩橋による外手町一帯、そして兩國橋による橋向ふの一帯の繁華の歴史、思へば復興事業の重大性を帯びた隅田架橋事業か、今や堂々世界に誇る十大橋として架橋完成を目前に見る時、やかては東京都工業の一面を負ふて躍進するであらう明日の江東か期待出来る。

とまれ河を挟んで都心に對する江東の一大工業時代の出現を望んで止まないものである。震災に數萬の死者を出した被服廠跡の慘狀も正に竣功せんとする震災記念堂の記録の中に、歴史として残され、美しき公園として復興せる姿を見るのも、當時を目撃せる住民諸君にとつては亦あらたに感慨無量なるものがあるにちかひない。

復興に優る供養なし、足場をはつしてくつきりと青空にその尖塔を浮かせた震災記念堂を見上げ、そして附近に聳ゆる本所公會堂のドーム同愛病院、そして本所高等小學校、安田保善商業學校さては江東青果市場をと、次々と復興せる建築物に視野の展開するとき、しはしはし瞑目してあの思ひ出の燒野、その真中に白骨か山と積まれ、香煙縷々老僧の讀經しめやかに、父は子の、兄は弟の、姉は妹の死の姿をすら見出し得ず、一

人分二人分と涙と共に遺骨を分けて行く遺族の姿を追憶してほしい。しかも尙ほ涙を越えて雄々しくも叫んだ東京つ子の意氣。復興に優る供養なしとも一度口ずさんで垣々として復興せる道路に眼を走らせる。そして舊に倍して立ち上らんと努力してゐる復興街に眼をそそく。

我等は今正に感慨無量云ひかたき思ひに満たされて思はずも眼頭に何物かのにしむのを禁し得ない。今や震災記念堂は帝都甦生の貴い犠牲を内にいたいてその美しい姿を完成した。満都の男女市民か踊り酔ふてあらう。復興祭を前に無惨に逝きし五萬の生靈よ市民のささくる供養の塔記念堂をその背後に生きたる甦生帝都の復興の姿と共に受け入れよ。ここにも大御心畏し。聖駕を拜し奉つるとは恐懼感激に堪へない。新設の藏前橋を中心として龜戸方面に走る復興新設道路は本郷湯島四丁目を起點として龜戸に到る第二十二號幹線道路である。

隅田十大橋を二つに、その中心にかかつたのか藏前橋である。音間橋とは一見同しい橋である。其の姿と架設概要は三月六日發行第一七八條市公報表紙に載つて居る。今その費用を見ると百七十一萬八千七百二十三圓かかつて居るとのことだ。藏前片町は湯島に直通する第二十二號幹線道路の新設藏前橋の架橋により従来の面目を一してしまひ東京中に飯田橋にしか見られなかつた五本の大道路交叉點が出現したわけである。しかもその一本一本が淺草公園へ淺草橋から日本橋へ三の輪方面と何れもか何時も満員電車のみを通して居ると云つても過言ではない。清新なアスファルト大道路の五本の交叉點である。市電かみしめに見えりになると云ふのも新道路に對する御世辭ではさら／＼ない。藏前と云へば、高工とまで名を賣つた名物か市外の大岡山へ引越して最早官立學校特有の學生姿の見られないのも、明治つ子に取つては江戸を偲ふ人々か藏前の名に札差をなつかしかると同じ意味に於ての淋しきであらう。變つたと云へば帝都はみんな災後に變つてしまつたかその中で東京に住んでゐるものてさへ迷はさす

程變つた所と云へば、須田町淺草橋の兩交叉點は大關格と云つてよい。

第二號幹線道路かむしろ横暴と叫びたくなる程の壓力を以てそこに立つ者に壓しかふさつて来る。電車も自動車も、あまりにみじめな點景だ、まして一人の人間なんてアスファルトの中にめり込んでしまふ。道路道路アスファルトアスファルト淺草橋交叉點にはそれ以外何もない。左折すればその昔兩國橋畔の夕涼みに大江戸の賑やかさを一手に、今の淺草を凌いだと云はれた名残りか附近柳橋の花柳界と共に、江戸趣味の面影の幾分を近代的道路建築物の間から示して居る。

川をひかへて白雲の千代田小學校か復興祭當日光榮の御巡幸を前に聳えて居る。

屋上よりの展望は江東にひろがる工業帝都生産帝都の展望である。林立する大小の煙突、その間に所々復興小學校の姿が目立つて居る。眼下の隅田川に架す大橋梁本所公會堂震災記念堂等々々近代美人工美の雄大さを示して居る。

明治座の近代建築美を加へて金座通りの美しさは引立つて居る。此の通數丁架空線をなくした道路である。電柱はもう明治大正の時代と共に歴史の内に置きつばなしにしたい存在ではないか。ともかくその眼さばりのないのか此處數丁の所はうれしい。突當りに近代美の粹と迄云はれて居る隅田橋梁中の花形清洲橋か架せられて居る。總工費三百二萬七千圓、そのペンキ塗替代だけでも八萬餘圓かかると聞いたら先つ一驚せざるを得ない譯である。隅田川も此處まで下ると少しく湖の香かする。水代を遠望に橋のたもとには、三菱倉庫淺野セメントの建築かほこりにまみれ、仲仕か傳馬船からの荷役に、巻き上る起重機の響橋を渡りきると風景は、からりと變つて、數丁江東橋通りに入る途は、殺風景な港裏町と云つた感じ、アスファルト道路のみかあきどのい感じを行人にあたへる。江東橋通りを右折海邊橋から月島へ電車通りは、扇橋警察署前あたり、名園清澄庭園を背にした一帯に至つて、初めて賑やかになつて来る。商店向住宅か片側

を占めて特異な町並を見せて居る。

深川區は未だ復興しきれないでむこたらしいバラックが立並んでゐる。深川圖書館の三階建か此邊では目立つのも附近の建物のすへてか立ち後れのかたちとなつて居るからである。二側裏へ出て見れば殆んど全部か空地である事か一層よくそれを如實に語る。

劇然と整理された道路網やかてそこに實現されるであらう町の賑かさを豫想して復興祭を迎ふるのはせめてもの慰めてある。

海邊橋のたもとに辰巳劇場か活動館として異様な姿でひかへて居る。黒江町の交叉點は、一つ次に移つて舊電車通りは道路工事にいそかしい。區整とそして道路の完成は町の賑かさをあつちよりこつちにつちよりあつちへす時に移して行く。町並の榮枯盛衰變化の目まぐるしさは復興帝都に於ては正にスピード化した。月島の未來を要望してこの邊一帶の賑かさをの將來を壽く。

江東にわかれて永代橋を渡る。總工費二百八十四萬五千五百二十一圓。隅田川口にまたかりて巨獸を偲はせる雄姿は前世紀の怪物のやうだ。

水難救濟會の信號か橋畔に翻つて居る。東神倉庫、三菱倉庫か近代的な動く東京の一面を現せば、一方河口に近海航路の菊丸の客船らしい姿を見るのも此處の特色である。東京灣は初めて其の片影をこに見せて延び行く我が帝都の將來を示すかに見へる。

永代橋を渡つて左折すれば鍛冶橋外を起點として柳町、彈正橋、高橋を経由して走る第十七號幹線道路幅員二・二米乃至三・三米延長三・三半。永代橋を渡つてとつちきの南新川、越前堀の堀添ひの街並は多く醬油酒問屋等か竝び震災前は江戸情緒の漂ふ奥行の暗い古風な家造か多かつたか昭和の酒問屋街はメリケン波止場か殖民地の川添町を想はせ時代の推移を吾人の前に展開して居る。

十七號幹線道路は長澤町角に来て第五號幹線道路とクロスする築地三丁目を起點とせる該道路は入船町、龜島町、濱町三丁目、淺草橋、南元町を経てえん／＼下谷、金杉下町に及ぶ八軒餘の大道路である。垣々として軍艦のデッキの如きアスファルトの三十三米の大道路はひつきりなしに疾驅する自動車自轉車のタイヤに心地よき彈力を與へる。

御巡幸の日も目前に迫つて來たので沿道には紅白の布を巻き付けた棒杭か、ねちり飴のやうに見事に竝んで居る。アスファルトの筒ベーパーメントの土筆、愛嬌ものの消火栓を抱くやうにして水道局の夫夫か二人かかりてお化粧を施して居る。築地に入ると急にザ／＼した街路になる。三丁目から突き當りの海軍用地に至る左側には、震災直後のバラックを想はせる露店商人か二、三丁目並んで金物安ウイスキー、大福餅、餅、取引を商つて居る。餅の取引に爽かな三月の海風かあつてくるつと驕へる。

新築地市場通りの詩景、海軍々醫學校に竝んで、御巡幸御立寄りの光榮に浴する築地病院か晴やかに立つて居る。此の地か昔白河樂翁の浴恩園の跡と聞けば今度の行幸も其處になにかのゆかりかあるやうに思はれる。大震災後ここら一帶の風景もすっかり面目を一新した。震災前海軍参考館前から濱離宮の御門迄の竝木道の美しさを知る人にとつては餘りにも寂しい變りやうである。海軍用地を圍繞する潮の香の高い青い堀、農林省のビルディングと貴族的な精養軒の對立の美しさ、夕暮の堀の面に振袖かオールを操り、精養軒のコックか白い美しい生き物のやうに川きしにしゃかみ、斜め向ふの施療病院の窓からは青白いノスタルグアの看護婦の歌か洩れる風景等震災前の築地の持つ詩情の良きモチーフであつたか風景に或る程度の歴史かいるとすると、新築地美の完成は未だ遠い先のことである。併し、三丁目に引き返して銀座の方面に進むと、断然動く近代美か盛り上つて迫つて來る。京橋郵便局に竝んだ東京劇場の偉觀、斜め向ひの日本風の歌舞伎座、裏側に新橋演舞場の鼎立して居る姿は丁度昔の猿若町三座の存在をここに

移して昭和風景の雄を誇つて居るやうに見える。殊に萬年橋畔の東京劇場は松竹の資本を攻撃的に表徴して居る。五層樓スペイン式の東京劇場と、日本形式藝術の粹を少しグロテスクの方にまで延長した歌舞伎座との脱み合ひは一偉觀である。近くにイデオロギイの醜態空築地小劇場あり、數寄屋橋を越して東朝隣の日本劇場少し先の帝劇と數へ來れば高級劇場通りの觀かある。

三原橋を渡ると銀座の香かムツと來る。ゴーストツブ青赤の旗を振る、自動車トラックオートバイク、奥襟娘學生軍人靴下駄通る、通る、走る、銀座、銀座、東京の銀座、日本の銀座、世界の銀座、この交叉點で訓練される交通掛の神經の太さはウエスチングハウス會社製の、テレゾオックスの神經以上、山崎洋服店跡には堂々たるビルディングか立ち、三越かここに進出すると言ふ。

銀座は群集か流れるのでなく、ベーブメントかエスカレーターの様か流れて居ると言ふ、これは詩人の夢であるか今に兩方の商店かメリーゴランドのやうに流れて來る、行人は足踏みをして居ればことは足りる。銀座の持つ豊富な色彩、そこに特種な銀座と云ふものか浮かんで、マリカニゼーションの氾濫、嘲を忘却されたユーロピアニズムがチグザグと踊つて居る。明治の初め、始めて孤光燈かかやいた時、東京の人が集つて之れの見物に出かけた事は、なんとか夢のやう、そして赤い煉瓦の街並の間を鐵道馬車か走つて居たと聞いては、今の人から見ては、ほほ笑ますには居られまい。

芝口から京橋に至る間は裏表ともにアメリカニズムの氾濫の中にたたよう。京橋から左折する急にホット大きく息を入れる。鐵治橋を渡つてガードをくくると丸の内ビジネスク、センター、馬場先門の奉祝塔は晝夜兼行て工事を急いで居る。二十八臺の投光器で光りの瀑布を浴びせて二百七十六燈の電燈かさん然と輝く奉祝塔の美しい姿を見せるのも、數日、歴史的大祝典の式場は二重橋前にその工事を急いで居る。

(東京市公報より)

附記ノ二

帝都復興祭日録

昭和四年十二月六日

堀切東京市長ハ赤十字社東京支部樓上ニ東京府知事警視總監ト會合復興祭ニ關スル協議ヲナス

昭和五年一月七日

十八日復興帝都行幸奏請ニ關シ東京市長ハ復興局長官ト共ニ宮内省ニ出頭

九日

帝都復興祭ニ關シ東京市長諭告ヲ發ス

十日

帝都復興祭事務委員會ヲ組織ス

十七日

帝都復興祭事務委員會事務分擔ヲ決定ス

二十九日

同上各部委員分擔事項ヲ決定ス

三十日

復興祭祝賀方法協議ノ爲、臨時區長會議開催

三十一日

市會全員協議會開催

二月十五日

復興局、東京府、東京市警視廳協議

二十日

健康診斷(全市民)

二十五日

係員徽章決定

二十六日

市區名譽職員並吏員奉迎送者徽章決定

二十八日

馬場先奉送迎門式典場工事開始

二十九日

千代田小學校職員並生徒七百七十三名ニ對シ臨時種痘施行

三十日

臨時區長會議開催奉送迎者範圍ニ關スル協議

三月一日

御道筋住民要種痘者ニ對シ種痘施行

第五編 帝都復興祭誌了

三月四日

帝都復興祭市會全委員會開催

七日

祝賀會場造營工事ニ着手

十三日

各省次官復興帝都視察

十七日

天皇陛下三月二十四日復興帝都御巡幸被遊ルルニ付當日御出門前市長ニ拜謁被仰付趣復興局長官ヨリ通牒

十八日

天皇陛下帝都御巡幸仰出宮内大臣通牒三月二十六日祝賀會當日東京市所屬公廳休暇日ニ決定東京市告示第十八號

御巡幸並式典祝賀會當日國旗掲揚通牒祕發第六十六號復興祭注意事項決定發表

東京市長ハ時事新報社遣米答禮使一行ヲ東京會館ニ招待ス次テ帝都復興實地ヲ案内ス

鈴木侍從長御道筋下檢分

十九日

御巡幸御立寄箇所御先導決定

二十日

花電車完成

二十一日

日比谷公園一般入場臨時禁止市告示第二百二十號

帝都復興祭事務豫習

馬場先奉迎門竣功

二十二日

御賑恤ノ恩召ニ依リ金一封下賜アラセラル

三月二十六日 天皇陛下帝都復興完成式典臨御仰出アラセラルル旨宮内大臣ヨリ通牒

武官行幸主務官御巡幸順路最後ノ下檢分ヲ行フ

市營電車同乗合自動車記念乗車券發賣市告示第二百二十四號東京市長ハ外國新聞

雜誌記者團ヲ東京會館ニ招待ス

花電車運轉

二十三日

祝賀會場完成

二十四日

天皇陛下復興帝都御巡幸アラセラル

二十五日

式典場完成

復興記念寫眞帖出來上ル

二十六日

献上本復興事業圖表完成シ東京市長持參宮内省ニ出頭献上ノ手續ヲ了ス

天皇陛下の臨御ヲ仰キ奉リ帝都復興完成式典ヲ舉行ス政府東京市共同主催

式典終了後帝都復興完成祝賀會ヲ開催東京市主催

天皇陛下式典臨御ニ先立タセラレ宮中三殿ニ震災復興親告ノ御儀行ハセラル東

二十七日

京市長御儀ニ參列被仰付

皇室ニ於カセラレテハ慰勞ノ思召ヲ以テ復興關係者二十八名ニ御陪食ヲ仰付ケ

ラレ東京市ヨリハ市長堀切善次郎助役廣瀬久忠參列ノ光榮ニ浴ス

三十一日

東京市長ハ外國使臣ヲ東京會館ニ招待シ感謝ノ宴ヲ催ス

東京市職員一同ニ對シ慰勞下賜金ヲ傳達ス

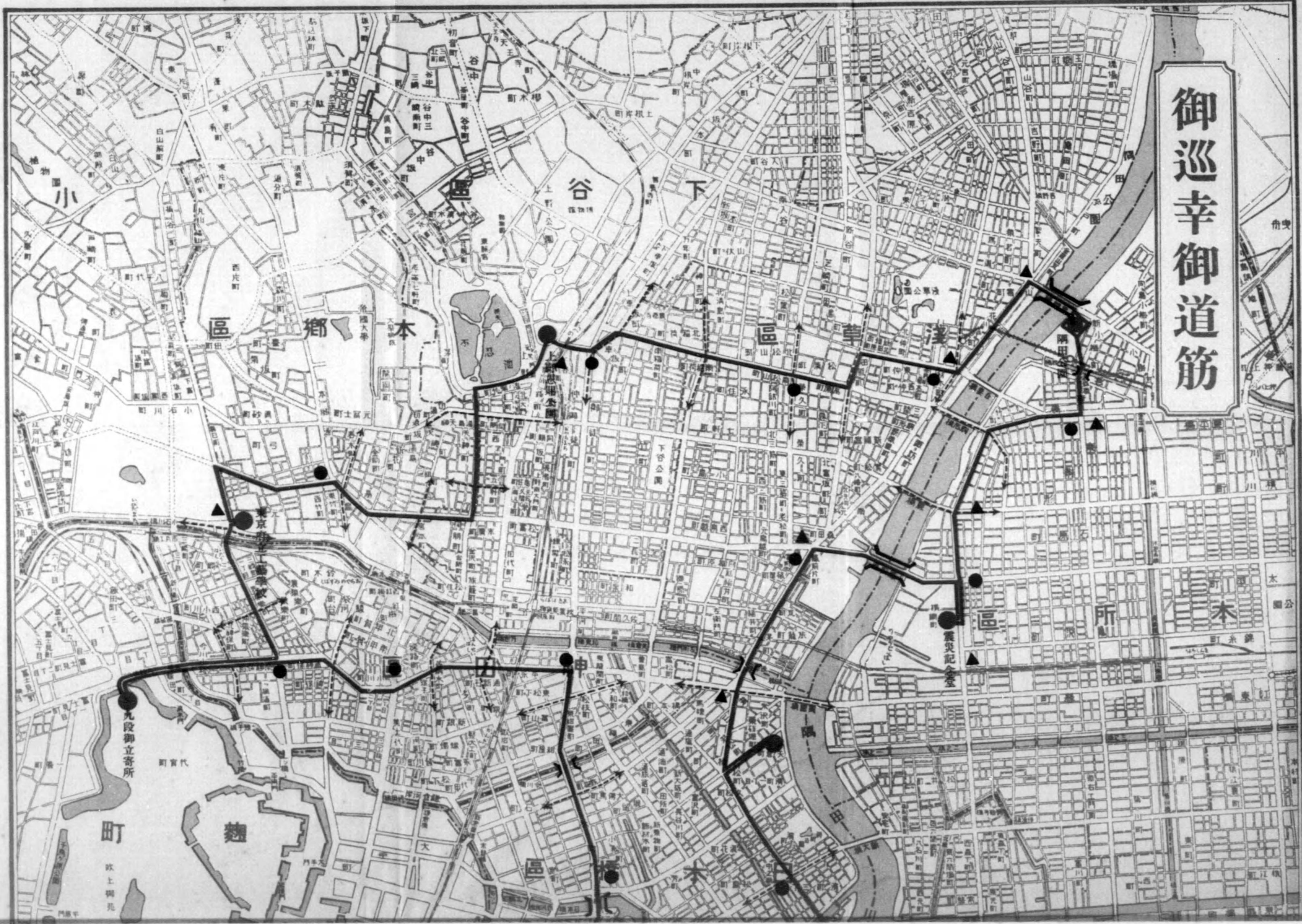
帝都復興事務委員會並同祭關係事務規程廢止市訓令甲第九號

馬場先奉迎門其ノ他ノ臨時施設物ヲ撤去ス



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

御巡幸御道筋



丸段御立寄所

震災記念堂

小

谷

下

区

郷

本

区

所

本

町

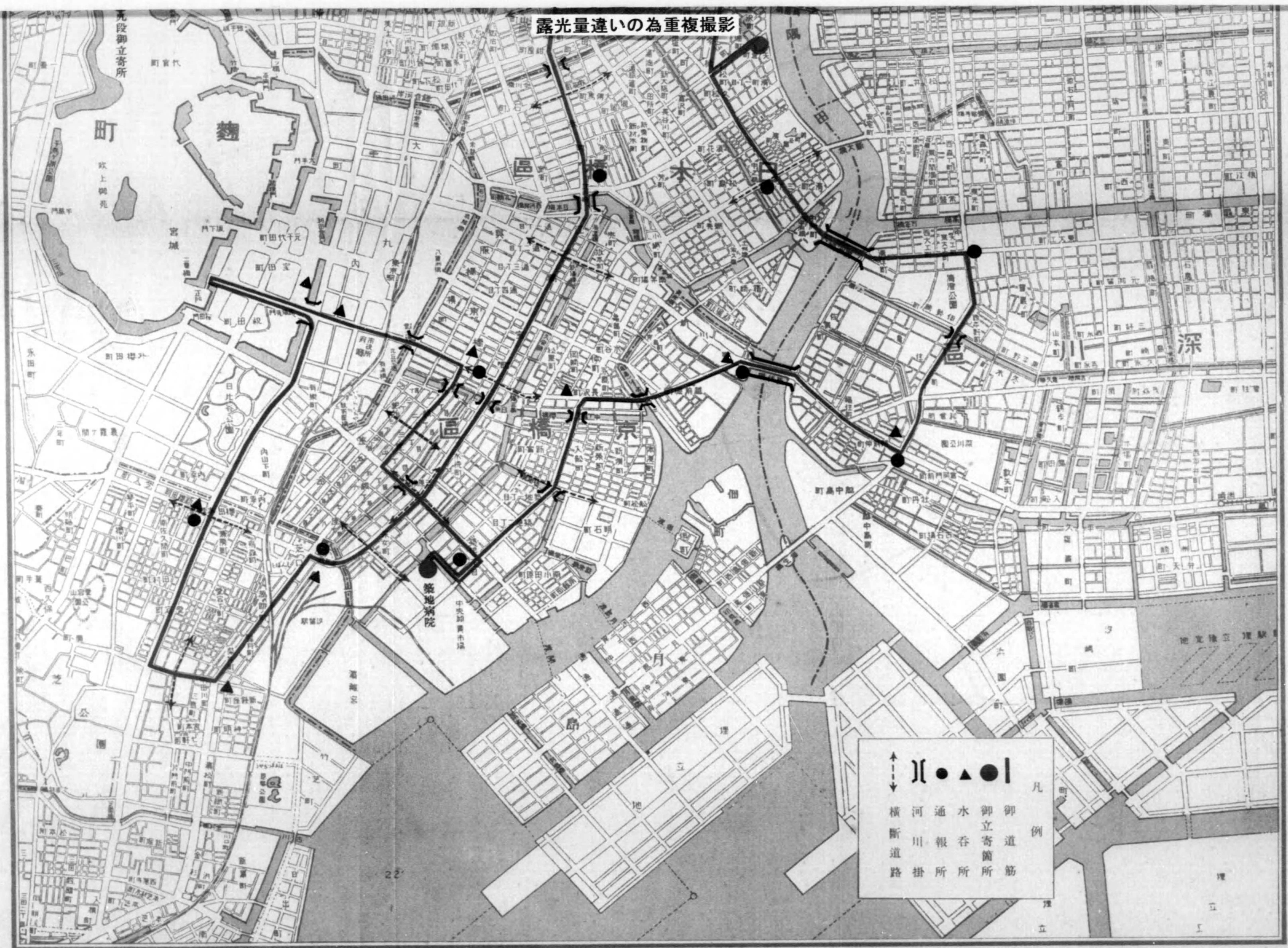
麴

区

太

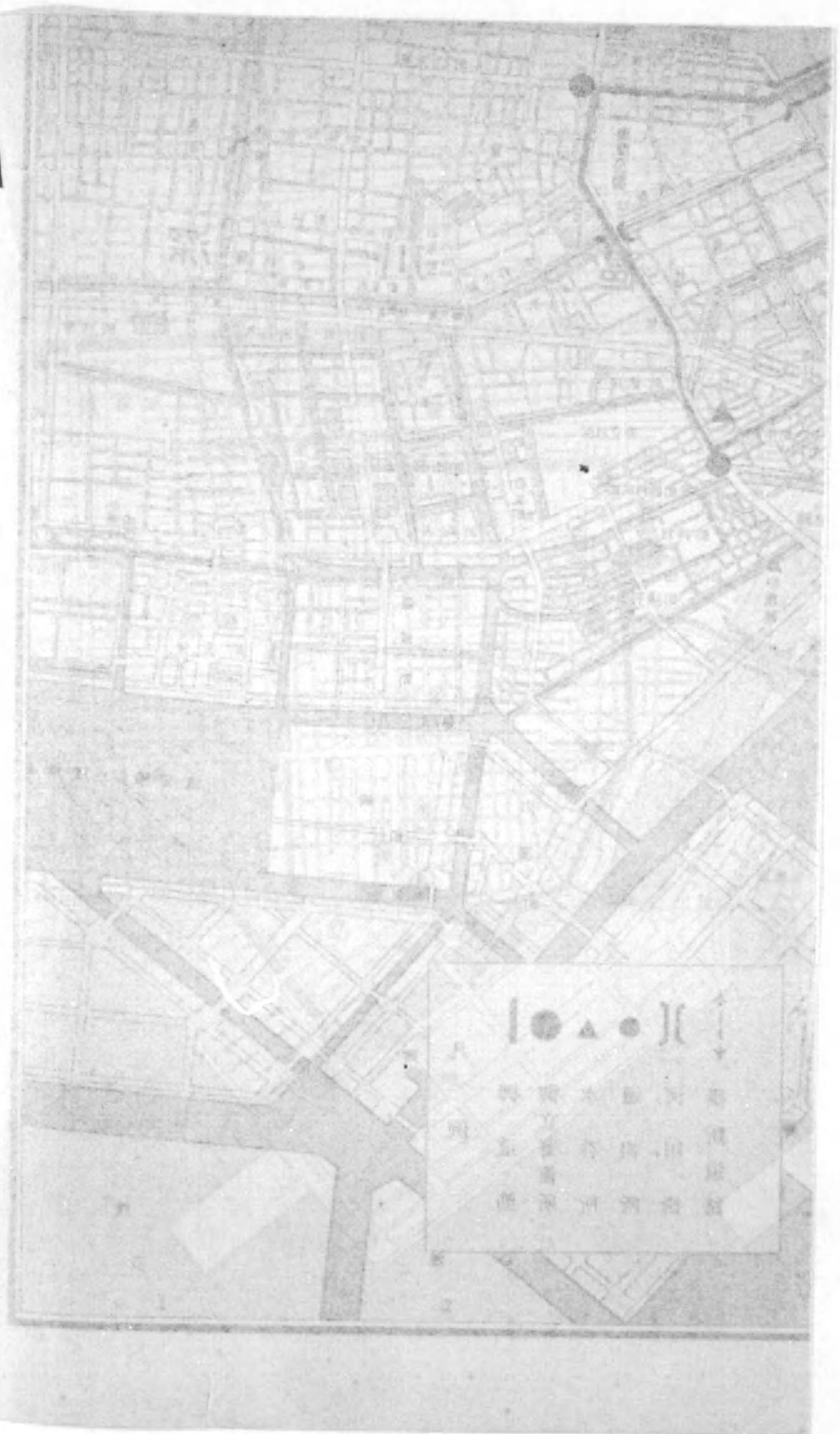
公

露光量違いの為重複撮影



↑		●	▲	●		凡
↓						例
横	河	通	水	御	御	
断	川	報	吞	立	道	
道	掛	所	所	寄	筋	
路				箇		

Handwritten text in Chinese characters, likely a title or index page, but the characters are extremely faint and illegible.



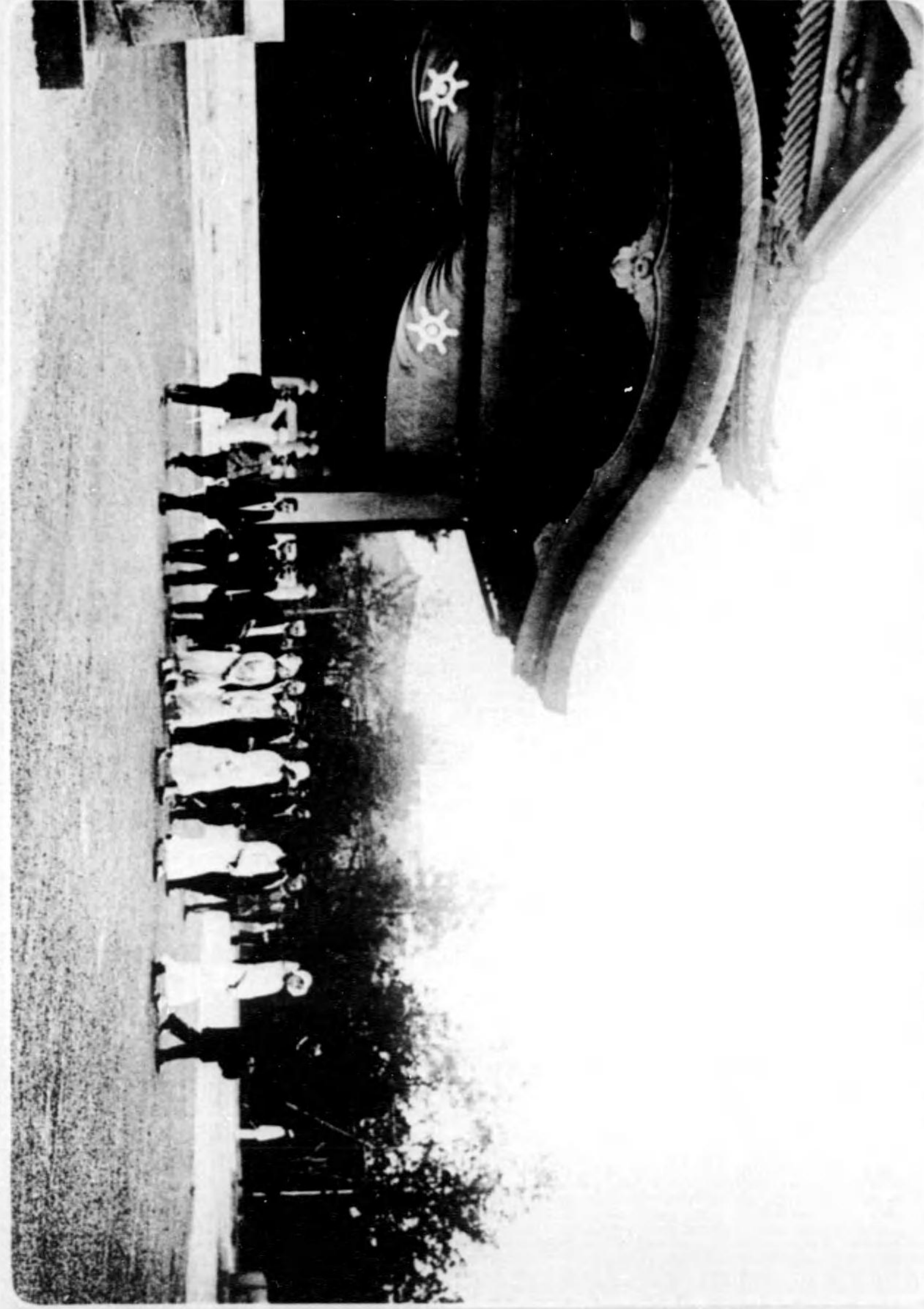
別錄

復興帝都御巡啓

復興帝都御巡啓

御 巡 啓

震 災 記 念 卷



時 遊 岩

欲 其 5 念 旁

別録 復興帝都御巡啓

第一章 御巡啓仰出

畏くも 皇后陛下には美々しく復興したる帝都へ御巡啓親しく御視察あらせらるる旨六月廿九日正式仰出宮内大臣より通牒あつた。曩に帝都の復興完成を告ぐるや畏くも 皇上陛下鑾駕を任せ給ひて親しく復興帝都御巡幸あらせられ千歳一遇の光榮ある御觀を迎へたか、今又重ねて御巡啓の優渥なる御沙汰を拜し、御盛徳の厚きに全市民は恐懼感激極みなきものかあつた。若葉の薫る七月四日御召車を奉迎するまで専ら東京市は赤誠を披瀝して奉迎準備を整へ、亦市民は一日千秋の思ひを以て御巡啓を翹望し奉つた。

宮内大臣よりの通牒左の通りである。

宮内大臣通牒

昭和六年六月廿九日

宮内大臣 一木喜徳郎

東京市長 永田秀次郎殿

通牒

別録 復興帝都御巡啓

皇后陛下來ル七月四日午前八時三十五分御出門左記箇所へ行啓可被爲在旨被仰出候
追而四日強雨ノ場合ハ同月六日ニ御變更可被爲在候

一 行啓箇所

東京市大富尋常小學校

震災記念堂

東京同愛記念病院

隅田公園

東京府立第一高等女學校

一 鹵簿

皇后略式自動車鹵簿

一 御發着割

別紙ノ通

一 市内御道筋

別紙ノ通

御發着割御豫定別紙

七月四日

宮城御出門

午前八時三十五分

東京市大富尋常小學校

同 九時五十二分 御發着

震災記念堂

同 九時三十九分 御發着

東京同愛記念病院

同 九時三十分 御發着

隅田公園

同 十時三十分 御發着

(公園内水泳場へ御立寄)

同 十時三十分 御發着

東京府立第一高等女學校 同 十一時四十三分 御發着
還 御 同 十一時三十分

御道筋(別紙)

宮城、東京市大富尋常小學校間

東車寄ヨリ坂下門ヲ出テ右へ二重橋前左へ馬場先門跡ヲ出テ鍛冶橋ヲ經テ左へ昭和通寶町一

丁目一番地角右へ久安橋ヲ渡リ水谷町十八番地角左へ彌敷町電車停留所ニ出テ電車通リニ沿

ヒ濱町三丁目一番地角右へ清洲橋ヲ渡リ斜左へ靈岸町電車停留所ヲ過キ東大工町通リ并桁橋

巡查派出所角左へ大富橋ヲ渡リ左へ東京市大富尋常小學校 (所要時間十七分)

東京市大富尋常小學校、震災記念堂間

大富尋常小學校ヲ出テ左へ三ツ目通リ三ノ橋ヲ渡リ龜澤町三丁目十番地角左へ日本大學中學

校前右へ電車線路ニ沿ヒ左へ震災記念堂 (所要時間七分)

震災記念堂、東京同愛病院間

震災記念堂ヲ出テ左へ左へ同愛記念病院 (所要時間一分)

東京同愛記念病院、隅田公園内プール間

同愛記念病院ヲ出テ右へ左へ電車線路ニ沿ヒ吾妻橋一丁目二十七番地角左へ枕橋ヲ渡リ公園

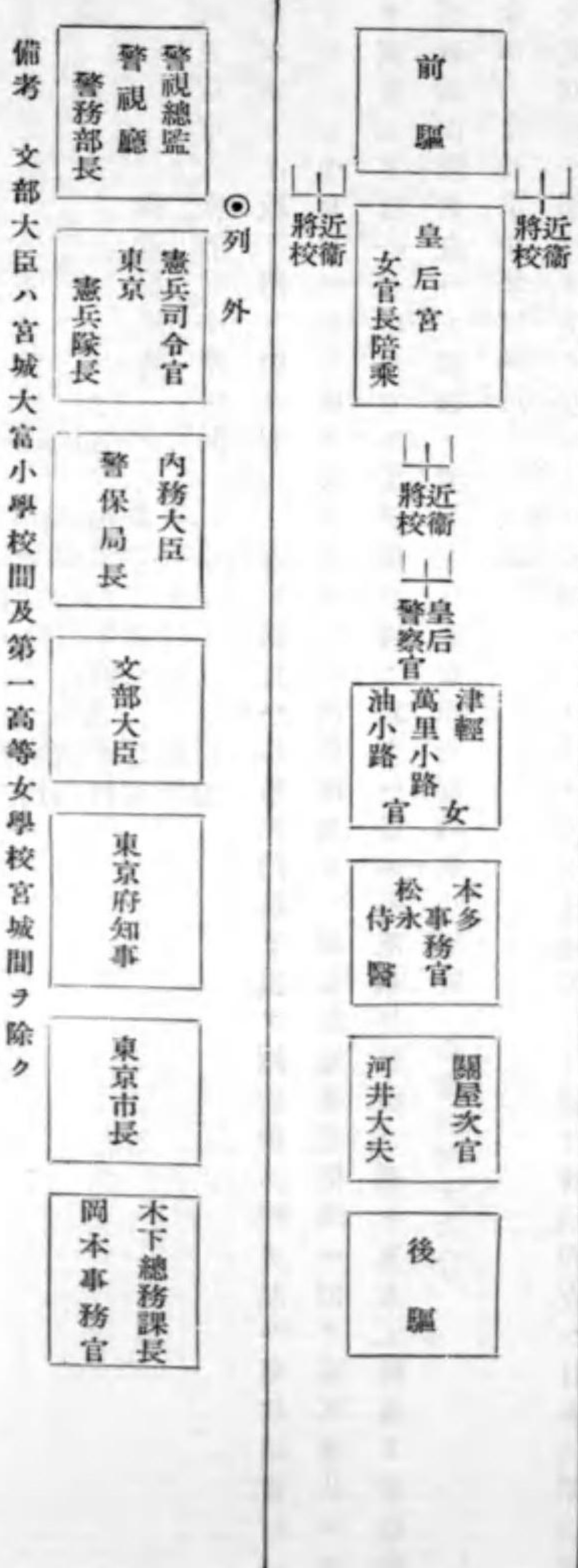
内新道路ヲ入り言問橋下ヲ過キ言問巡查派出所前右へ右へ言問橋ヲ渡リ山ノ宿町二十一番地

角右へ今戸橋ヲ渡リ隅田公園プール (所要時間十三分)

隅田公園、府立第一高等女學校間

隅田公園内プールヲ出テ今戸橋ヲ渡リ言問橋前右へ淺草公園裏通り千束町二丁目三十四番地角左へ田原町電車停留所ヲ經テ電車線路ニ沿ヒ松清町一番地角右へ南稻荷町百十四番地角左へ永住町百五番地角左へ右へ府立第一高等女學校(所要時間十分)
 府下第一高等女學校宮城間

府下第一高等女學校ヲ出テ左へ七軒町九番地角左へ二長町百二十五番地角右へ御徒町一丁目十番地角左へ電車線路ニ沿ヒ昭和通り和泉橋ヲ渡リ江戸橋前右へ常盤橋前左へ一石橋ヲ渡リ右へ吳服橋ヲ渡リ大手門前左へ警視廳消防部角右へ坂下門(所要時間十七分)
 七月四日 市內行啓 自動車乗組割



第二章 御巡啓奉迎準備

皇后陛下復興帝都へ御巡啓あらせらる旨御沙汰を拜し、東京市は直ちに準備掛員を任命して事務を分擔し、諸事連絡のため協議を重ねた。準備事務は主として御道筋の清掃、御立寄箇所の設備である。御立寄箇所には此の日御覽に供し奉るべき催物及陳列品の準備を整へ諸事に遺漏なきを期した。尙ほ準備要綱は左の如くである。

第一節 奉迎要綱

七月四日(土)當日雨天ノ節ハ六日(月)午前八時二十五分宮城御出門、同十一時三十三分還啓御巡路及御立寄箇所前章ノ通

一 大富小學校行啓奉迎

- イ 行啓御次第
 - 一 御着御休所ニ入ラセラレ御休憩
 - 二 拜謁市會議長等
 - 三 運動場ニ出テサセラレ兒童運動御覽(市立小學 校長陪觀)
- 別錄 復興帝都御巡啓

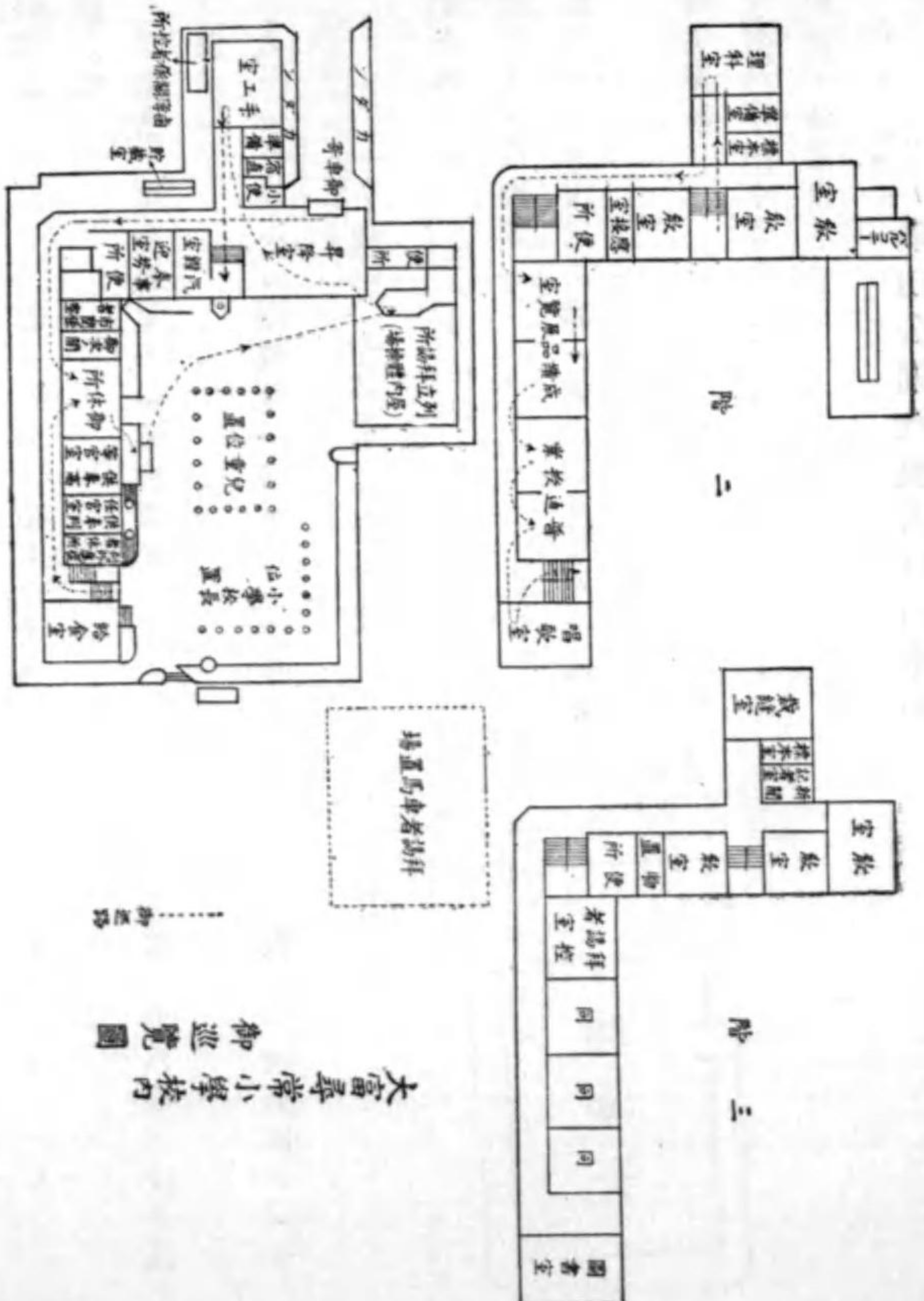
四 屋内運動場ニ於テ拜謁
五 順次左記各室御巡覽

- 手工授業(階下)
- 理科授業(二階)
- 兒童成績品(同)
- 普通授業(一階)
- 唱歌授業(同)
- 給食堂(階下)

六 再ヒ御休所ニ於テ御休憩ノ後還啓

□ 拜謁

- 一 列立拜謁者ハ午前八時迄ニ參着ノコト
- 二 八時二十分ヨリ拜謁所ニ誘導シ同四十分所定位ニ整列ヲ終ルコト
- 三 拜謁者ハ始メ運動場ニ面シテ整列シ 陛下運動場ヨリ屋内運動場ニ移ラセラルルトキ同場内御座所ノ方ニ向キ直ルコト
- 四 拜謁順序
 - (イ) 出御ノ際一齊ニ敬禮スルコト
 - (ロ) 階下御座所ニ立御アラセラレタルトキ最上位者最前列ノ前中央ニ參進更ニ前進ノ上一伺ト共ニ最敬禮ヲ爲シ後退元ノ位置ニ復スルコト



(ハ) 入御ノ際一齊ニ敬禮スルコト

五 拜謁者ハ拜謁終ルモ其ノ位置ニ整列ノ儘トシ還啓後數分ノ後退出ノコト

ハ 陪 觀

一 兒童體操ノ陪觀者ハ校外適當ノ場所ニ集合ノ上一團トナリテ參着午前八時三十分迄ニ所定位置ニ整列ヲ終ルコト

二 陛下屋内ニ入ラセラルルモ陪觀者ハ尙ホ其ノ位置ノ儘トシ還啓數分ノ後退出ノコト

二 震災記念堂行啓奉迎

イ 行啓御次第

一 御着 震災記念堂内御覽

二 震災記念館迄御徒歩(雨天ノ節ハ御自動車館内御巡覽

三 還 啓

□ 特別奉拜

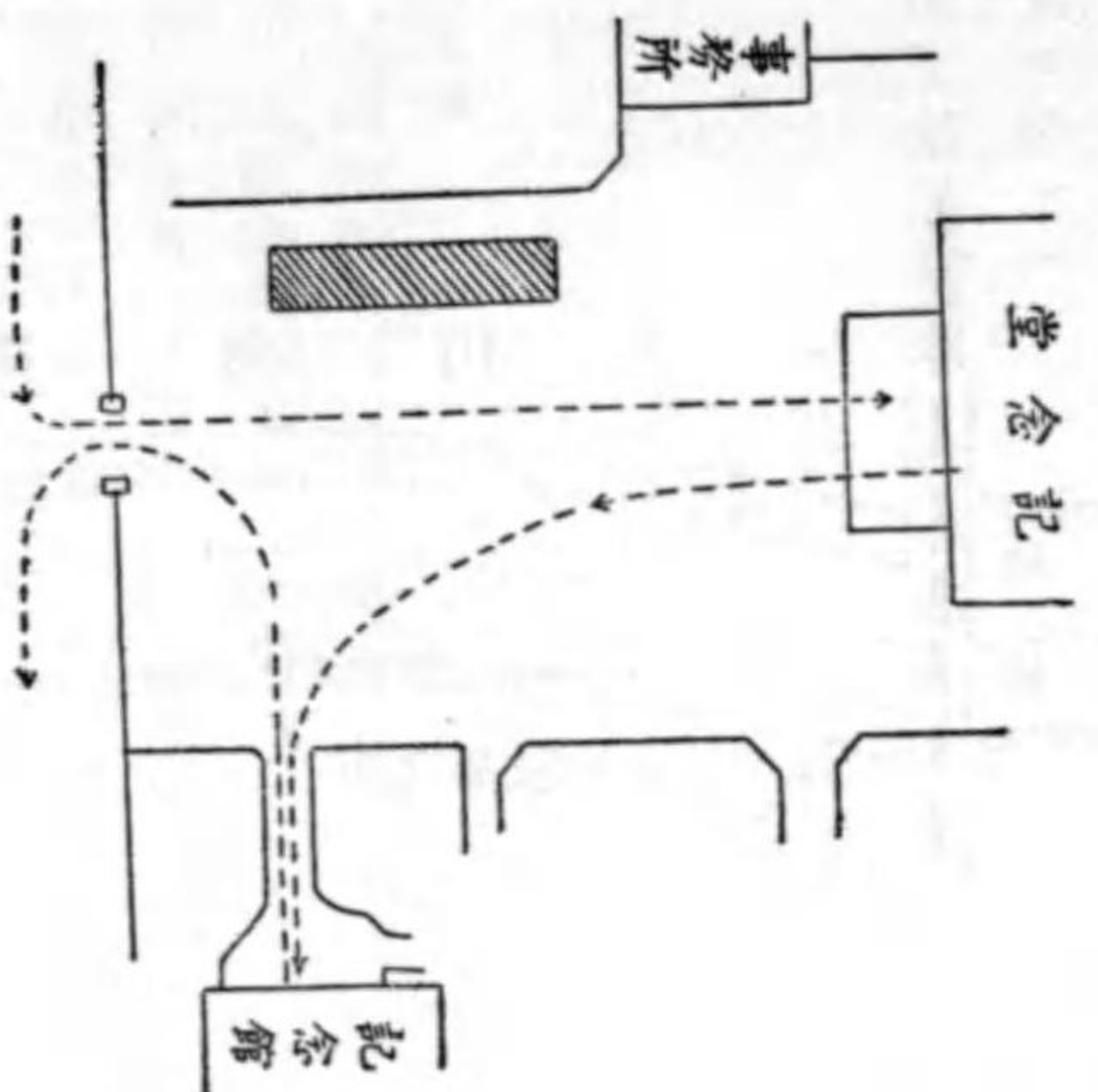
一 奉拜者ハ午前八時四十分迄ニ參着整列ヲ終ルコト

二 陛下還啓數分ノ後退出ノコト

三 隅田公園枕橋入口内奉迎

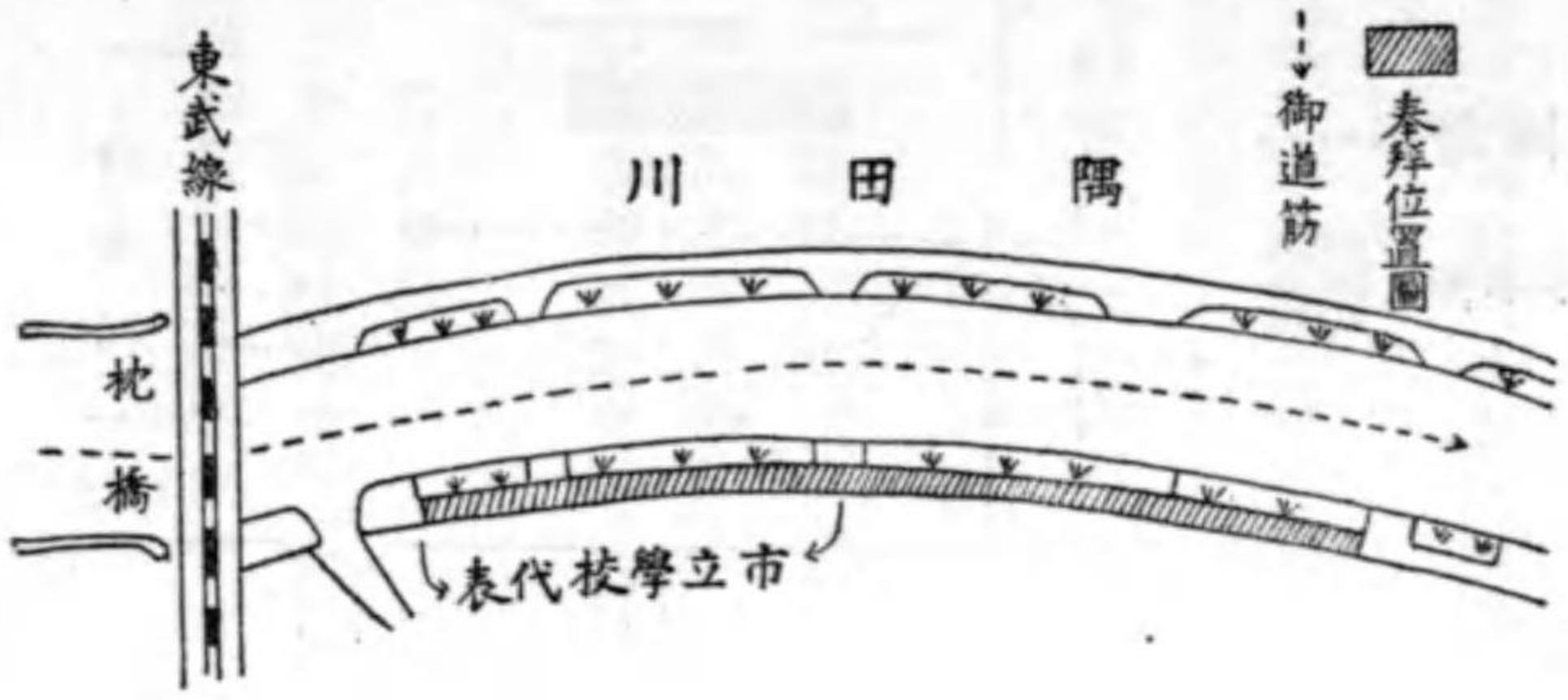
イ 特別奉拜

震災記念堂



隅田公園





- 一 奉拜者ハ午前九時三十分迄ニ參着整列ヲ終ルコト
- 二 陛下御通過數分ノ後退去ノコト
 - 學校代表奉拜
 - 一 市立學校代表ハ他ノ適當ノ場所ニ集合シ各團體ヲ成シテ午前九時二十分迄ニ入場所定位置ニ整列ヲ終ルコト
 - 二 陛下御通過數分ノ後退去ノコト
- 四 隅田公園プール行啓奉迎
 - イ 行啓御次第
 - 一 御着
 - 二 水泳御覽
 - 三 還啓
 - 特別奉拜
 - 一 奉拜者ハ午前八時四十分迄ニ參着整列ヲ終ルコト
 - 二 陛下還啓數分ノ後退出ノコト

ハ 陪 觀

- 一 水泳陪觀者ハ場外適當ノ場所ニ集合シ各團體ヲ成シテ午前九時三十分迄ニ入場所定位置ニ整列ヲ終ルコト
- 二 陛下還啓數分ノ後退出ノコト

第二節 奉迎掛員及分擔事務

(一) 一般關係

(氏名順序不同)

○ 庶務掛

- 前田主事 川口主事 上原主事
- 一 一般計畫ニ關スル事項
- 二 宮内省トノ連絡事項
- 三 各掛ノ連絡ニ關スル事項
- 四 他掛ニ屬セサル事項

○ 經理掛

- 上原主事 土生主事
 - 一 豫算ニ關スル事項
 - 二 調度ニ關スル事項
 - 三 其ノ他經理ニ關スル事項
- 別錄 復興帝都御巡啓

○ 監察掛

大野主事

- 一 各掛事務實施計畫ニ關スル事項
- 二 事務實施ノ視察督勵及連絡ニ關スル事項

○ 記録掛

川口主事

- 一 記録及寫眞撮影ニ關スル事項

○ 御道筋

- 近 局長 鈴木主事 神谷技師
- 森田技師 衣斐技師

○ 電氣掛

- 一 御道筋ノ道路橋梁下水ニ關スル事項
- 齋藤局長 安倍技師 北林主事

千葉主事 平野副收入役 福井主事

高島主事 林主事 古屋技師

影山技師

一 御道筋ノ軌道架線等ニ關スル事項

二 電車乗合自動車ノ交通ニ關スル事項

○警衛掛

原局長 武藤主事 仲田技師

岩崎技師 小野(基)技師 篠崎主事

一 警衛ニ關スル事項

○救護係

酒井技師

一 救護ニ關スル事項

○警備掛

小野(二)技師

一 設備其ノ他警備ニ關スル事項

(二) 大富小學校關係

○儀式掛

藤井局長 榛葉區長

一 奉迎送ニ關スル事項

二 御先導及御誘導ニ關スル事項

三 單獨拜謁ニ關スル事項

四 御休所其ノ他御巡覽箇所ノ整備ニ關スル事項

○拜謁掛

石橋書記長 小木收入役 見山囑託

大野主事

一 列立拜謁者ノ通知及名簿作製ニ關スル事項

二 列立拜謁ニ關スル事項

三 列立拜謁者ノ接待ニ關スル事項

○教育掛

井上主事

一 御巡覽各室ノ授業及陳列品ニ關スル事項

二 兒童ノ體操ニ關スル事項

○接待掛

山下局長 工藤主事

一 供奉扈從員及函簿關係者ノ接待ニ關スル事項

○陪觀掛

二 御先導及御誘導ニ關スル事項

○記念館掛

井下技師

一 記念館陳列品ニ關スル事項

○奉拜掛

西川主事 大堀區長

一 奉拜者ノ受付及接待ニ關スル事項

○新聞寫眞班掛

萱場主事

一 新聞通信記者及寫眞班員ノ接待ニ關スル事項

二 情報ニ關スル事項

(四) 隅田公園關係

○儀式掛

石橋局長

一 奉迎送ニ關スル事項

二 御先導及御誘導ニ關スル事項

○水滌係

井下技師

千葉主事 平野副收入役 福井主事

高島主事 林主事 古屋技師

影山技師

一 御道筋ノ軌道架線等ニ關スル事項

二 電車乗合自動車ノ交通ニ關スル事項

○警衛掛

原局長 武藤主事 仲田技師

岩崎技師 小野(基)技師 篠崎主事

一 警衛ニ關スル事項

○救護係

酒井技師

一 救護ニ關スル事項

○警備掛

小野(二)技師

一 設備其ノ他警備ニ關スル事項

(二) 大富小學校關係

○儀式掛

藤井局長 榛葉區長

一 奉迎送ニ關スル事項

二 御先導及御誘導ニ關スル事項

○記念館掛

井下技師

一 記念館陳列品ニ關スル事項

○奉拜掛

西川主事 大堀區長

一 奉拜者ノ受付及接待ニ關スル事項

○新聞寫眞班掛

萱場主事

一 新聞通信記者及寫眞班員ノ接待ニ關スル事項

二 情報ニ關スル事項

(四) 隅田公園關係

○儀式掛

石橋局長

一 奉迎送ニ關スル事項

二 御先導及御誘導ニ關スル事項

○水滌係

井下技師

○儀式掛

石橋局長

一 奉迎送ニ關スル事項

○水滌係

井下技師

○奉迎送ニ關スル事項

別錄 復興帝都御巡啓

帝都復興祭志

一 水泳ニ關スル事項

○陪觀掛

藤岡主事 池園區長

一 陪觀者ノ決定、通知ニ關スル事項

二 陪觀者ノ受付及整列ニ關スル事項

○新聞寫眞班掛

佐藤主事

一 新聞通信記者及寫眞班員ノ接待ニ關スル事項

二 情報ニ關スル事項

○西側奉拜掛(プール入口前)

黒川主事

一 奉拜者ノ受付及接待ニ關スル事項

○東側奉拜掛(枕橋入口内)

岡崎主事

一 奉拜者ノ受付及接待ニ關スル事項

○市立學校代表奉拜掛

廣田視學

一 市立學校代表者ノ奉拜ニ關スル事項

七〇〇

○注意
右ノ如ク定ムルモ他ニ連涉スル事項又ハ臨時突發ノ事項ニ付テハ擔任外ト雖臨機ノ處置ヲ取り支障ナカラシムル様スルコト
御巡啓御時間割

午前八時	三五分	宮城御出門	
八	五二	東京市大宮尋常小學校御着	御發
九	一二	同	御發
九	一九	震災記念堂	御着
九	三四	同	御發
九	三五	東京同愛記念病院	御着
〇	五	同	御發
〇	一八	隅田公園プール (公園内水泳場へ御立寄)	御着
〇	三三	同	御發
〇	四三	府立第一高等女學校	御着
〇	一三	同	御發
一	三〇	宮城御着	御發

一 監察事務

御巡啓奉迎に關する事務に遺漏ならしむるために、前述の如く本市は監察掛を設け左の事務を主管せしめた。

イ 事務要綱

一 豫メ各掛員ノ分擔受持ノ詳細ヲ調査シ置ク事

二 御立寄箇所及御巡路ヲ巡回シ前號計畫實施狀況ヲ視察シ之ヲ督勵スルコト

三 事務上連絡ヲ缺キ其ノ他不都合ノ點ヲ發見シタルトキハ關係者ニ注意スルコト

四 各掛ノ計畫實施狀況ヲ時々上司ニ報告スルコト

ロ 事務ノ實施及分擔

一 各掛ニ於ケル事務ノ實施計畫及其ノ分擔ハ可成六月三十日中取纏メテ了シ上司ニ供覽スルコト

二 各分擔ニ從ヒ御立寄箇所及御巡路等ヲ巡回シ計畫實施ノ狀況ヲ視察督勵ヲナスコト

三 各掛ニ於ケル事務計畫實施狀況ヲ視察シ時々上司ニ報告ヲ爲スコト

四 監察事務分擔

掛事務一般主任

監察掛庶務主任

一般關係事務ノ監察主任

庶務、經理、記録、御道筋、電氣、警衛、救護、營繕ノ各掛

大宮尋常小學校關係事務ノ監察

別錄 復興帝都御巡啓

七〇一

儀式、拜謁、教育、接待、陪觀、受附、自動車、新聞寫眞ノ各掛

震災記念堂關係事務ノ監察

儀式、記念館奉拜、新聞寫眞ノ各掛

隅田公園關係事務ノ監察

儀式、水泳陪觀、新聞寫眞、西側奉拜、東側奉拜、市立學校代表奉拜ノ各掛

但シ各監察事務ニ付主任ノ監察掛員ハ總ヘテ兼務タルヘキコト

監察掛員心得

一 監察掛事務掛員奉迎式當日ハ午前七時〇分迄各自擔任ノ部署ニ就キ掛主任ノ指揮ヲ俟ツテ其ノ勤務ヲ解除スルコト

二 監察掛員ハ豫メ分擔事務ノ實施計畫及其ノ擔任者ヲ調査シ置キ實施ノ狀況ヲ視察督勵ヲ爲スコト

三 各掛ノ事務連絡ヲ缺キ其ノ他不都合ノ點ヲ發見シタル時ハ關係者ニ注意スルト共ニ上司ニ報告スルコト

四 監察掛事務ノ施行ニ付テハ掛員間能ク連絡ヲ保チ齟齬ヲ來サ、ル様留意遺漏ナキヲ期スルコト

五 監察掛各掛員ハ事務終了後監察事務施行ノ狀況ヲ掛主任天野主事ニ報告スルコト

六 掛員服装ハ、フロックコート又ハ、モーニングコートノコト

二 警衛事務

御巡啓當日御道筋竝御立寄箇所の外一般警衛に遺漏なきを期する爲左の如く警衛方法を定め

要項

○庶務係

主務 武藤主事

係員 一五人

附屬員 一〇人

(イ) 庶務 五人

附屬員 一〇人

(一) 警衛事務ニ關スル諸交渉ヲ爲スコト

(二) 他ノ係ニ屬セサル事項ヲ處理スルコト

(ロ) 連絡 五人

(一) 警衛掛各係ノ連絡ヲ爲スコト

(二) 警衛關係各官署ト連絡ヲ爲スコト

(ハ) 記録

(一) 記録ニ關スル事項ヲ處理スルコト

(二) 其ノ他通報ニ關スル事項ヲ處理スルコト

○大宮小學學校

主務 小野技師

係員 一五人

(イ) 校内警衛 七人

別錄 復興帝都御巡啓

- (一) 校内各階ノ檢索ヲ爲スコト
- (二) 所定ノ標章ヲ所持スルモノニアラサレハ出入シ得サル場所ニハ其ノ標章ヲ所持セサルモノヲ出入セシメサル様注意スルコト
- (三) 通行禁止箇所ヲ通行セシメサル様注意スルコト
- (四) 警戒区域内ニ傷病者ヲ發見シタル時ハ救護班ト協力シテ應急措置ヲ爲スコト
- (五) 掛員ハ午前 時迄ニ各其ノ部署ニ着クコト

○震災記念堂

主務 篠崎 主事

係員 六〇人

附屬員 二人

- (イ) 周圍警衛 三九人
 - (一) 周圍竝入口ヲ警戒スルコト
 - (二) 所定ノ標章ヲ所持スルモノニアラサレハ出入シ得サル場所ニハ其ノ標章ヲ所持セサルモノヲ出入セシメサル様注意スルコト
 - (三) 通行禁止箇所ヲ通行セシメサル様注意スルコト
 - (四) 警戒区域内ニ傷病者ヲ發見シタル時ハ救護班ト協力シテ應急措置ヲ爲スコト
 - (五) 係員ハ午前 時迄ニ各其ノ部署ニ着クコト
- (ロ) 奉拜者席附近警衛 一〇人
 - (一) 奉拜者ノ警衛ヲ爲スコト

○隅田公園枕橋奉拜所係

主務 仲田技師

係員 六〇人

附屬員 二人

- (イ) 枕橋奉拜所警衛 六〇人
 - (一) 枕橋際奉拜所ヲ警戒スルコト
 - (二) 所定ノ標章ヲ所持スルモノニアラサレハ出入シ得サル場所ニハ其ノ標章ヲ所持セサルモノヲ出入セシメサル様注意スルコト
 - (三) 通行禁止箇所ヲ通行セシメサル様注意スルコト
 - (四) 警戒区域内ニ傷病者ヲ發見シタル時ハ救護班ト協力シテ應急措置ヲナスコト
 - (五) 係員ハ午前 時迄ニ各其ノ部署ニ就クコト

別錄 復興帝都御巡啓

○ 隅田公園ブール係

主務 岩崎技師
係員 十五人
附屬員 二人

- (イ) 場内警衛 七人
- (一) 場内ノ檢索警戒ヲ爲スコト
- (二) 所定ノ標章ヲ所持スルモノニアラサレハ出入シ得サル場所ニハ其ノ標章ヲ所持セサルモノヲ出入セシメサル様注意スルコト
- (三) 通行禁止箇所ヲ通行セシメサル様注意スルコト
- (四) 係員ハ午 前迄ニ各其ノ部署ニ就クコト
- (ロ) 場外周圍警衛 八人
- (一) 場外周圍竝入口ノ警戒ヲ爲スコト
- (二) 所定ノ標章ヲ所持スル者ニアラサレハ出入シ得サル場所ニハ其ノ標章ヲ所持セサルモノヲ出入セシメサル様注意スルコト
- (三) 通行禁止箇所ヲ通行セシメサル様注意スルコト
- (四) 警戒區域内ニ傷病者ヲ發見シタルトキハ救護班ト協力シテ應急措置ヲ爲スコト
- (五) 係員ハ午前 時迄ニ各々其ノ部署ニ就クコト
- (ハ) 警戒掛員心得
- 一 掛員 所定執務時刻ノ三十分前ニ勤務場所ニ參着シ其ノ主任ノ指揮ヲ俟ツコト

二 七月四日雨天其ノ他ノ爲御巡啓ノ有無不明ノ場合ハ一應定刻迄ニ其ノ勤務場所ニ參着シ主任ノ指示ヲ受クルコト

- 三 掛員ニ於テ重要ナリト認メタル事項ハ主務委員ノ指揮ヲ俟ツテ之ヲ處理スルコト但シ緊急已ムヲ得サル場合ハ適當ニ之ヲ處理シ直チニ其ノ旨ヲ主務委員ニ報告スルコト
- 四 各係主務委員ハ事務ノ終了後其ノ處理シタル事項ヲ掛長ニ報告スルコト
- 五 掛員疾病等ノ徵候アル場合ハ其ノ旨ノ主任ニ届出テ勤務ヲ遠慮スルコト
- 六 掛員ハ主務委員ノ指揮ヲ俟ツテ然ル後ニ其ノ勤務ヲ解除スルコト
- 七 警衛掛本部ハ水道局ニ置ク
- 八 掛員服装

- (イ) 委員以上
「プロックコート」又ハ「モーニングコート」帽子「シルクハット」
- (ロ) 掛員
制服アルモノハ制服其他ノ者ハ「プロックコート」又ハ「モーニングコート」帽子可成シルクハット又ハ黒山高

三 救護事務

御巡啓當日本市は主要箇所に救護所を設け傷病者應急救護に備へた。

イ 要 項

救療箇所

別録 復興帝都御巡啓

- 第一 麴町區丸ノ内三丁目市役所水道局構内
- 第二 深川區仲大工町二七深川タクシ一際
- 第三 深川區富川町大富小學校
- 第四 本所區永倉町永倉公園内
- 第五 本所區横網町震災記念堂前
- 第六 本所區吾妻橋一ノ八廣盛堂藥舖隣
- 第七 本所區新小梅町隅田公園内(枕橋脇)
- 第八 淺草區新谷町一四壽仙院内千束町交番横
- 第九 淺草區永住町五四榮藏寺境内
- 第十 神田區東松下町一五幸隆社印刷所隣

救護所ノ組織

二 一所ハ醫員二名事務員二名看護婦二名雜役夫二名ヲ以ツテ編成ス但シ狀況ニ依リ増員又ハ減員スル

コトアルヘシ

三 救護ノ方法

- イ 本市警衛部及警視廳警衛隊ト連絡ヲ圖リ敏速ニ患者ノ收容處置ヲ成スコト
- ロ 重症者ハ最寄ノ市立病院ヘ送致スルコト

四 救護員配置

- 救護本部 主任他十九名
- 第一救護所 主任他 五名

- 第二救護所 主任他 五名
- 第三救護所 主任他 五名
- 第四救護所 主任他 五名
- 第五救護所 主任他 五名
- 第六救護所 主任他 五名
- 第七救護所 主任他 五名
- 第八救護所 主任他 五名
- 第九救護所 主任他 五名
- 第十救護所 主任他 五名

□ 救護員心得

- 一 救護員ハ午前七時迄ニ各擔任救護所ニ參集シ擔任事務ニ從事シ服務中濫ニ部署ヲ離ルヘカラス
- 二 救護醫員ハ服務中白色ノ手術着ヲ看護婦ハ看護着ヲ着用シタル上所定ノ腕章ヲ纏付スヘシ
- 三 救護所ニハ標識ヲ公衆ノ見易キ場所ニ確實ニ揭示スヘシ
- 四 重症者ニシテ引續キ治療ヲ要スト認ムル者ニシテ引取人ナキ者アルトキハ本部電話丸ノ内九九五番ニ通報シ別紙第一號様式略送致書ト共ニ最寄ノ市立病院ニ送致スヘシ
- 五 傷病者多數ニシテ救護力ニ不足ヲ告クル場合ハ本部ニ報告シ衛生課長ノ指示ヲ受ケ或ハ隣接救護所ノ援助ヲ求ムル等臨機ノ處置ヲナスヘシ
- 六 救護ニ關シ重要事件發生シタルトキハ電話其ノ他便宜ノ方法ヲ以ツテ直チニ衛生課長ニ報告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

- 七 救護材料不足ヲ來ス虞レアル場合ハ直ニ本部ニ請求スヘシ
- 八 救護所ノ閉鎖ニ關シテハ衛生課長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 九 救護所ヲ閉鎖シタルトキハ物品ヲ取纏メ監守ヲ附シ本部員ノ指示ヲ待ツヘシ
- 十 救護所ヲ閉鎖シタルトキハ主任者ハ直チニ別紙第二號様式略ニヨリ傷病者救護概況報告書ヲ作製シ本部ニ參集シ之ヲ衛生課長ニ提出スヘシ

四 奉拜並拜謁事務

皇后陛下御巡啓に當り、御立寄箇所震災記念堂構内及隅田公園枕橋入口並同ブル入口に於て、市内名譽職等の鹵薄奉拜のためには各設備を整へ、尙ほ同日東京市大富尋常小學校に於て下記の如く拜謁を給はることとなつて之等の準備を整へた。

イ 特別奉拜

御巡啓當日特別奉拜に關する準備は前章第一節奉迎要綱に掲述したる方針に基き六月三十日秘發第三十八號を以て市會議員外左記資格者に對し次の如く通牒を發した。

來ル七月四日(強雨ノ際ハ六日)皇后陛下市内御巡啓ニ付貴區關係左記資格者ニ對シ特別奉拜差許サルヘク候間希望者ニ對シ左記方法ニ依リ奉拜セシムル様御取計相成度候也

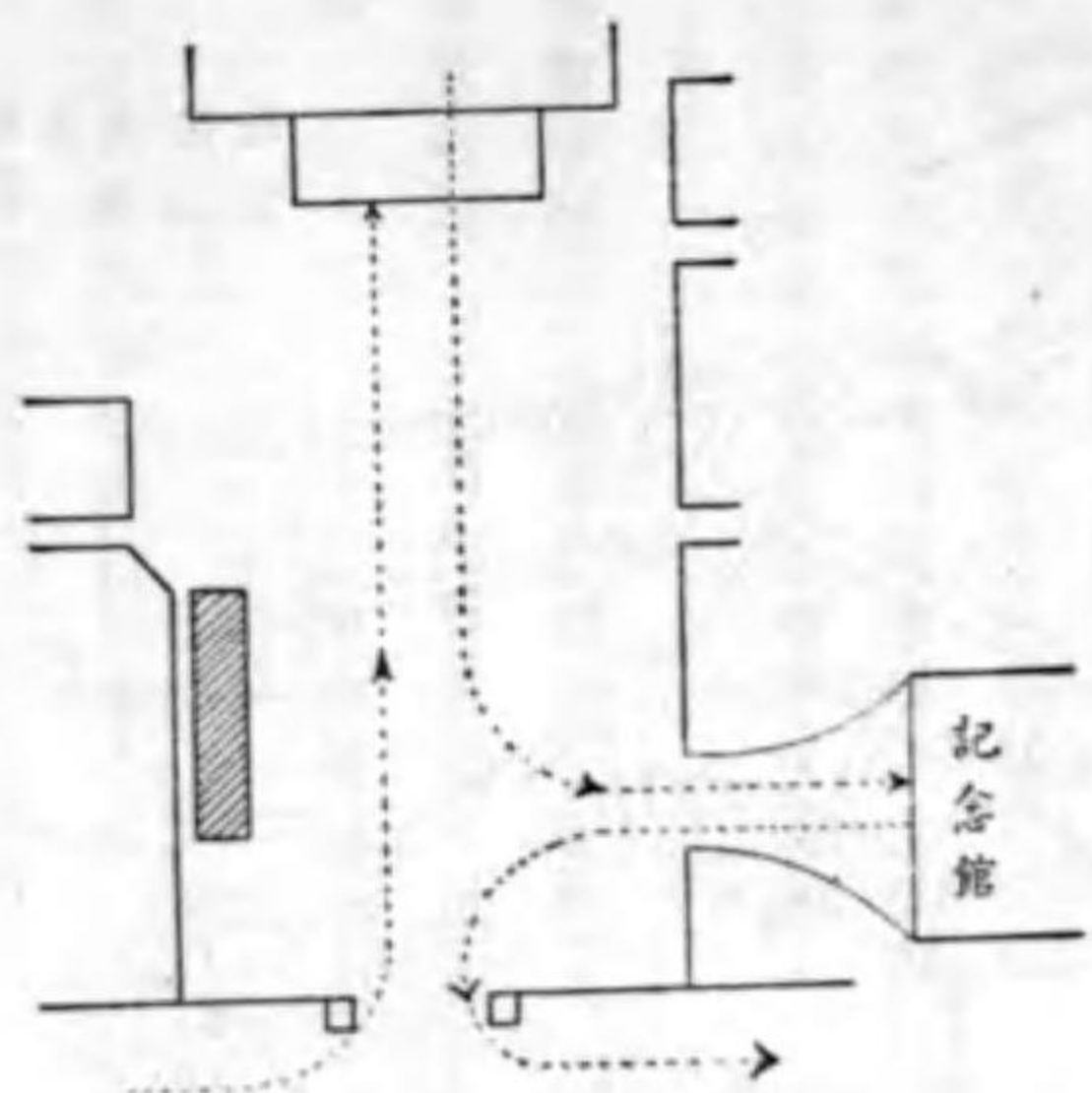
追テ奉拜人名書來ル三日午後三時迄ニ到達スル様御送付相成度尙奉拜者用徽章ハ明日御送付申上候間奉拜者ニ對シ御交付相成度不足ヲ生シ候節ハ至急追求或ハ返戻相成度候

一 奉拜資格者

區會議員、區會議員待遇者、區學務委員、相續稅審査委員、所得稅調査委員、家屋稅調査委員

震災記念堂

奉拜位圖



凡例

(ハ) 右ノ外別紙注意事項ニ依ルコト
 (ロ) 奉拜位圖ニ於テ
 奉拜位置ニ付
 市會議員、區會正副議長、市學務委員、區學務委員長

皇后陛下御巡啓ニ關シ奉拜方法並
 注意事項

- 一 奉拜者ハ所定ノ徽章ヲ左胸部ニ佩用セラ
ルコト
- 二 當日御道筋附近ノ道路ハ相當混雜シ事實
上交通杜絶シ得サル場合アルトキモ計ラ
レスル際ニハ其ノ入場ヲ拒絶スルノ止
ムナキニ到ルヘキニ付可成早ク入場セラ

陽田公園御立寄所と御道筋



- 三 身體虛弱ナルモノ又ハ疾病ノ徴候アルモノノ奉拜ハ遠慮セラルルコト
- 四 奉拜者ニハ特ニ左ノ事項ヲ注意セラルルコト
 - (イ) 洋服又ハ羽織袴其ノ他敬禮ヲ失セサル服装着用ノコト
 - (ロ) 履物ハ可成靴又ハ草履ト爲スコト
 - (ハ) 他ノ奉拜者ノ妨害又ハ危険トナルヘキ杖其ノ他ノ物件ヲ携帯セサルコト
 - (ニ) 専ラ静肅ヲ旨トシ薄御通過後ト雖警察官ノ指示アルマテハ現狀ヲ保チ濫ニ退場若クハ移動セサルコト
 - (ホ) 警察官其ノ他係員ノ指示ニ従ハルルコト
 - (ヘ) 雨除ノ設備ナシ
 - (ト) 車馬置場ノ設備ナシ
- 五 奉拜者ハ入場ノ際公職氏名住所ヲ記シタル名刺ヲ受付ニ呈示スルコト

□ 拜謁

御巡啓當日東京市大富尋常小學校に於て拜謁仰付けらるることとなつて本市は拜謁者に左の如く通牒を發した。

單獨拜謁者への通知

昭和六年七月一日

東京市長 永田秀次郎

單獨拜謁者宛

皇后陛下來ル七月四日當日強雨ノ節ハ六日東京市大富尋常小學校ニ行啓被爲在候處拜謁被仰付け候趣ニ有之候就テハ左記事項御承知ノ上御當日ノ參否折返シ御回答相成度候也

追而拜謁者ハ不止得場合ヲ除クノ外中途ニ於テ變更相成候間申添候

記

- 一 參着場所 東京市深川區富川町東京市大富尋常小學校
- 一 參着時刻 七月四日強雨ノ節ハ六日午前八時二十分迄
- 一 服裝 フロツクコート又ハモーニングコート帽子ハシルクハット但シ山高帽ヲ以テ代フルコトヲ得
- 一 當日大富小學校附近ニ於テ萬一交通遮斷等ノ場合ハ同封拜謁證御示シノ上御通行相成度候

單獨拜謁者

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 内務大臣 | 從三位勳一等 | 安達謙藏 |
| 文部大臣 | 從三位勳一等 | 田中隆三 |
| 東京府知事 | 從三位勳二等 | 牛塚虎太郎 |
| 東京市會議長 | 從二位勳二等 | 伯耆柳澤保惠 |
- 別錄 復興帝都御巡啓

帝都復興祭志

東京市長 從四位勳四等 永田秀次郎
 東京市會副議長 溝口 信
 東京市助役 從四位勳四等 菊池 慎三
 東京市助役 十時 尊

昭和六年七月一日

列立拜謁者へノ通知

東京市長 永田秀次郎

拜啓陳者

皇后陛下來ル七月四日(當日雨天ノ節ハ六日)復興都市御巡啓被爲在御立寄所東京市大富尋常小學校ニ於テ拜謁被仰付候趣ニ有之候ニ就テハ左記事項御承知ノ上當日參向ノ有無別紙ニ夫々御記入來ル 日迄ニ無相違御回答相成度候也
 追而當日迄ニ御回答無之向ハ不參トシテ處理致可ク尙拜謁者ハ萬々不止得場合ヲ除クノ外中途ニ於テ變更難相成候條申添候

記

- 一 參着場所 東京市深川區富川町東京市大富尋常小學校(市電徳右衛門町停留所)
- 一 參着時 七月四日(雨天ノ節ハ六日)午前八時迄
- 一 服裝 「フロックコート」又ハ「モーニングコート」「シルクハット」制服アルモノハ之ニ相當スル制服但シ帽子ハ「山高帽」ヲ以ッテ代フルコトヲ得
- 一 別紙室内傳染病豫防令抜萃同封致置候ニ付御承知相成度

拜謁ニ關スル回答

來ル七月四日(當日雨天ノ節ハ六日)御巡啓被爲在東京市大富尋常小學校ニ於テ拜謁被仰付候旨通牒ノ趣了承當日不參向可致候間可然御取計相成度候也

昭和六年 月 日

東京市長 永田秀次郎 殿

拜謁者

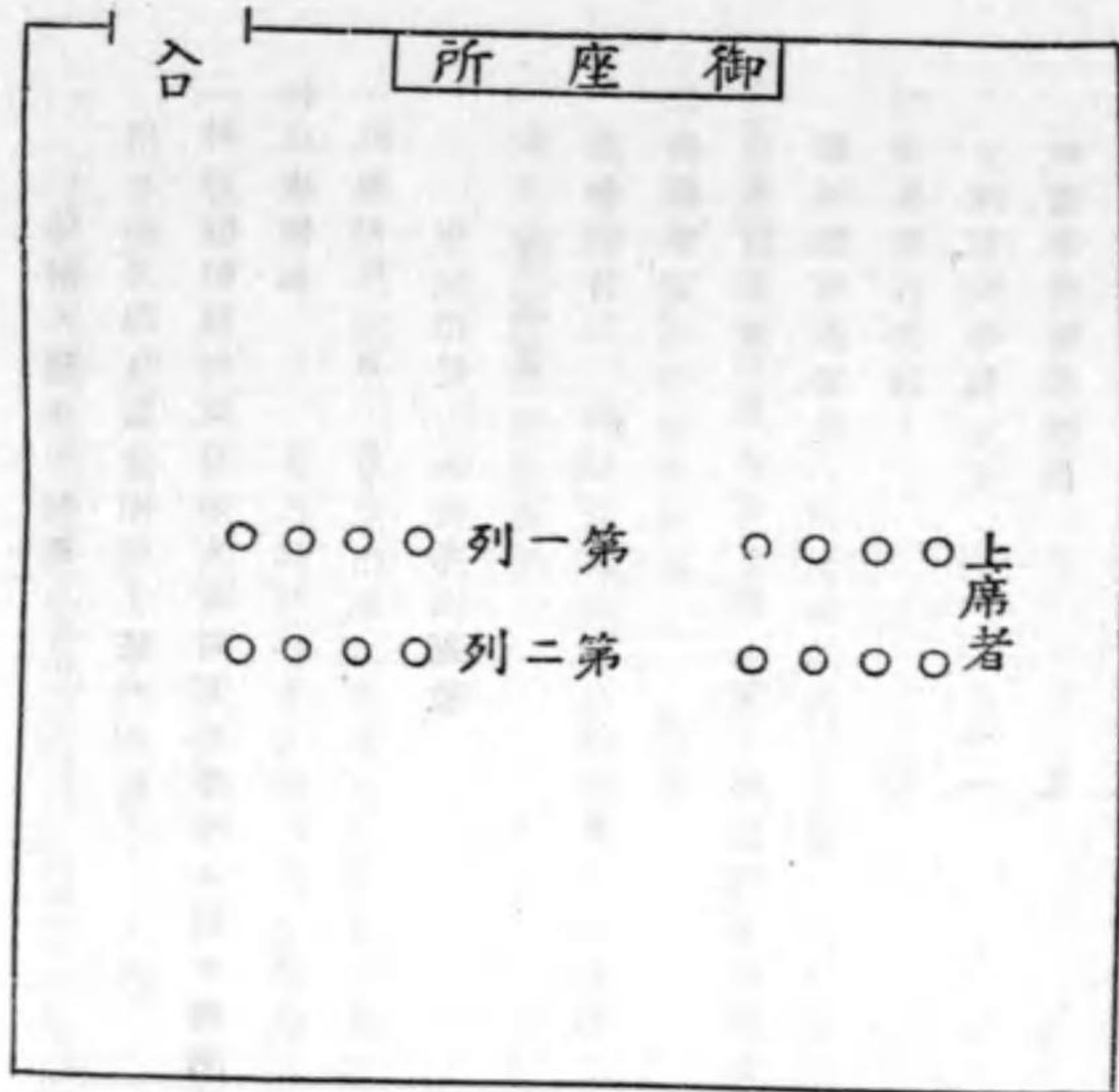
市會議員 八一人
 同待遇者 八五
 市學務委員 六
 養育院常設委員 三
 衛生常設委員 一〇
 公園常設委員 一一
 社會事業常設委員 七
 方面委員長 三二
 區會正副議長 三〇
 區學務委員長 一五
 課長區長以上ノ吏員 八〇
 計 三六〇

別錄 復興帝都御巡啓

拜謁事務

一 拜謁者參着ノトキハ受付掛ニ於テ徽章ヲ交付シ同掛員控室迄誘導スルヲ以テ控室擔當係員ハ左記ニ依リ控室内ヘ混雜ナキ様案内スルコト

控室ハ第一第二ノ順序ニ依リ先着順ニ案内スルコト 但シ市吏員ハ第三控室トス



一 拜謁者ノ到着時限午前八時ヨリ十分過キタル頃各控室主任ハ拜謁ニ對シ拜謁ノ方法其ノ他必要ナル事項ヲ注意スルコト

特ニ第一控室主任ハ最上位ニ就ク者ニ對シテハ豫メ前進位置等ヲ打合置クコト

一 午前八時二十分ニ至リタル時ハ第一控室ヨリ第三控室拜謁者ヲ拜謁所ヘ誘導スルコト

一 拜謁所ヘハ一列二十人毎ニ係員先行スルコト

一 先行係員拜謁所内ノ整列ヲ終リタル時ハ直ニ拜謁者ノ後方ニ退クコト

一 拜謁所内ノ整列ニ御座所ニ向ヒ二十人ツツ横ニ整列シ順次後列ニ及フコト其ノ位置左ノ如シ

一 拜謁者又ハ拜謁掛員ノ徽章ナクシテ拜謁所ニ入ラントスル者アル時ハ拜謁所擔當係員ハ之ヲ注意シ資格ナキ時ハ入場セシメサルコト

一 拜謁所係員ハ御還啓後退出差支ナキ旨合圖ヲナスコト

一 掛員ノ分掌事項左ノ如シ(順序不同)

第一列立拜謁者控室
主任 石橋書記長 係員 六名

第二列立拜謁者控室
主任 小木收入役 係員 三名

第三列立拜謁者控室
主任 見山囑託 係員 三名

拜謁所
主任 大野主事 係員 八名

連絡係
係員 五名

- 一 掛員ハ當日午前七時迄ニ東京市大富尋常小學校(深川區富川町大富橋際府立實科工業學校前市電徳右衛門町下車)ヘ參集セラルルコト
- 一 掛員服裝ハ「フロックコート」又ハ「モーニングコート」ノコト
- 一 參着ノ上ハ直ニ擔當部署ニ就キ且ツ準備上遺漏ノ廉ナキヤ點檢シ萬全ヲ期スル事
- 一 拜謁者退出後全掛員ハ拜謁者第一控室ニ參集ノ上退散セラルルコト
- 一 拜謁者心得
 - 一 當日午前八時迄ニ東京市深川區富川町東京市大富尋常小學校受付係ニ拜謁者之證ヲ提示シ係員ノ誘

別錄 復興帝都御巡啓

注意事項

一 本證表面ニハ氏名ヲ記入シ之ニ捺印シ必御携帶相成度候

一 交通遮断線ニ遭遇セラレタル時ハ本證ヲ示シ通過相成度候

昭和六年七月 日 東京市役所 印

拜謁者之證

第 號

氏 名

導ニ依リ控室ニ於テ休憩ノコト(時限後ハ受付ヲ爲サス)

二 服装「フロックコート」「モーニングコート」「シルクハット」服制アルモノハ之ニ相當スル制服但シ帽子ハ山高帽ヲ以ツテ代フルコトヲ得

三 別紙拜謁者之證ヲ當日必ス携帶ノコト

四 午前八時二十分係員ノ誘導ニ依リ拜謁場ニ入り整列セララルコト

五 陛下出御ノ際一齊ニ敬禮セララルコト

陛下御座所ニ立御アラセラレタルトキハ最上位者最前列ノ前中央ニ參進更ニ前進ノ上一同ト共ニ最敬禮ヲ爲シ後退元ノ位置ニ復スコト

入御ノ際一齊ニ敬禮スルコト

六 拜謁終ルモ其ノ位置ニ整列ノ儘トシ還啓後數分ノ後退出スルコト

五 其ノ他ノ事務

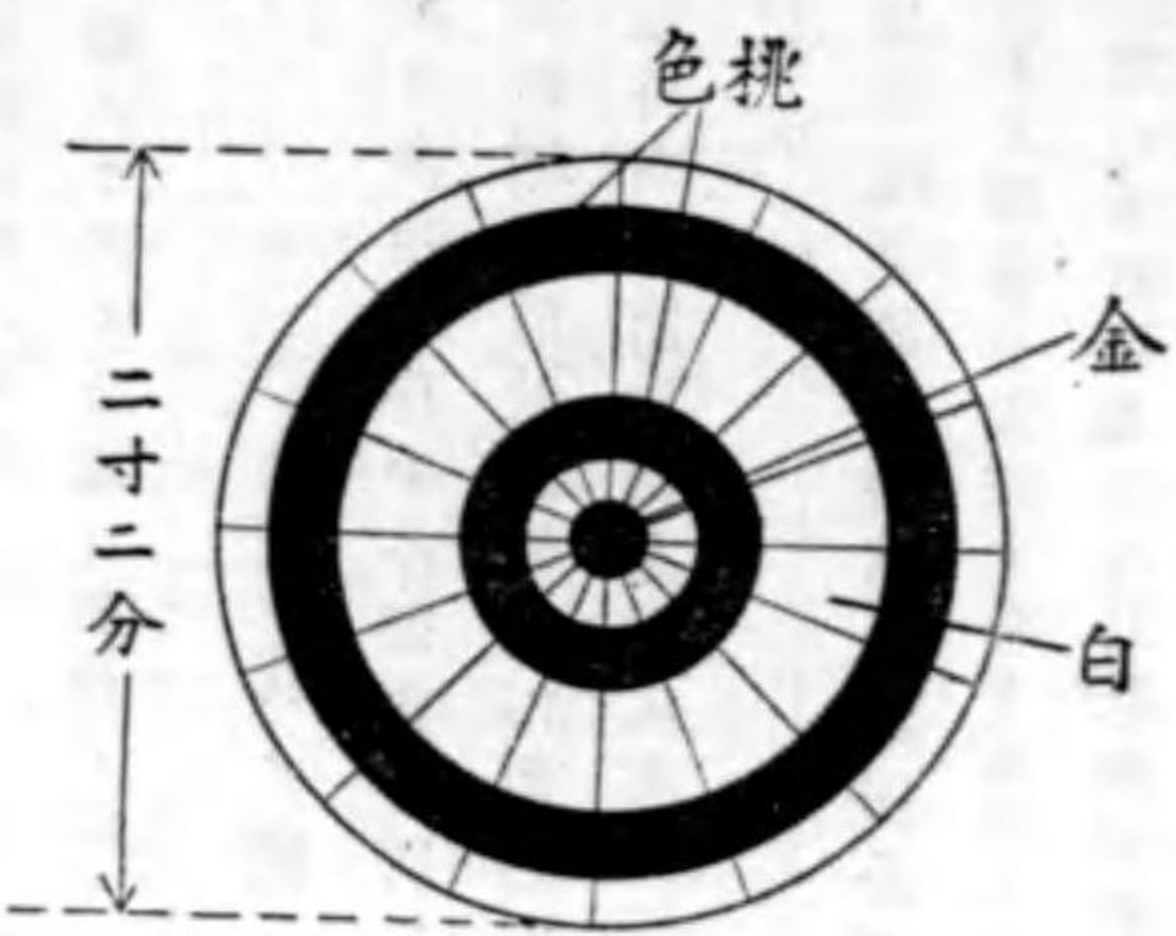
御巡啓當日奉迎事務中各御立寄所に於て供奉扈從員及鹵簿關係者接待設備を施し亦隅田公園ブール擔當新聞通信班寫眞班に對し左の通牒を發し尙御巡啓當日佩用徽章は別記の如く定め、かくして御巡啓奉迎諸準備を整へ七月二日準備完了と共に市長は御巡啓箇所を視察して事務の豫習を行つた。

皇后陛下御巡啓當日隅田公園ブール擔當新聞記者及寫眞班各位へ

一 陛下ノ御着ハ午前十時十八分ニ有之候ニ付當日ハ遅クモ一時間以前ニ御入園有之度

二 控席ハ本館更衣室内別紙圖面參照ノコトニ有之候

別錄 復興帝都御巡啓

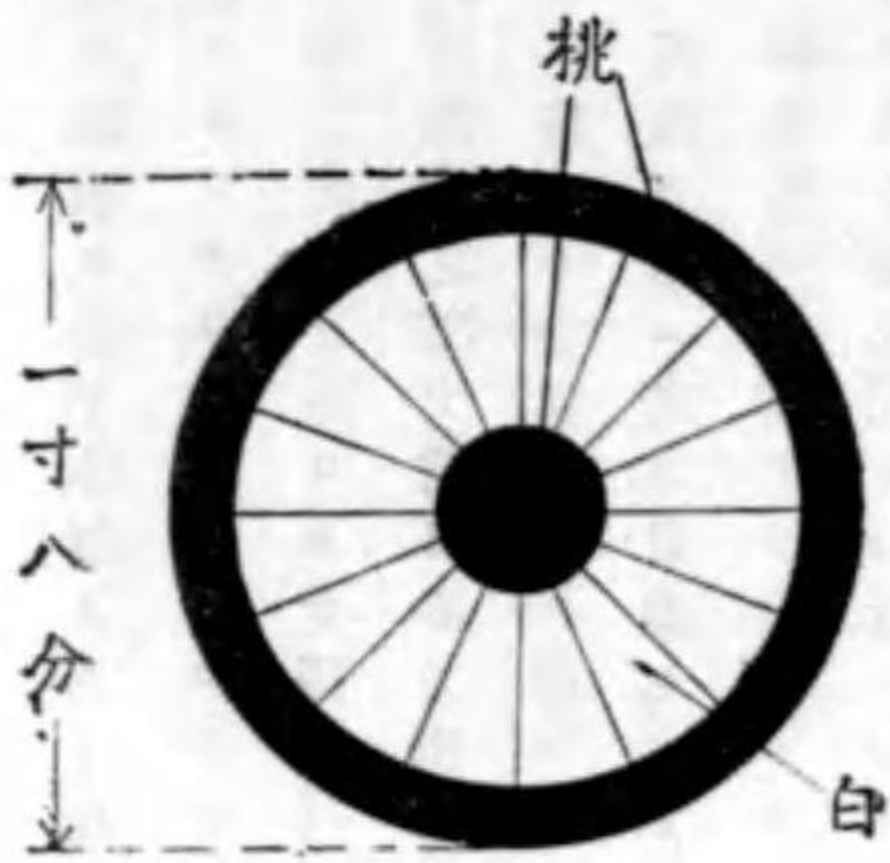


市長助役
市會正副議長
丸形上リボン



掛員
丸形リボン(小)

關係者徽章



局長 課長
區長
丸形リボン



奉拜者
丸形リボン

- 三 陛下ノ御着時限ノ三十分以前ニハブルー東側所定ノ場所ニ御參集相成度
 - 尙控席ヨリ其ノ場所ニ至ル順路ハ掛員ノ指示ニ據ラレ度
 - 四 御乗用ノ自動車ハ所定ノ場所ニ御差廻シ相成度
 - 五 ブール構内ノ狀況ハ新聞寫眞班員ヨリ情報可致候
 - 六 御參集者ノ佩用スヘキ徽章其ノ他寫眞撮影ニ關シテハ別ニ警視廳ヨリ指示ノ通り御承知相成度
- 以上右爲念御注意迄申上候

皇后陛下御巡啓當日佩用徽章

關係掛員及新聞通信記者及寫眞班員ノ徽章ハ別紙ノ通

御道筋掛、電氣掛、救掛、護ハ徽章ヲ付セス

(但御立寄箇所内ニ出入スルモノハ付ス)

特ニ監察掛、警衛掛、新聞掛、拜謁掛、奉拜所掛ノ徽章ハ各其



列立拜謁者用
(大富小學校ニ於テ)

ノ掛名ヲ記入スルコト

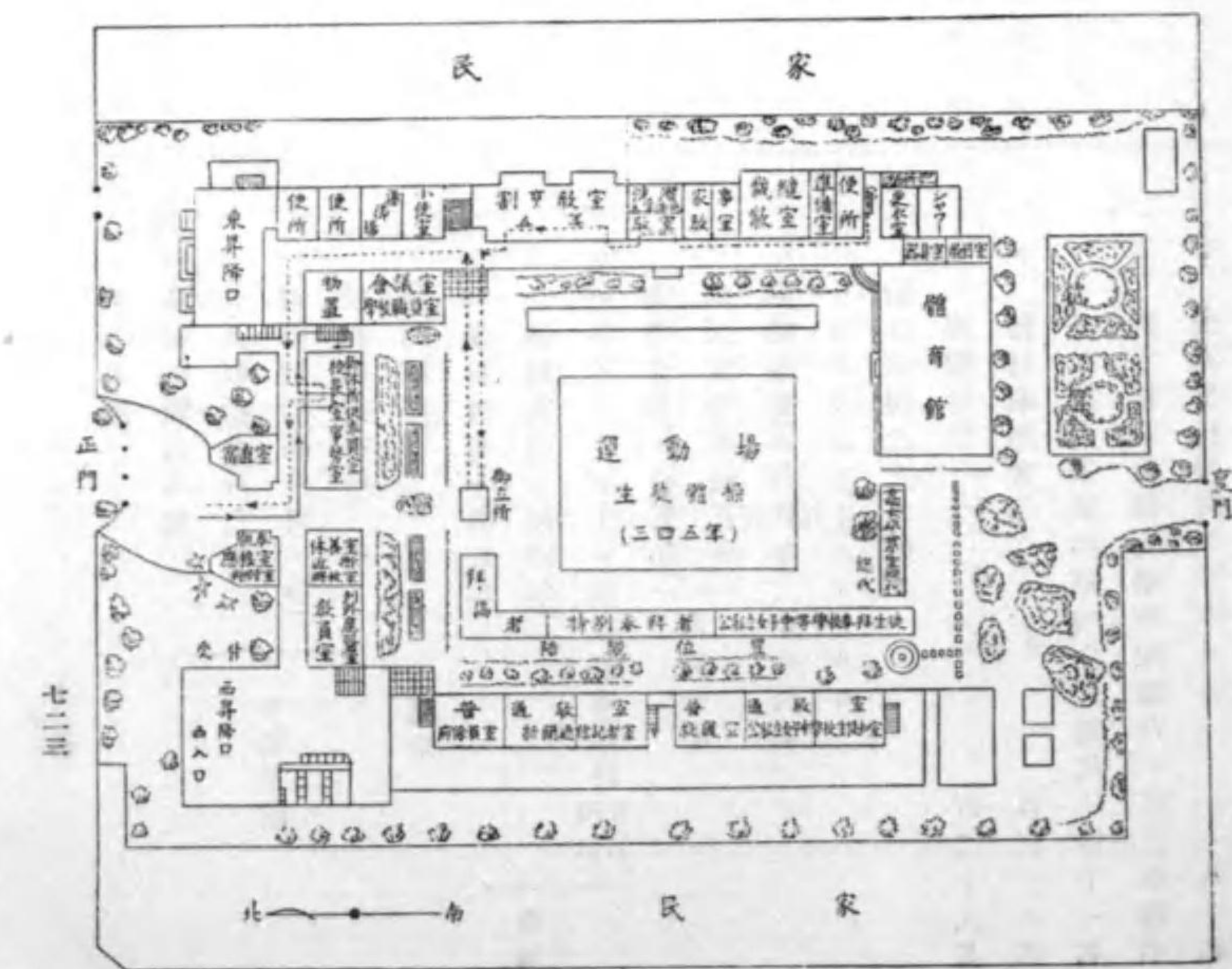
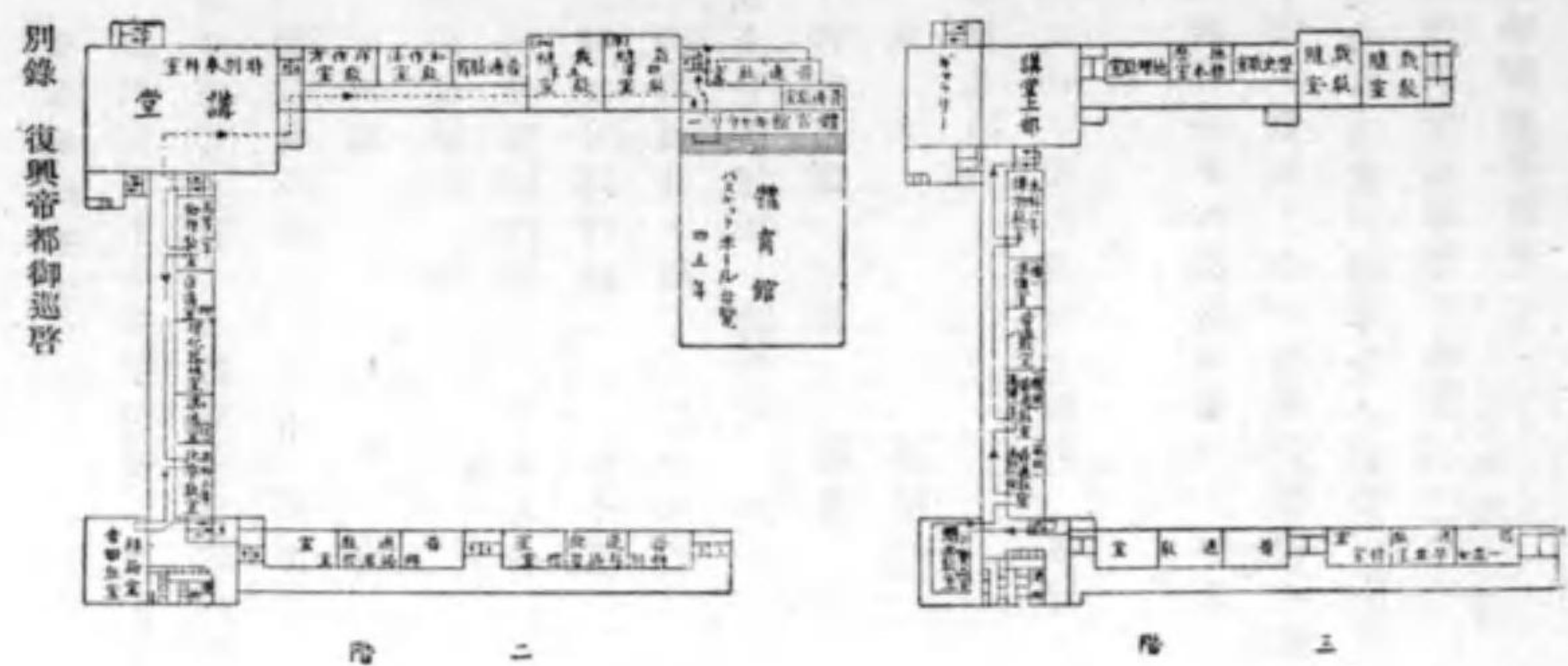
第三節 府立第一高等女學校行啓事務計畫

皇后陛下 復興帝都御巡啓に際し府立第一高等女學校へ行啓あらせらるることとなつて諸準備は東京府主管し左の事項を計畫した。

府立第一高等女學校行啓ニ關スル計畫事項

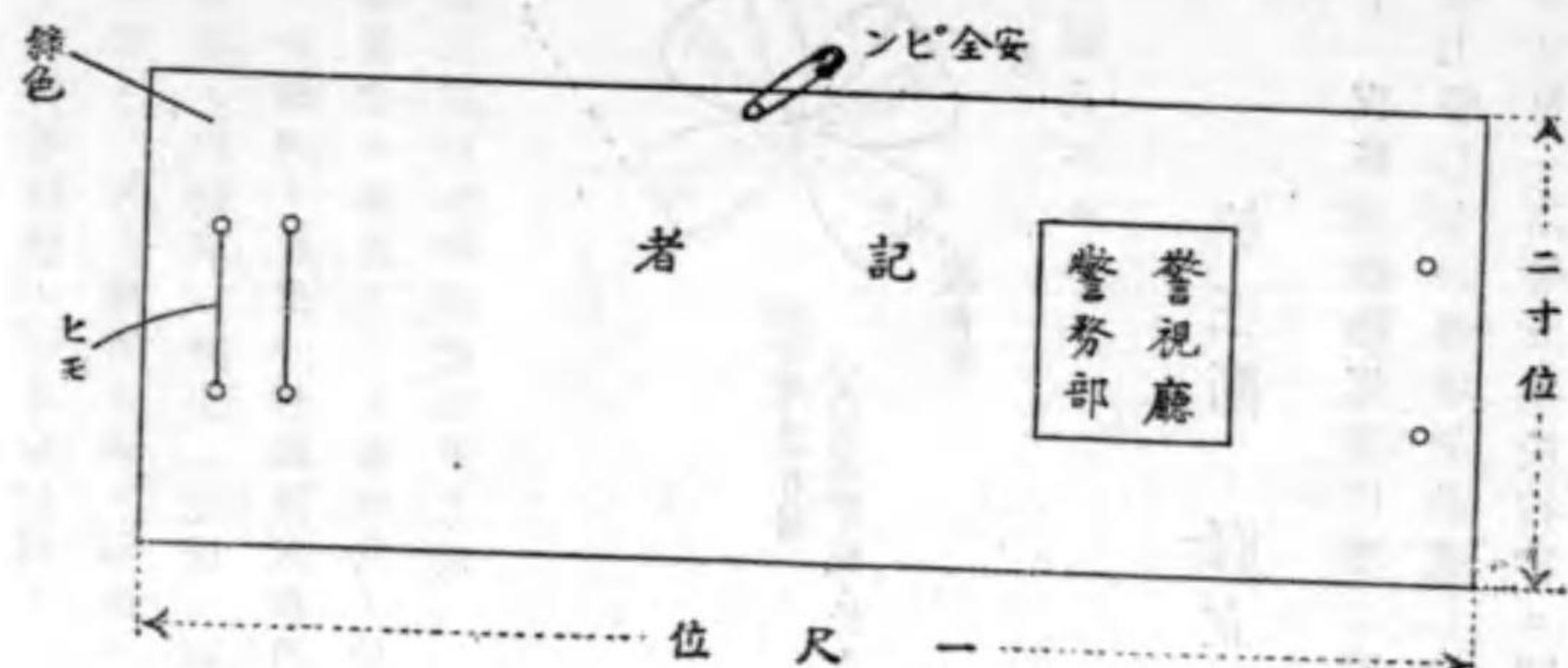
別錄 復興帝都御巡啓

圖面平舍校校學女等高一第立府京東



別錄
復興帝都御遊啓

腕章



帝都復興祭志

- 一 正門ニ於ケル奉迎送者次ノ如シ
- イ 學職校員 三十名正門内左側
- ロ 本府内務部長 (支關)
- ハ 學校長 (支關)
- 一 拜謁者次ノ如シ
- イ 單獨拜謁者於御休所
- 但シ左ノ三組ニ分チ三回ニ拜謁ヲ賜ルモノトス
- 本府部長 三名 學校長 一名
- 府會市部會郡部會各議長 三名
- 同 各副議長 三名
- ロ 列立拜謁者於音樂室
- 府會議員 七十九名
- 本府課長 十六名
- 行啓關係高等官同待遇及有資格者 十一名
- 行啓關係奏任待遇及有資格者學校職員十三名
- 一 講堂ニ於ケル特別奉拜者次ノ如シ
- イ 府會議員待遇者 三十四名

七三三

帝都復興祭志

- ロ 公私立女子中等學校長 九十七名
- 一 講堂控室ニ於ケル特別奉拜者ハ左記二名也
 - イ 初代學校長 大東 重善
 - ロ 元教諭 土取 信
- 一 本府係員次ノ如シ
 - イ 奏任官同待遇 二十九名
 - ロ 判任官同待遇 八十名
 - ハ 府吏員其ノ他 二十九名
- 一 献上品(御休所ニ陳列次ノ如シ)
 - イ 御座布團 三組 (知事)
 - ロ 玩具 (學校長)
- 一 臺覽品陳列
 - 本校生徒ノ製作品等ヲ陳列 臺覽ニ供ス
- 一 言 上
 - 御休所ニ於テ拜調後知事ヨリ言上ヲナシ女子中等學校ノ概況ト第一高等女學校ノ概要ヲ奏上ス
 - 一 校内御巡覽ノ順序次ノ如シ
 - 物理教授(高等科二年) 本館二階
 - 化學教授(本科三年)

七二四

列立拜調

- 生徒成績品臺覽
- 英語教授(本科二年)
- 國語教授(高等科一年)
- 植物教授(本科一年)
- 特別奉拜
 - 和裁縫實習(本科五年)
 - 洋裁縫實習(本科四年)
 - バスケットボール競技臺覽(本科四年)
 - 染色實習(本科五年)
 - 刺繍實習(本科五年)
 - 體操臺覽(本科四年)
 - ボルカセリイズ、マヅルカ
- 體操陪觀者次ノ如シ
 - イ 拜調者 百二十九名
 - ロ 特別奉拜者 百三十八名
 - ハ 公私立女子中等學校生徒總代 百一十一名
 - ニ 府立第一高等女學校生徒 七百名
 - ホ 同卒業生總代 八十名

講堂

本館三階

東館二階

行啓關係々員

五十名

- 一 校内ノ御先導次ノ如シ
- イ 正門ヨリ御休所へ 内務部長學校長同伴
- ロ 其ノ他 知事(同)
- 一 本府寫眞班ノ謹寫位置次ノ如シ

- イ 着御ノ際西入口附近ヨリ
- ロ 物理教室出御ノ際拜調室前ニ於テ(二階)
- ハ 臺覽品御巡覽ノ際入口外ヨリ(三階)
- ニ 體操臺覽ノ際
- ホ 還御ノ際

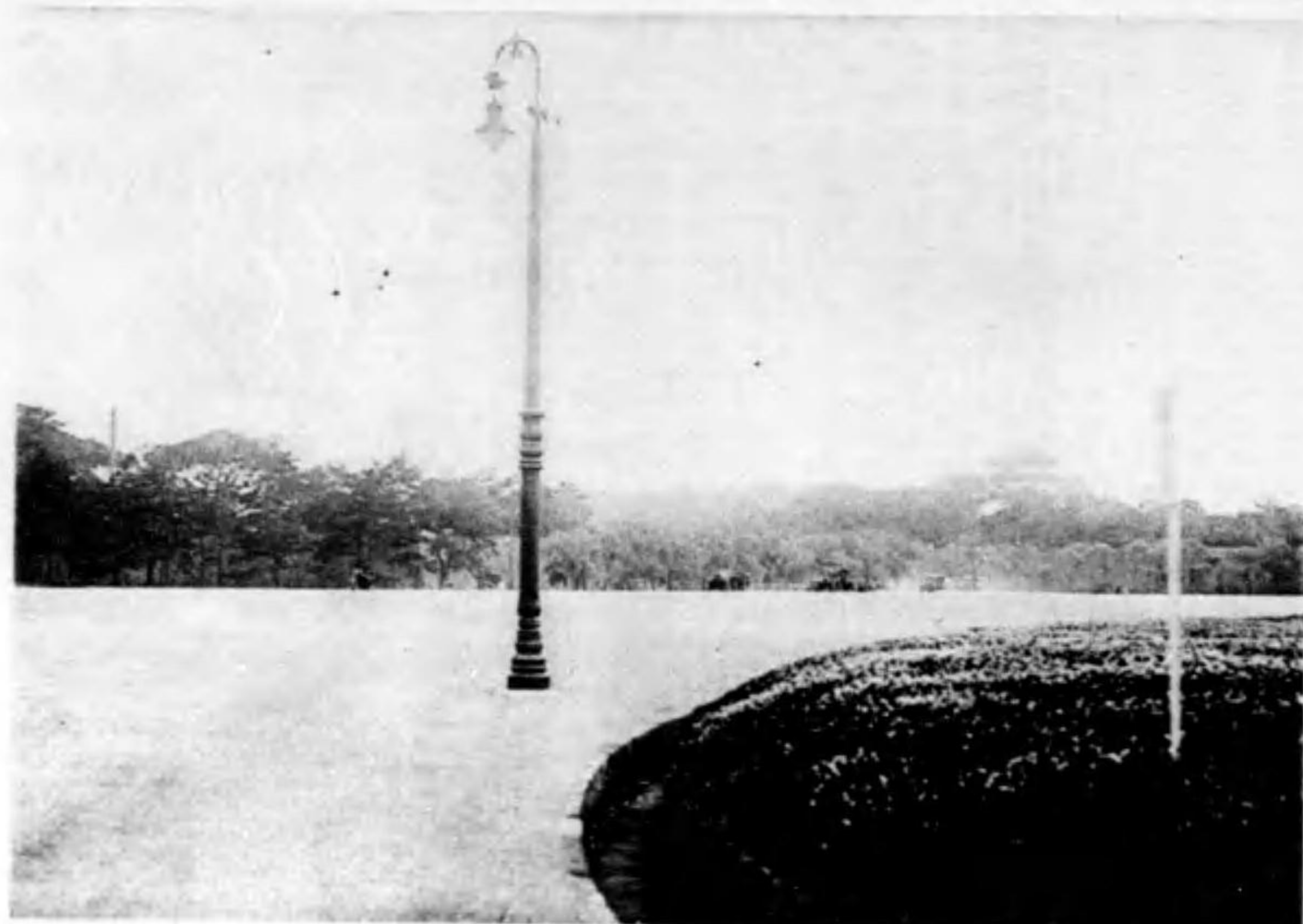
第三章 復興帝都御巡啓御模様

第一節 宮城御出門東京市大富小學校

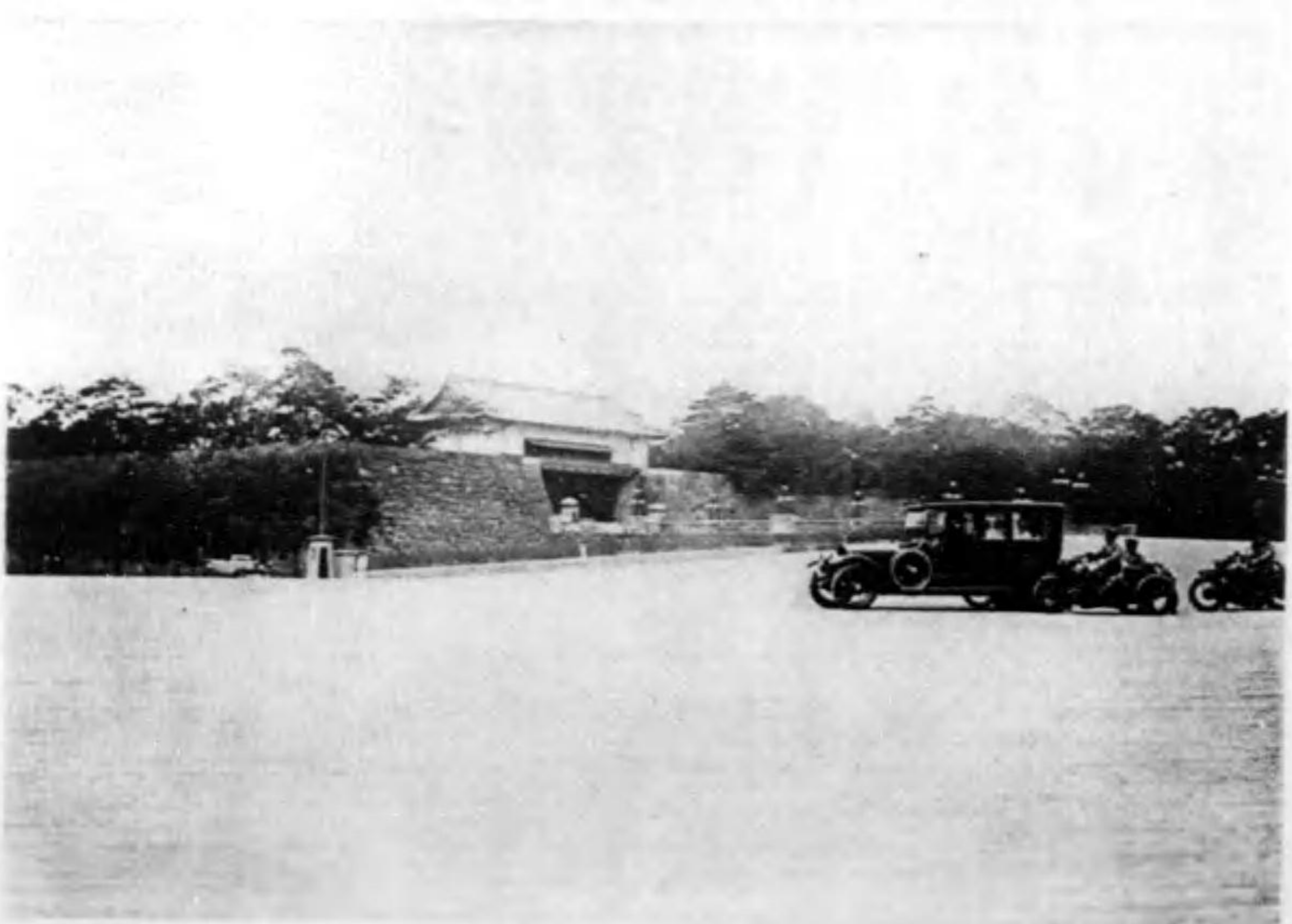
畏くも 皇后陛下の復興帝都御巡啓を仰く、七月四日の天候は、前日の午後六時中央氣象臺豫測の如く朝來南寄りの風程かに薄曇り勝ちであつたか、漸次正午になつて快晴に向ひ誠に申分のない日和であつた御道筋はすか／＼しく掃き清められ午前七時頃には沿道各所に奉迎者堵列を終へ通御を待ち奉る、この日初めての光榮に浴する大富小學校は深川區富川町有志少年少女の手によりて早くも午前六時三十分校庭に於て國旗掲揚式を舉行して赤誠を表し、高く掲揚したる國旗は翻翻としてさながら歡喜溢るるか如くであつた、一階職員室の御休憩所其他校内の設備は遺漏なく整へられ午前八時生徒及職員拜謁者市内小學校長其他關係者の入場を終り所定の位置に整列し御召車の御着を待ち奉つた。

陛下には御豫定の如く午前八時三十分自動車に召させられ竹屋女官長陪乘津輕萬里小路油小路三女官御扈從内務大臣安達謙藏文部大臣田中隆三東京府知事牛塚虎太郎東京市長永田秀次郎以下十餘臺の自動車供奉、宮城坂下門御通過、馬場先門より御順路を清洲橋に出でさせられ同五十分大富小學校に着御あらせられた。本市助役菊地慎三御先導御休憩所に入らせられ直に内務大臣安達謙藏文部大臣田中隆三東京府知事牛塚虎太郎東京市長永田秀次郎東京市會議長伯爵柳

御 巡 啓

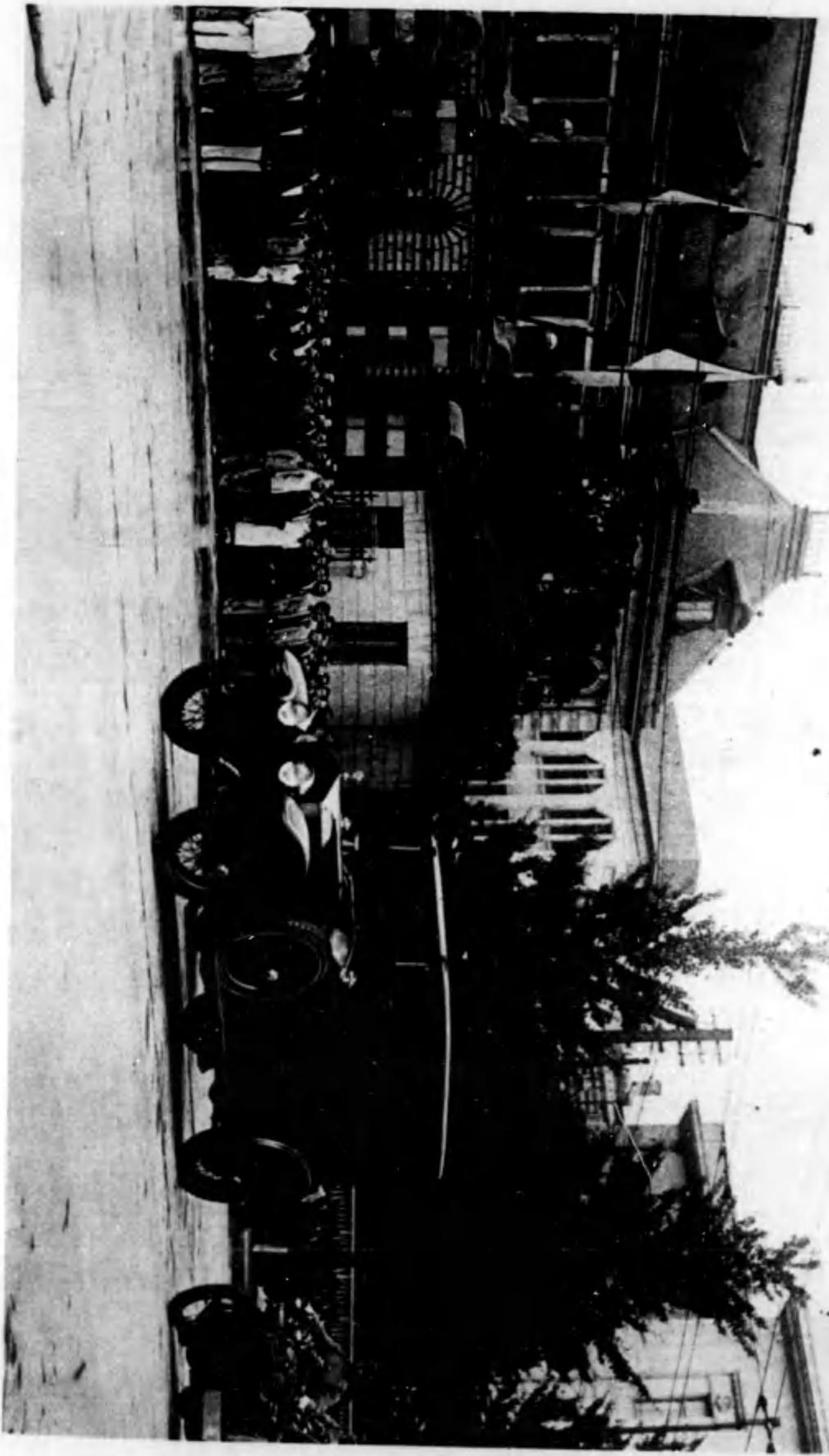


宮城坂下門發御



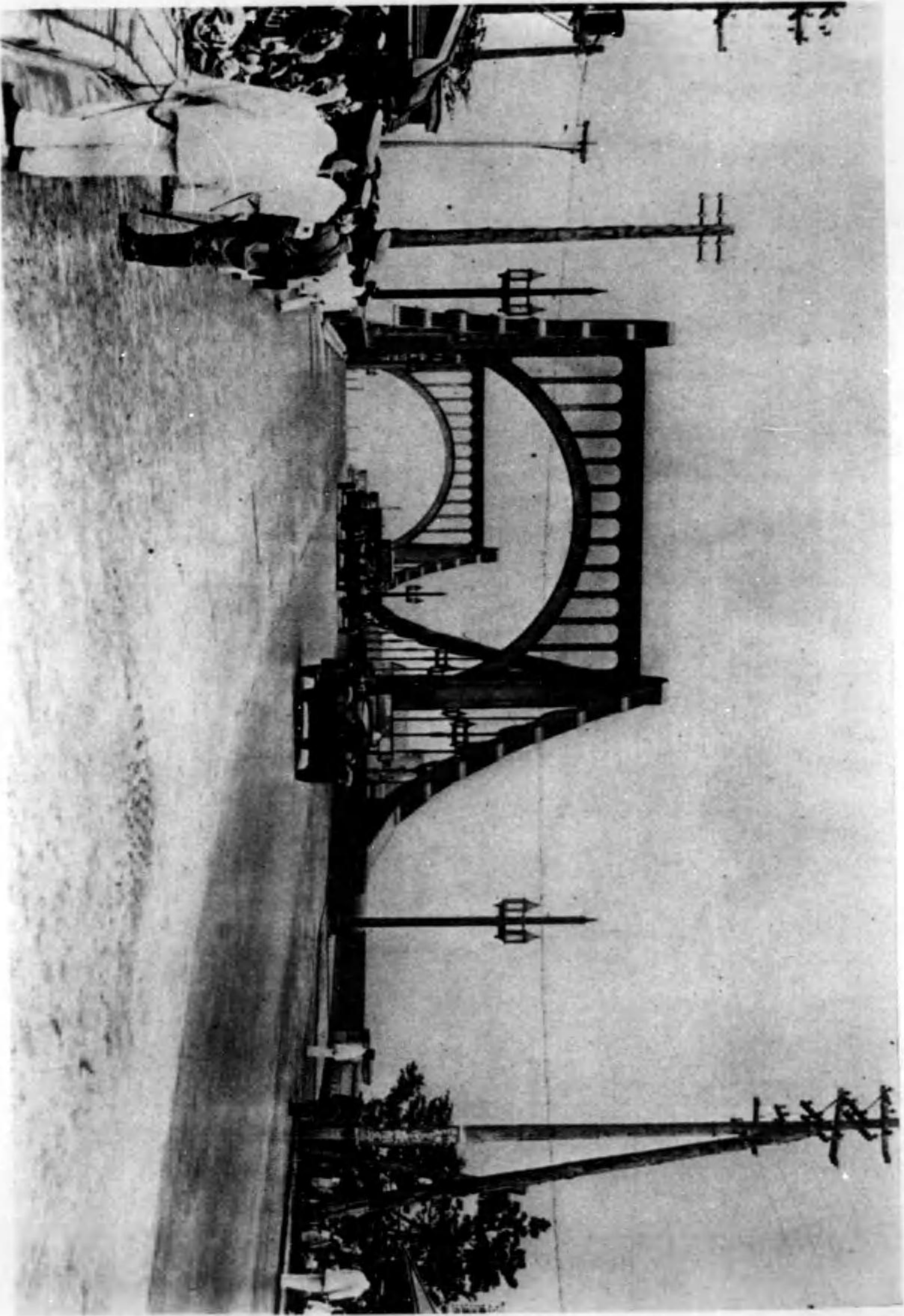
二重橋前御通過

御 巡 啓



市 役 所 前 御 通 過 奉 拜 者

御 巡 啓

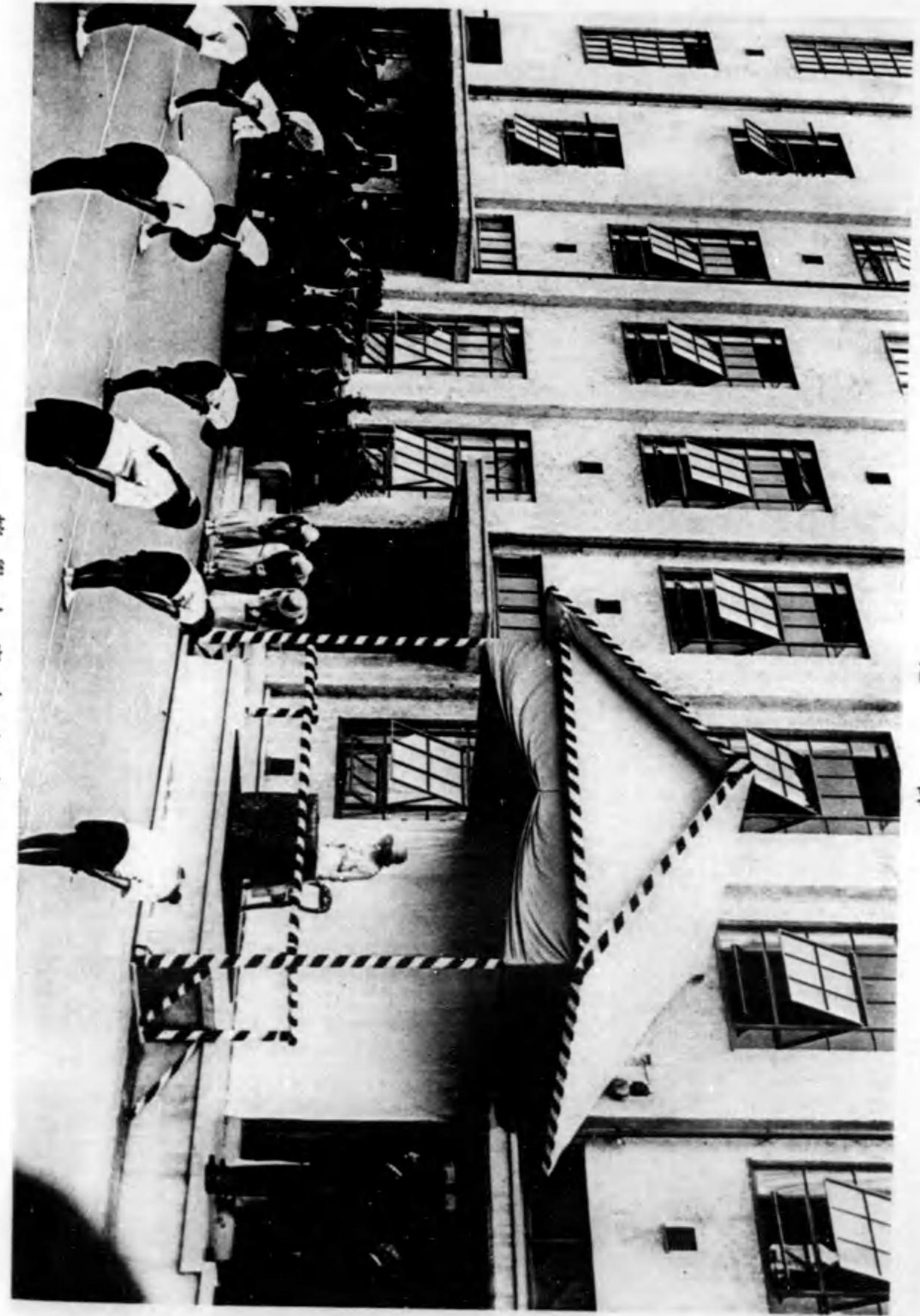


清 洲 橋 通 御

御 巡 啓



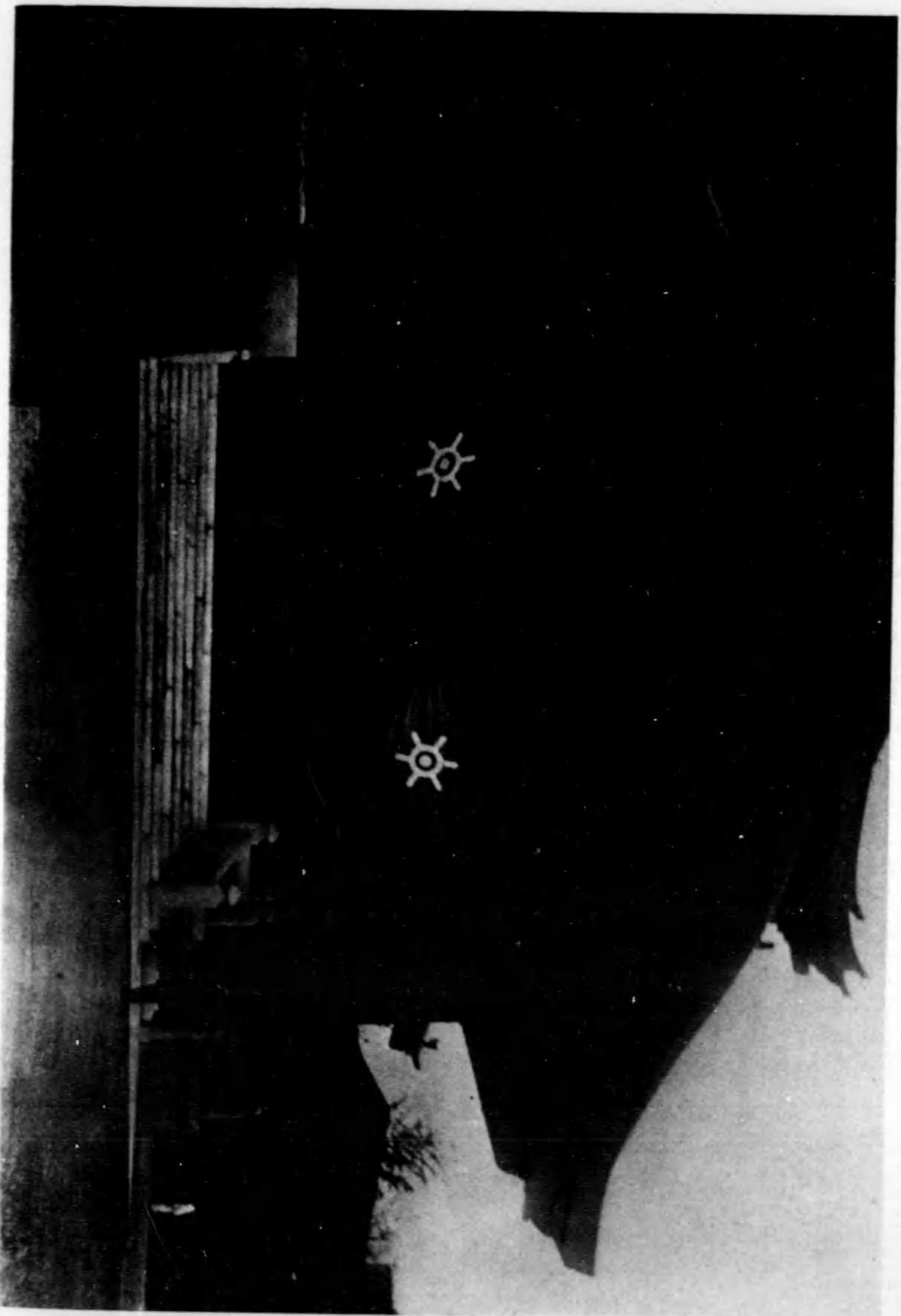
御巡覽の榮に於し大富小學校の諸設備



御 巡 啓

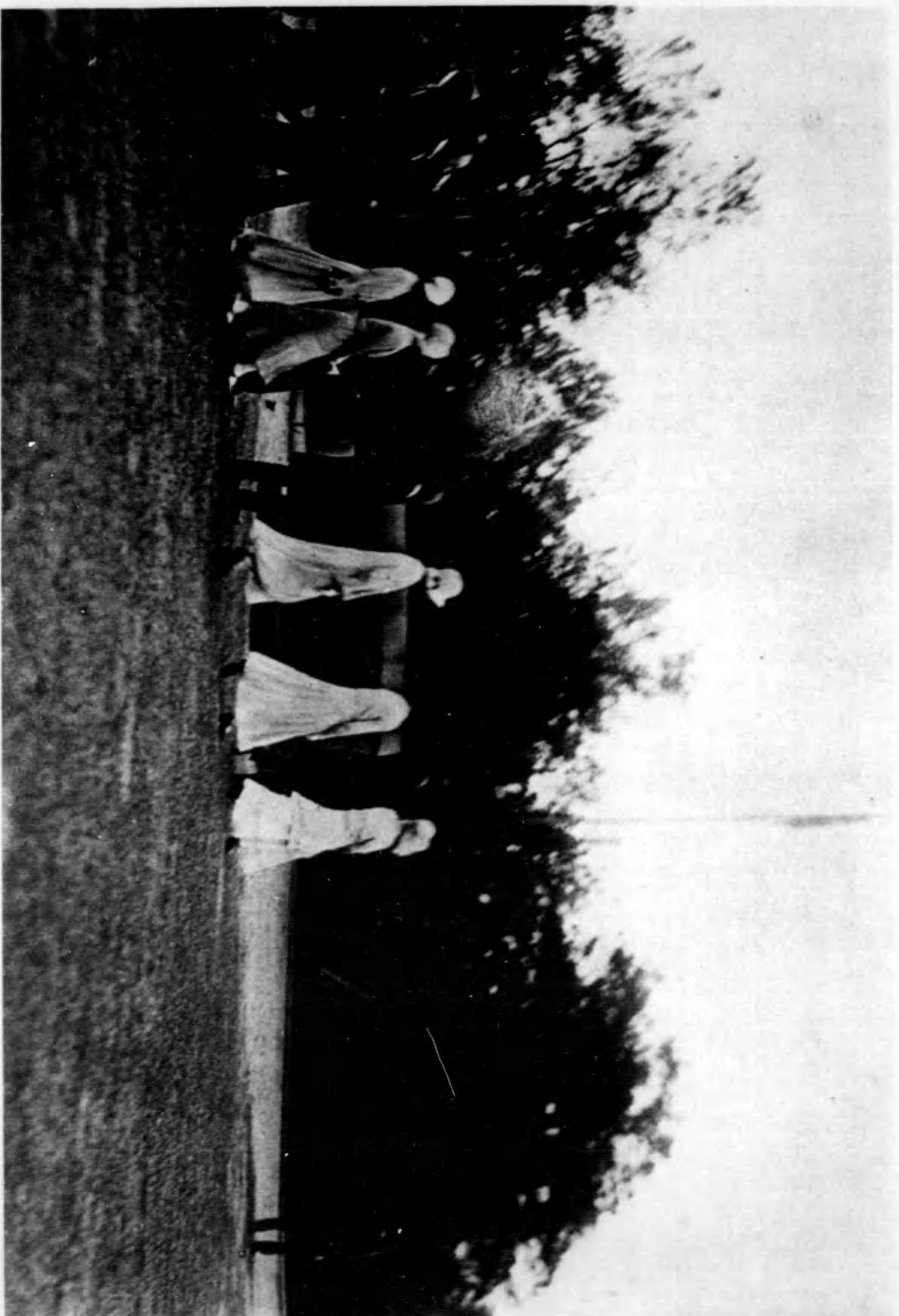
市立大富小學校

啓 巡 御

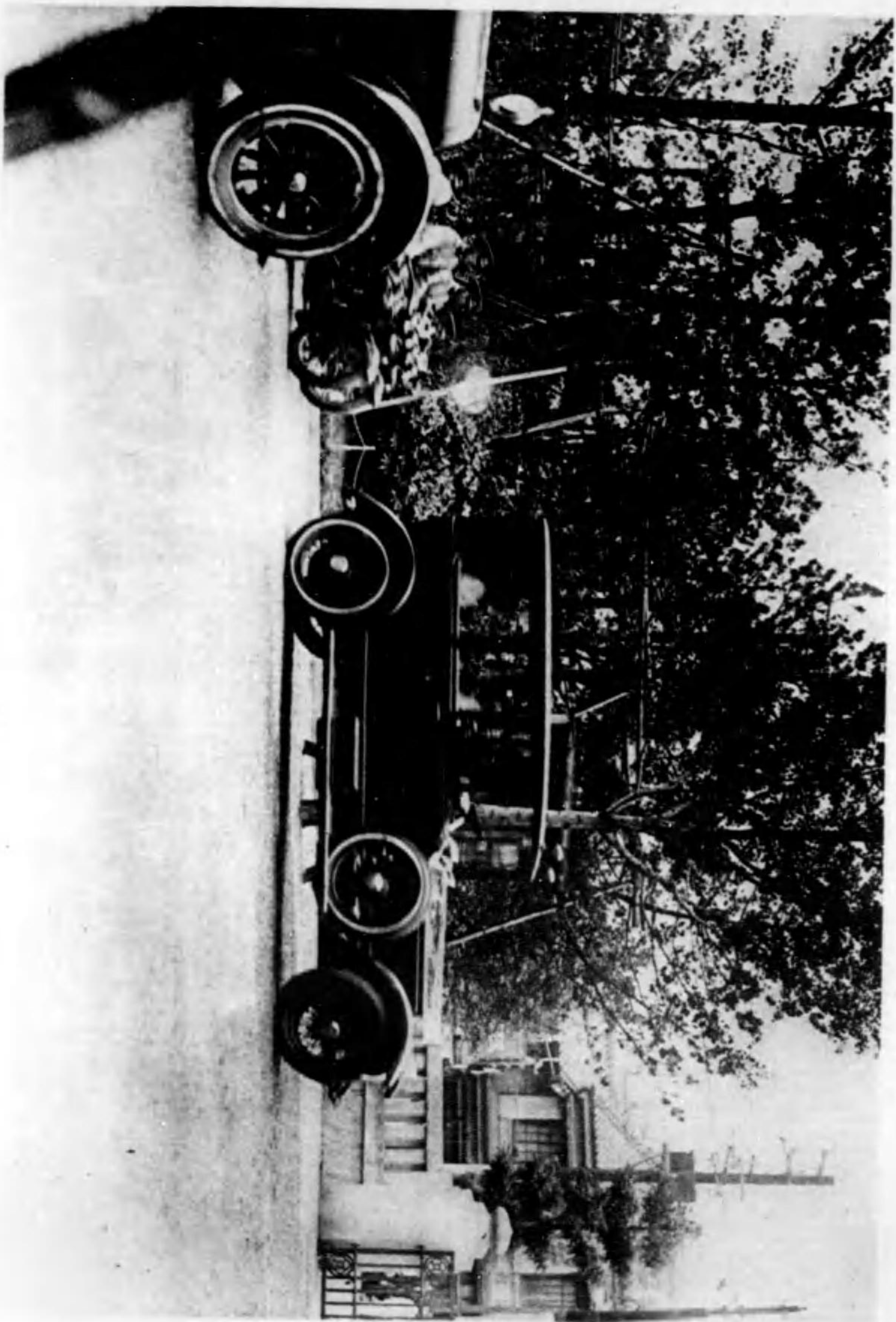


御 着 堂 念 記 災 震

啓 巡 御



る ち せ は 向 に 館 念 記



御 發 來 念 記 災 震

澤保惠同副議長溝口信に單獨拜謁を賜はり、以て東京市長は御前に參進して市教育事業に就いて御説明申上げた、これより陛下には午前九時御機嫌麗はしく御休憩所より屋外運動場にしつらへる御座所に出御あらせられ同校の女子五年生八十七名の體操を御覽引續き市會議員市學務委員區會正副議長區學務委員大富小學校長代理等約二百三十名に列立拜謁を賜はつた、夫れより東京市長の御先導にて教室を御巡覽御慈愛に滿させられて玉顔に御微笑をたたへさせられ手工室にて他念なき兒童の塵取、庖丁掛など日常家庭用小道具の習作を御興深げに御覽、次て理科室に入らせられては硫酸の化學作用により兒童が奉迎其の他の文字をあふり出す實驗を御覽、陳列室に入らせられては同校及深川區内小學校兒童の書畫、粘土細工、紙細工、刺繡、裁縫を御覽の傍ら圖表により兒童の就學率其の他に就いての御説明言上を聞召され、次に同校特設の兒童給食室に入らせられた、ここに上中下に區別された缺食兒童に給する食事見本の前に立たせられ、粗末な御馳走をいと御感慨深げに御覽あらせられた、かくして御豫定時刻より長く玉歩を止めさせられ、同九時二十一分諸員奉送のうちに震災記念堂へ向はせられた。(附記一 市長謹話參照)

第二節 震災記念堂

御召車は大富小學校を出てさせられて、同校左へ三つ目通り三ノ橋を渡り龜澤町三丁目十番地角左へ日本大學附屬中學校前右へ電車線路に沿ひ左へ震災記念堂に進御あらせられた、沿道には江東方面の老若の市民容議正しく堵列奉拜し、震災記念堂正門内には市會議員待遇者及市會各種委員其の他本所深川區内有志約六百名奉拜の中を午前九時二十八分震災記念堂正面に着御あら

別錄 復興帝都御巡啓

せられた本市助役白上祐吉御先導申上げ、陛下には納骨堂祭壇前に進ませられ恐多くもしはし御黙禱あらせられた、次て市長の御説明を聞き召され當時の大被害を偲はせられ、悲しみの群像には温き御慈しみの御目を止めさせられた、次て震災記念館御巡覽記念館入口に公園課長以下係員々御目を止めさせられ御痛々しげに御覽遊はされた、陳列品は震災に關する文獻圖表繪畫寫眞等にあり、中に震災直後恐多くも當時攝政宮に在せし、今上陛下には焦土を御巡視遊はされし際、に於ける御馬上の御英姿と、當時國母陛下におはしませし、皇太后陛下か上野池ノ端の救護所に御成り遊はされたる御姿を御寫し申上げた繪畫があつて、市長御説明に玉歩を止めさせられ御感慨深げに御覽あらせられ、誠に恐懼感激極みである。

かくて陛下には九時四十分震災記念堂を御退出あらせられた、當日遭難者慰靈祭祀の爲めにとて金一封と結構なる香爐一盒御下賜の恩命に浴した、(附記一 市長謹語參照)

第三節 同愛記念病院

震災記念堂御巡覽を終へさせられて、御召車は正門より左へと進御、午前九時四十七分同愛記念病院に御着あらせられた、病院正門に病院長以下看護婦生徒三百名奉迎し、三浦院長御案内申上げて便殿に入らせられ、諸員に拜謁を賜ひ、御少憩の後屋上御展望所に成らせられた、ここに市長地圖と寫眞とを對照して、新帝國議會ニコライ會堂帝國大學淺草寺等の大建築及十大橋の内、清洲橋兩國橋、厩橋駒形橋、吾妻橋等の數橋について御説明申上げ、尙ほ兩國橋の川開き、國技館の相撲由

來など申し上げたか、いと御感興深げに御聽取あらせられ、御疲れの御模様もあらせられず引續き院内を御巡覽レントゲン寫眞を御覽の上、十時二十分同院を御出門、隅田公園に向はせられた、市長の説明大要左の如くである。(附記一 市長謹語參照)

當所は隅田川に臨み兩國橋の上流に位して居ります、其の兩國橋は復興事業として目下東京市に於て工事中であります

兩國附近は毎年七月二十日頃川開きと稱し兩國橋の上流及下流に於きまして、花火を打揚げ非常な人出がありますことと、一月及五月には國技館に於て大角力か催されるのとて有名であります

兩國橋の西詰にある千代田小學校は昨年、聖上行幸の節御立寄の光榮を頂きました所てあります

御展望區域を左方より申上げますと、深川、京橋、日本橋、麴町、神田、本郷、下谷、淺草本所の各區に跨つて居ります、其の大部分は區劃整理を施行し市街の面目を一新したのであります

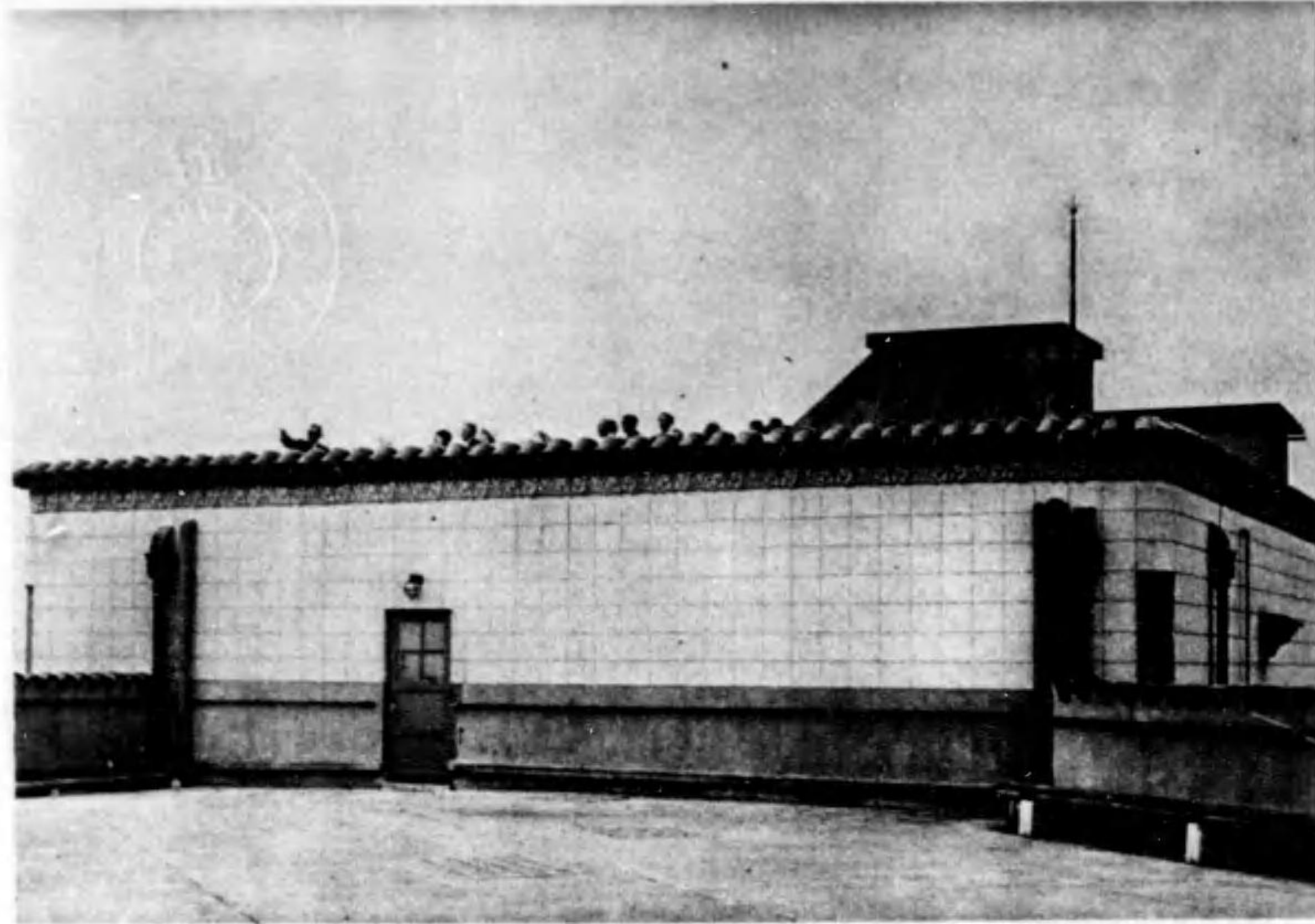
左下に見えます停車場は總武本線の起點兩國橋驛であります、將來は高架線て御茶の水驛に連絡する豫定であり、竣工の曉は千葉方面から市の中心に達する交通は非常に便利となるのであります

駿河臺のニコライ會堂の手前に當つて大震災に焼残りました神田區和泉町、佐久間町の一園地があります、其處は米倉庫がありましたので震災直後罹災民の救助に非常に役立つのであります

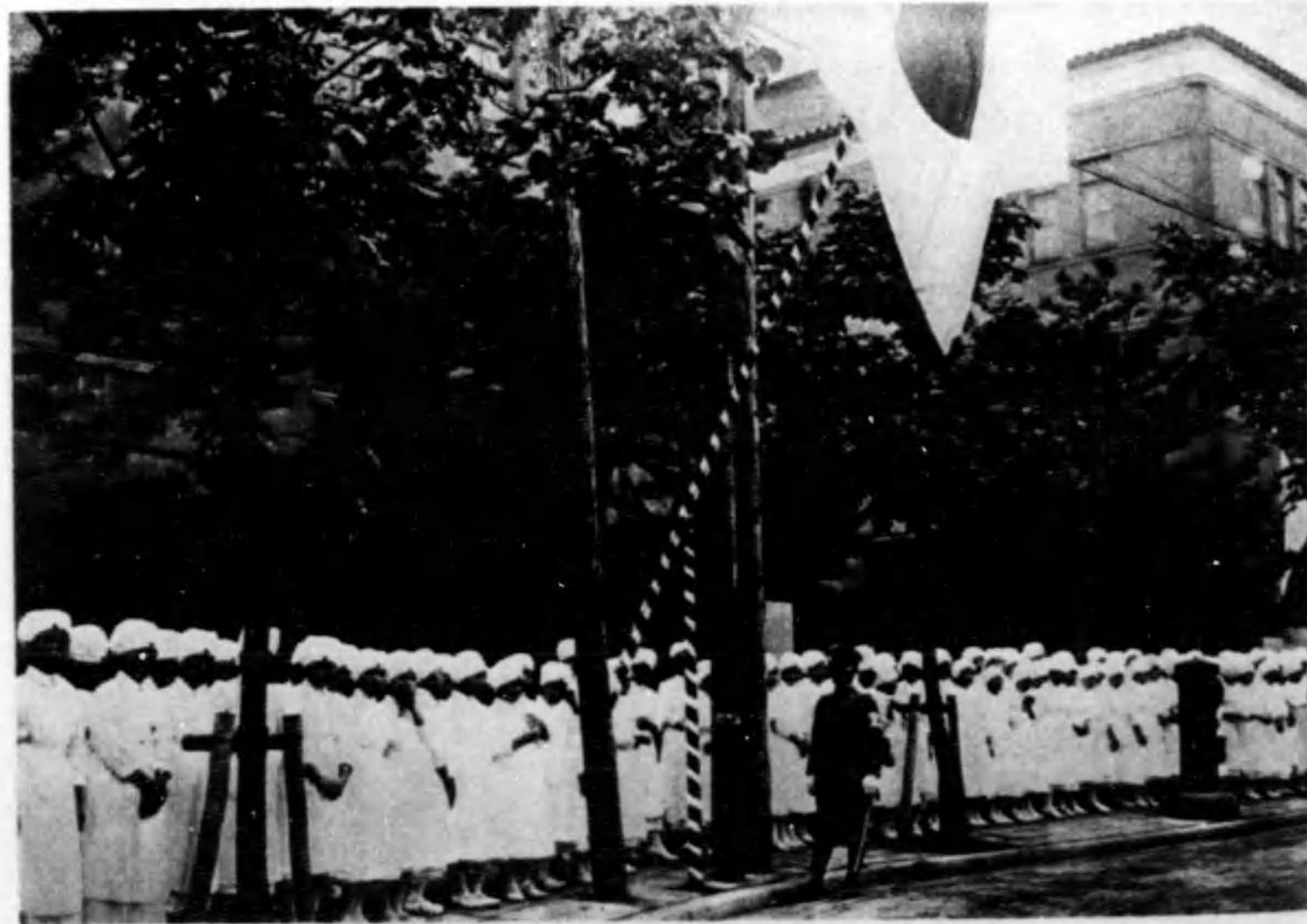
遙かに見えます上野公園は大正十三年一月、聖上御慶事の際舊芝離宮及南葛飾御料地と共に東京市に御下賜になつたもので、誠に忝なき次第で東京市は特に條例を以つて恩賜公園常設委員會を設けて之か管理經營につき萬遺憾なきを期して居ります

其の附近を通過する高架線は上野驛から東京驛に連絡致して居ります、又萬世橋から上野山下を経て

御 巡 啓



同愛記念病院屋上よ御展望永田市長御説明



同愛病院前整列の奉拜者

帝都復興祭志

七三〇

浅草雷門に至る道路下には民間の会社に依つて地下鐵道が敷設されて居りますが何れも震災後新たに開通したものであります

隅田川より右方一帯は所謂江東の地でありまして東京市に於ける工業の地域であります
御展望の目標となりますものを二三申上げますと

清洲橋

國技館

千代田小學校

三越百貨店

ニコライ會堂

松坂屋百貨店府立第一高等女學校

上野恩賜公園

修理中の浅草觀音堂

工事中の專賣局工場

深川木村町及砂町の瓦斯タンク

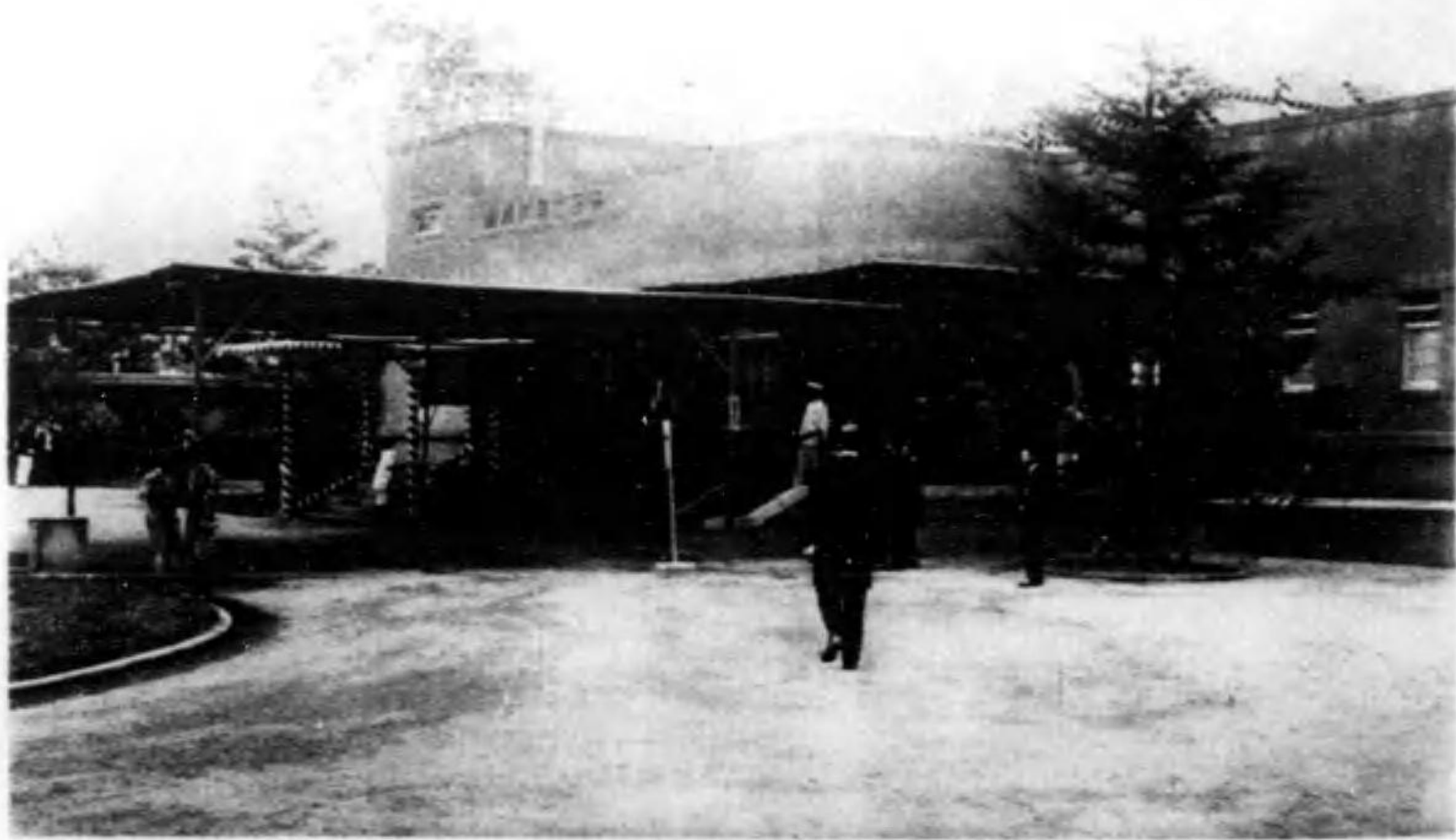
などてあります

劇場明治座の前通は電信電話等の架空線を整理し之を地下に共溝を設けて收容いたしましたは九段坂と東京驛東口に當ります八重洲通と只今
麗な道路になりました此の架空線を整理致しましたのは九段坂と東京驛東口に當ります八重洲通と只今
申上げました所と三箇所てあります

御 巡 啓

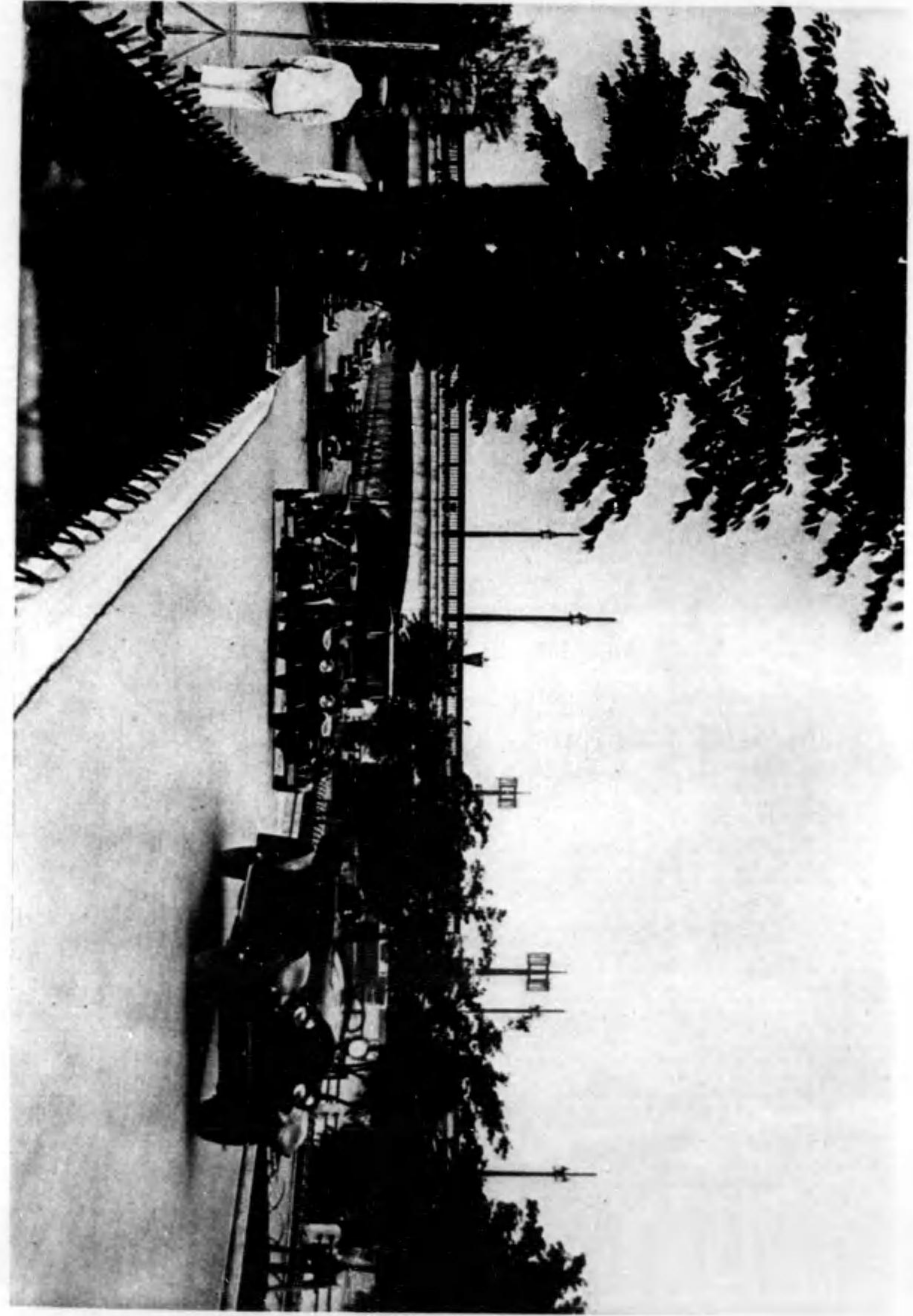


言問橋上御通



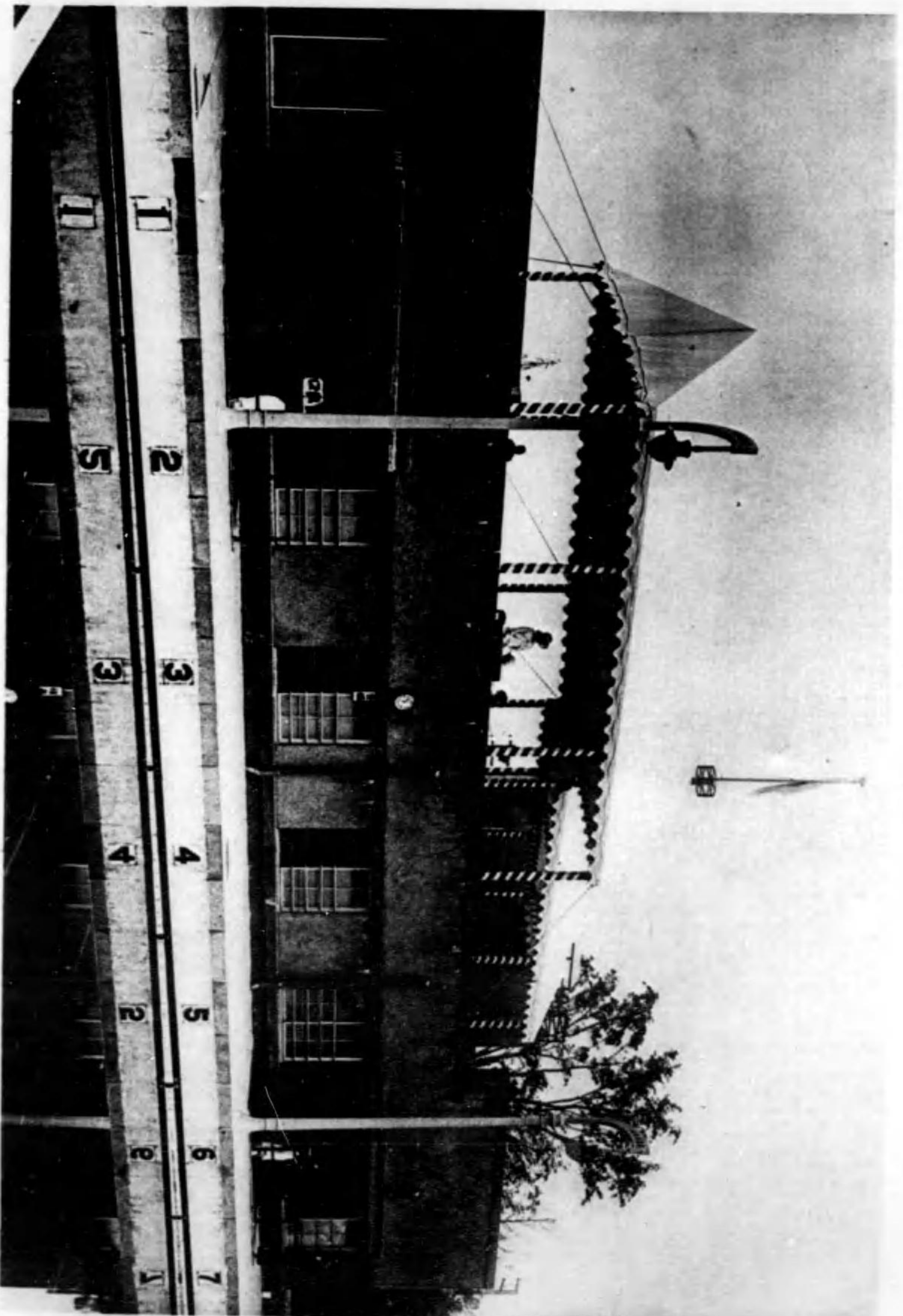
着御前隅田公園水泳場

隅田公園通御



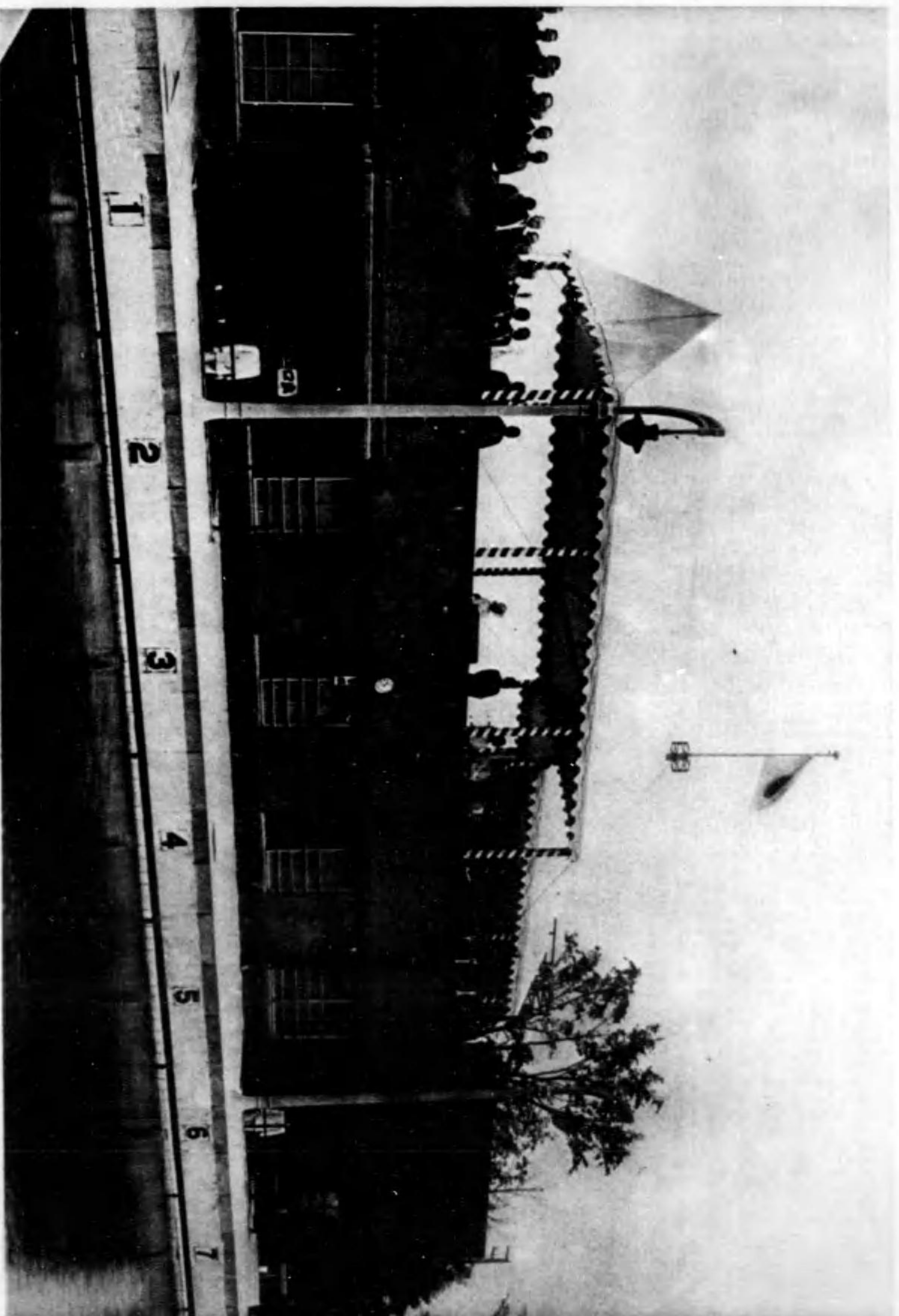
御 巡 啓

啓 巡 御



御 出 入 所 座 御 場 泳 水

啓 巡 御

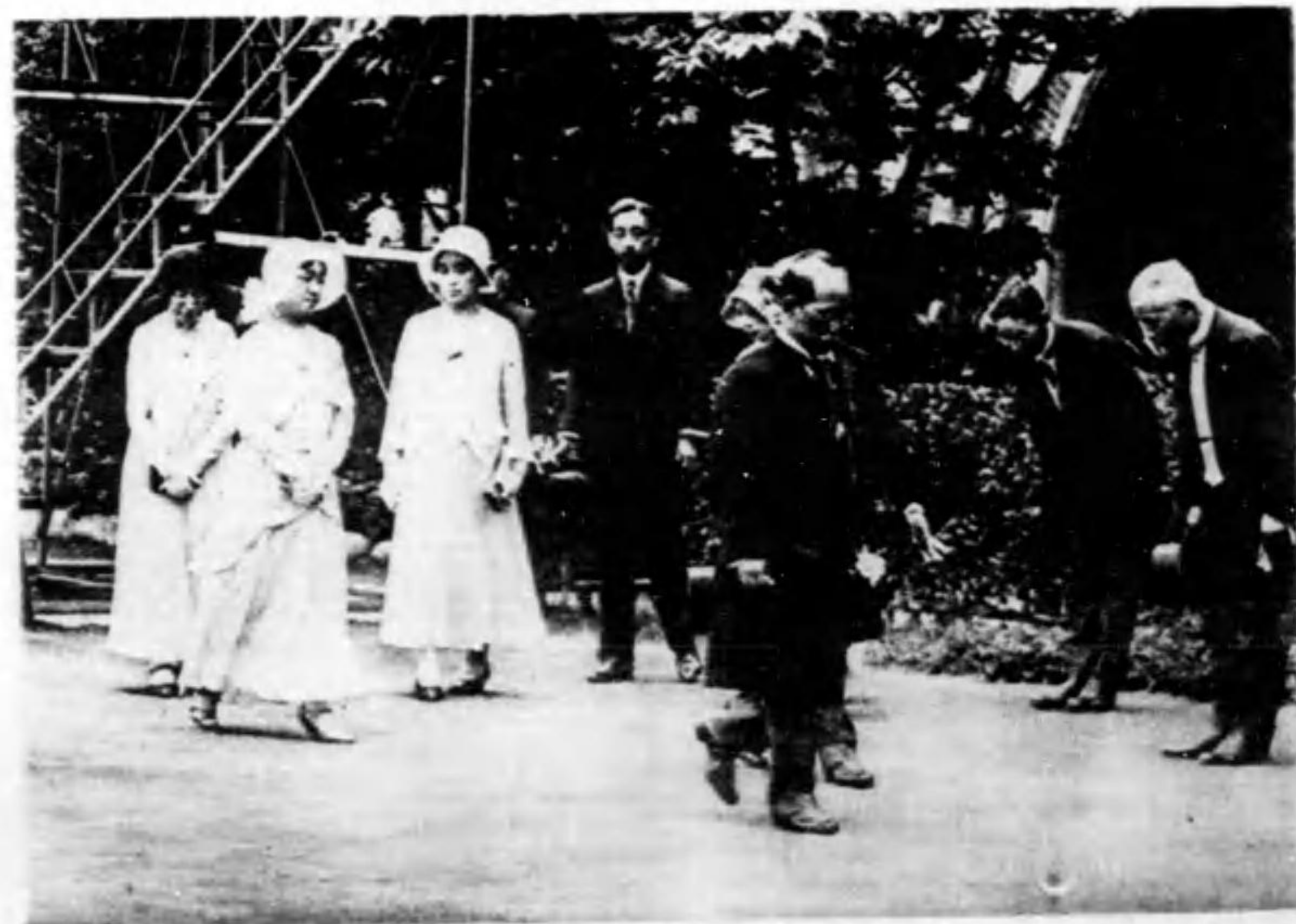


明 説 御 長 市 田 水 覽 御 泳 水

御 巡 珠

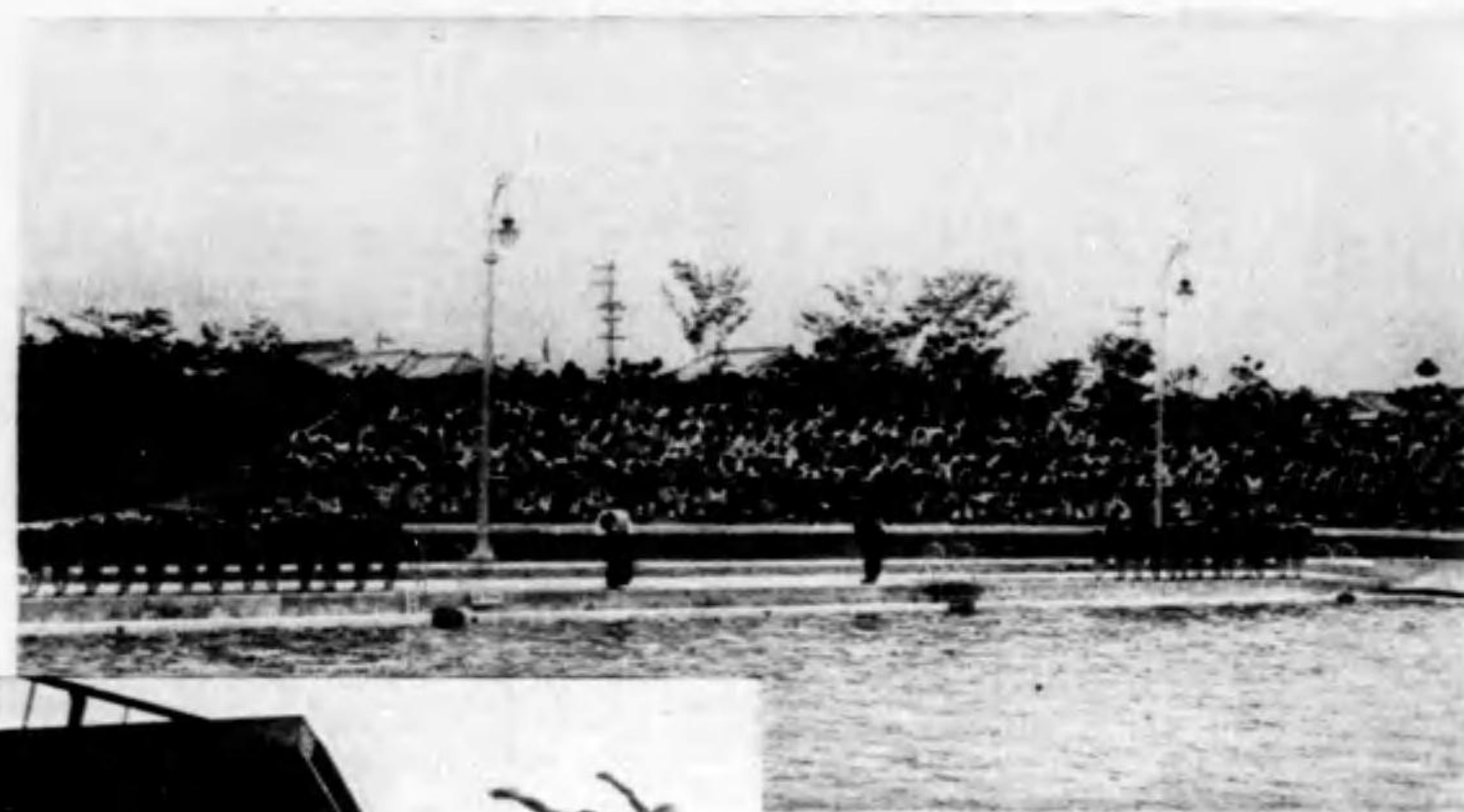


東京府立第一高等女學校學生體操御覽



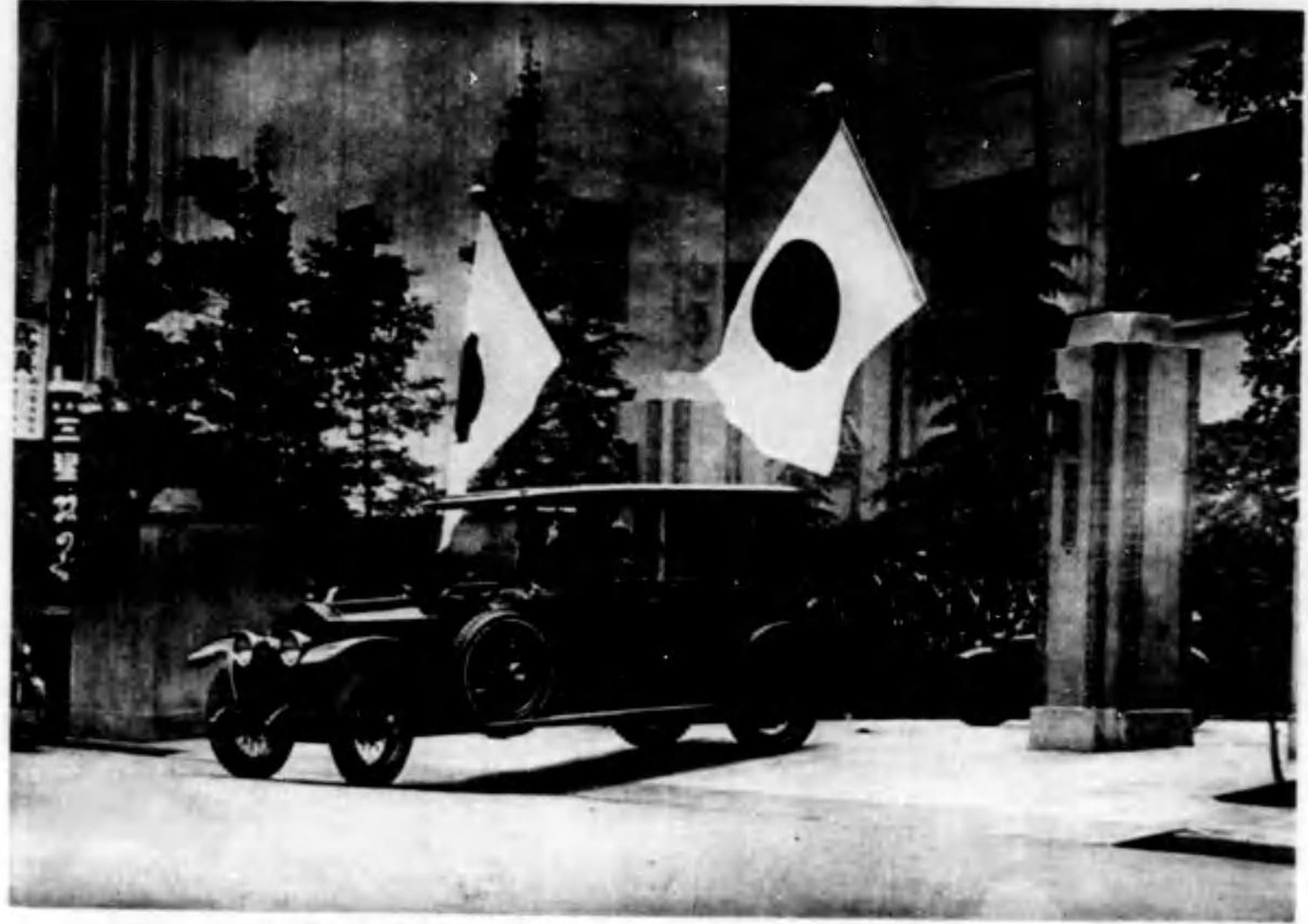
同 校 校 庭

御 巡 啓



水 泳

御 巡 啓



東京府立第一高等女學校退校御



還啓函(吳服橋通)

第四節 隅田公園

御召車は同愛記念病院御出發あらせられて吾妻橋一丁目及枕橋を進御隅田公園内新道路より言問橋下を過ぎて言問巡査派出所前右へ右へ右へ言問橋を渡らせられ山ノ宿町三十一番地角右へ今戸橋を経隅田公園内プールへ御着あらせられた。

復興三大公園の一として誇る水の隅田公園は此の日打水のあともすかしく公園入口より枕橋にかけて全市の小學校兒童代表男女各一名職員一名及中學校生徒代表七百名か奉迎申上くる中を御通過緑樹輝くプロムナードを御一巡の後言問橋を渡御十時三十五分プール御車寄に御着淺草區會議員方面委員其ノ他奉迎市助役十時尊御先導申上げ豊島園少年音楽隊の君々代表奏樂裡にプール正面御座所に入らせられた。プールスタンドに陪觀する府市立各女學校生徒約一千名一同起立最敬禮の後市長永田秀次郎御前に參進御説明申し上げて後直に日本古來泳法に依る御前水泳に次て左記の次第を以つて開始された。陛下はにいと御興深げに御覽遊はされ十時五分諸員奉送君々代表奏樂裡に御退出あらせられた。女子水泳次第並隅田公園に於ける市長の御説明要綱は左の如くてある。(附記一市長説明參照)

(一) 臺覽女子水泳次第

昭和六年七月四日隅田公園水泳場

一 日本古來泳法ノ型

大 拔 手 栗 村 徳 子

別錄 復興帝都御巡啓

一 競技泳法ノ型

片拔手一重伸	片山 榮子
背泳 右	加藤 好子
同 左	菊地 貴美子
平泳 右	前畑 秀子
同 左	渡邊 安子
クロール ストローク	
右	永井 峰子
左	市口 房子

一曲 跳

十米立前遊跳 石渡 桂子

一 百米混合リレー

右 甲組	一番 背泳 加藤 好子
	二番 平泳 渡邊 安子
	三番 横泳 栗村 徳子
	四番 自由型 永井 峰子
左 乙組	一番 背泳 菊地 貴美子
	二番 平泳 前畑 秀子
	三番 横泳 片山 榮子

- 一 團體游泳 東京府公私立女子中等學校選拔生徒
- 一四番 自型由 市口 房子

(二) 隅田公園に於ける市長御説明要綱

皇后陛下隅田公園に御巡啓の節東京市長御説明の要綱左の如くである。

帝都復興事業の三大公園(隅田、濱町、錦糸)の一で最も大なるものであります。面積約五萬六千坪でありまして隅田川を挟み、本所側と淺草側と相對して居ります。兩方共殆んど同じ面積で御座います。長さは約十町に五つて居ります。巾は至つて狭いのであります。本所側は隅田川に沿つてドライブを主としたものでありまして其の南方には舊徳川邸跡を日本風庭園に作つてあります。淺草側は吾妻橋際から橋場にかけて居りまして江戸名所待乳山の下迄は散歩本位の公園であります。山谷堀以北には水泳場、運動場、兒童遊園等の利用設備が設けてあります。水泳場は長さ五〇米巾に五米であります。深さは淺い所は一米二、深い所は五米になつて居ります。飛込臺は最高は一二米半であります。本日御覽にいます水泳競技は時間の關係から横の二五米の距離を使つて行ひます。周圍の觀覽臺は未だ工事中であります。完成いたしますと三千人を容れることか出来ることになつて居ります。この水泳場の水はすべて水道の水で三千立方メートル入つて居ります。平素は一回四百人つち一日五回乃至七回使つて居ります。其の内の一回を婦人用に供して居ります。只今の水温は二十二度でありまして本日御覽に入れます女子水泳競技者は日本の女子水泳競技の最高のレコードを有する選手のみであります。終りに御覽に入れます多數の游泳は東京府公私立女子中等學校選拔生徒でありまして水泳に堪能の者はかりてあります。スタンドに陪觀の榮を頂いて居る女生徒は東京市立の女學校、東京府六女學校及淺草區内小學校女生徒

てあります

生徒總數 一千人

内 府下

六百人

市立第一

忍岡

二百人 淺草小學校

第五節 第一高等女學校行啓

御召車は隅田公園ブルを出せさせられ、今戸橋を渡り言問橋前右へ、淺草公園裏通り千束町二丁目より田原町電車停留場を経て電車線路に沿ひ松清町、南稻荷町、永住町等を経、淺草區七軒町の東京府立第一高等女學校へ着御あらせられた。陛下には東京府内務部長廣瀬久忠御先導、御休憩所に入らせられ、次て東京府知事牛塚虎太郎より言上書を奉呈し、三内親王殿下に献上する同校生徒の製作品御座布團三組、紙製の數字應用教育玩具を御興深げに御覽あらせられた。次て知事の御先導にて府會議員等百二十名に列立拜謁を賜ひ、講堂にて私立女子中等學校長九十七名其他の奉拜を受けさせられた。

それより校内を御巡覽生徒の成績品を御覽あらせられ、引續き同校四、五年生徒混成A、B、C、三組

のバスケットボール及割烹の實習を御覽、次て校庭にて三、四、五年生の體操ダンス(ホルカ、セリーズ、マヌルカ)を暫し御覽遊はされた。小蝶の如く舞ふユニホーム姿に殊の外御興深げに拜された。御視察を終へさせられて同校を御退出校門前を左へ、七軒町九番地角左へ、二長町百二十五番地右へ、御徒町より左へ電車線路に沿ひ昭和通り和泉橋を渡り、江戸橋前右へ、常盤橋前左へ一橋を渡り右へ、吳服橋を渡り、大手門前左へ、警視廳消防部角を右へ、宮城坂下門へ入らせられた。畏くも陛下御巡啓所要時間三時間餘りに渡らせられたか、聊も御疲勞の御氣色を拜されず、悉くなく還啓あらせられた。(附記一 市長謹話参照)

附記ノ一

一 市長謹話

皇后陛下市内御巡啓に感從し、御案内御説明申し上げたる市長は、宮城還啓後、直ちに参内、御禮を言上して退下し、謹んで當日の御模様左の如く語つた。

私は御扈從申し上げる爲、午前八時に参内いたしましたところ、持に今回の行啓について府市に對し五千圓の御下賜金がありました。それは學齡兒童のうちの欠食兒童に對する給食の資にとの有難き思召してあります。なほ震災記念堂の祭樂料及香爐一盒御下賜の御沙汰を拜しました。豫定の時刻に宮城御出門大宮小學校へ御着きになり、菊池助役の御先導で御座所へ御案内、こゝで内務、文部兩大臣府知事、市長、市會正副議長に拜謁を賜はり、後て私から小學教育の狀況を簡単に申上げました。大宮小學校については同校は明治三十

別錄 復興帝都御巡啓

三年大正天皇御成婚の際、市内貧民教育の資として御下賜遊はされた一萬圓に依つて設立の持種小學校五ツのうちその一つであつて始めは靈巖小學校と云つてゐたが大富小學校と改稱した旨を申し上げました。従て貧民の子弟が多く九百二十餘名の児童の中四百名は授業料を免除し教科書學用品を給してゐる内二百名には更に晝食を給與してゐるか毎日同じ子供でなく辨當を持つて來ない子供にやつてゐる。斯様な特種な學校である旨を申し上げました。それから雨天體操場て市會議員等に拜謁を賜はり各教室を御巡覽遊はされ、いと御興深げに拜しました。手に六年生の手工授業では廢物利用で赤玉ボートワインの空箱で塵取りや狀差などを作つてゐる狀況を御覽遊はされ出来上つた製作品についても何かと御尋ねがあり、それから唱歌、算術、讀書體操、成績品を御巡覽、更に給食室では二百名の缺食兒童に與へる五錢、八錢、十二錢三種の食物とお椀に一合の麥と米とを混ぜたものなど御覽に入れました。洋行中の推名校長についても宮内次官や私からその來歴を申し上げました。色々御興深げに拜しましたが、何分時間かないのでゆつくり御覽を給はる時間もなかつたか、それでも御手間かとれて豫定より七分八分水くまりました。それから震災記念堂に向はせられ、こゝでは白上助役か御案内、祭壇の正面で會釋があり記念堂は佛堂の様であるか佛堂ではなく東洋風に建築したもので納骨堂には五萬八千人の遺骨が保管されて祭壇の正面には五萬八千人の名前の記されたものか備へてある旨を言上階段のところでは悲しみの群像について御説明申し上げ更に梵鐘は支那の佛教徒から寄贈して來たものであることを申しあげました。記念池では震災當時パケツが澤山一所に積重つて熔けてゐるもの、クギや銅貨など同様溶けたものとか、宮内省の炊き出しの道具等を御覽階上では皇太后陛下か池の端救護所を御見舞の有様を描いた繪畫や、攝政宮殿下か燒跡を御乘馬で、御巡視の繪畫等を持に御目にとめさせられました。それから同愛記念病院へ行啓、こゝでは三浦博士が御案内屋上では地圖と寫眞を並へて復興狀況を御覽に入れました。十ある復興橋梁の内新大橋、清洲橋、兩國橋、厩橋、駒形橋

吾妻橋など六つ七つ見える兩國では川開きかあること、國技館の相撲の話など申し上げ、修理中の淺草寺東武鐵道の建物、ニコライ堂などを御展望遊はされました。病院では病室に御出ましならなかつたかレントゲンの寫眞には御興深く詳しく御覽になりました。それから隅田公園を御一巡同公園は復興三大公園の一つであること、外に小學校に五十二の公園が附設されたことを申し上げました。プールでは十米の曲跳、其の他色々な型の水泳を御覽になり餘程御珍らしい御様子に拜しました。こゝを二十分位遅れて御出ましになり府立第一高女にお立寄り遊はされ牛塚府知事の御案内で英語、理科、植物の授業狀況、割烹室、裁縫室等を御巡覽屋外で舞踏體操をみそなはし豫定よりも三十分遅れて正午御機嫌麗はしく宮城へ還啓遊はされました。扈從して市中の狀況を見ると午前中にも拘はらず奉迎する人々は多數で小供、婦人が多く七分以上は女で占めてゐたやうであります。ところ／＼敷物をしいて座つて奉迎してゐる人々、高齢者等みな靜肅に敬虔な態度で奉迎してゐるのは扈從してゐても誠に心地かよかつた。僅かの時間に方々を御案内申し上げ、殊に同愛病院では六階までエレベーターに依らず昇降遊はされたので或は可なり、御疲勞遊はされはしないかと御心配申し上げたら始終御機嫌麗はしく御微笑を湛えさせられてゐられませんでした。大富小學校では、これは何年生ですかと御たつねかあり貧家の子供の様子を持に御注意になつてゐらせられたのは有難い極みてあります。今日は幸に天氣もよく日も強くなく雨も降らず仕合せでありました。始めて、皇后陛下の行啓を仰き市民と共に觀喜感激に堪へない次第であります。御賜りものに對しても御禮申し上げておきました。

二 慰勞金品下賜

昭和六年七月二十八日 東京市長は宮内省よりの招きにより代理として秘書課長前田賢次を

出頭せしめたか皇后宮職事務官謹みて御巡啓に際し本市奉迎事務関係者に對して慰勞の思召により左の御下賜仰出の旨傳達した同課長は優渥な思召に恐懼感激して拜受し御帳に御禮言上の記載をして退出した

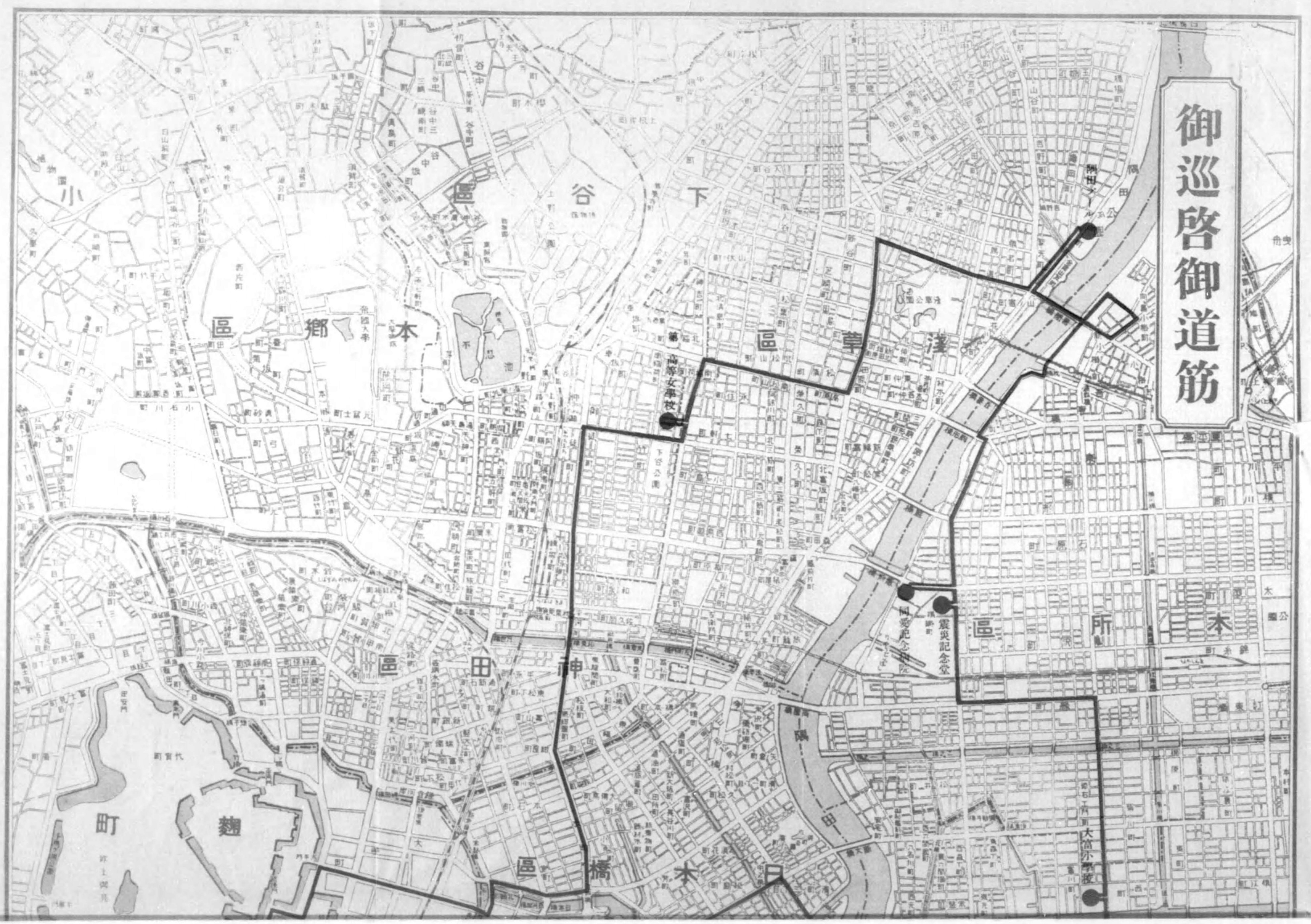
下賜金品目録

- 一 金壹千圓也 東京市御巡啓関係員へ
- 一 白布一包 東京市長永田秀次郎へ

帝都復興祭志

終





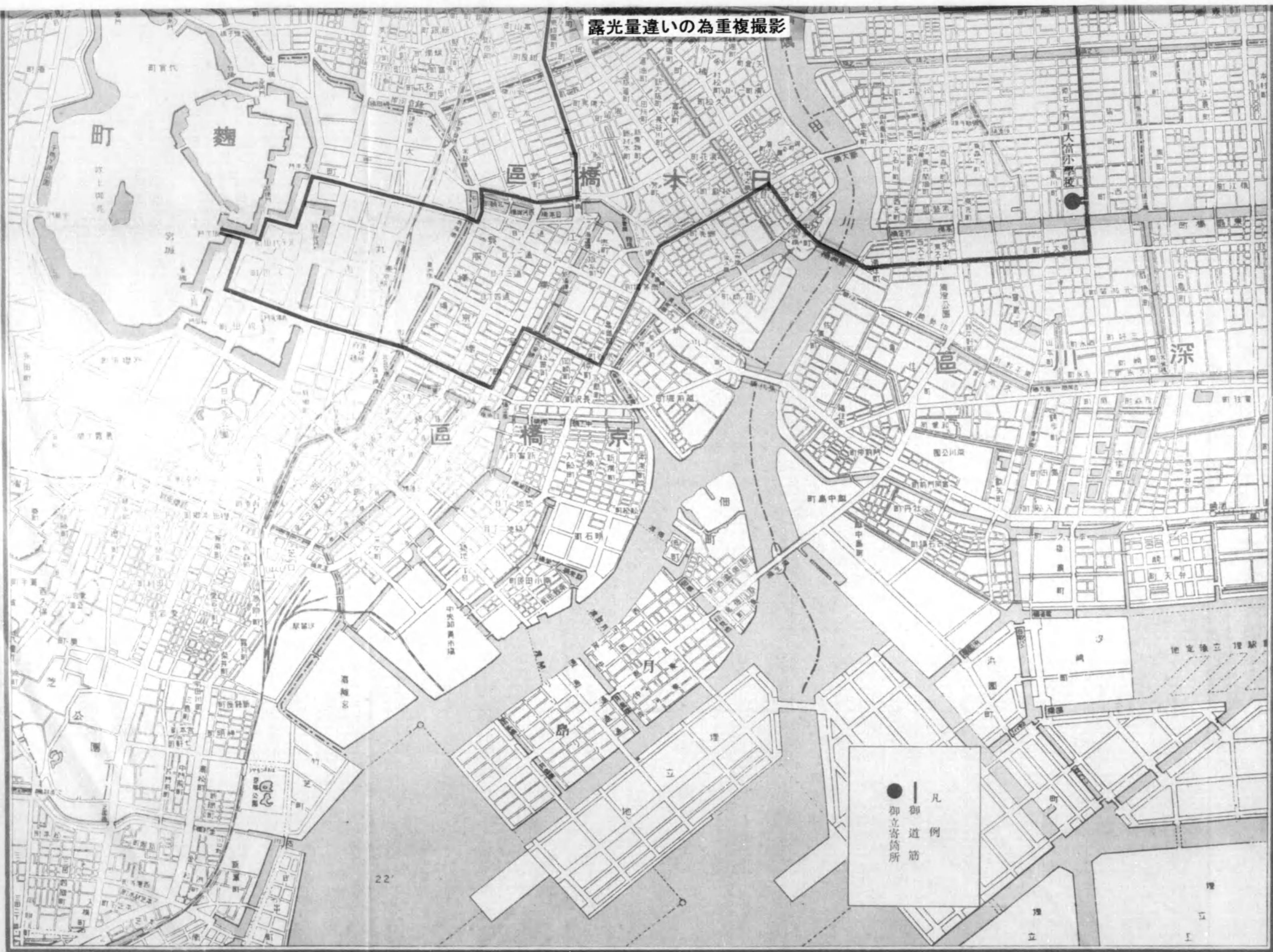
御巡啓御道筋

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

帝都復興祭志 終



● 御立寄箇所
 | 御道筋
 凡例

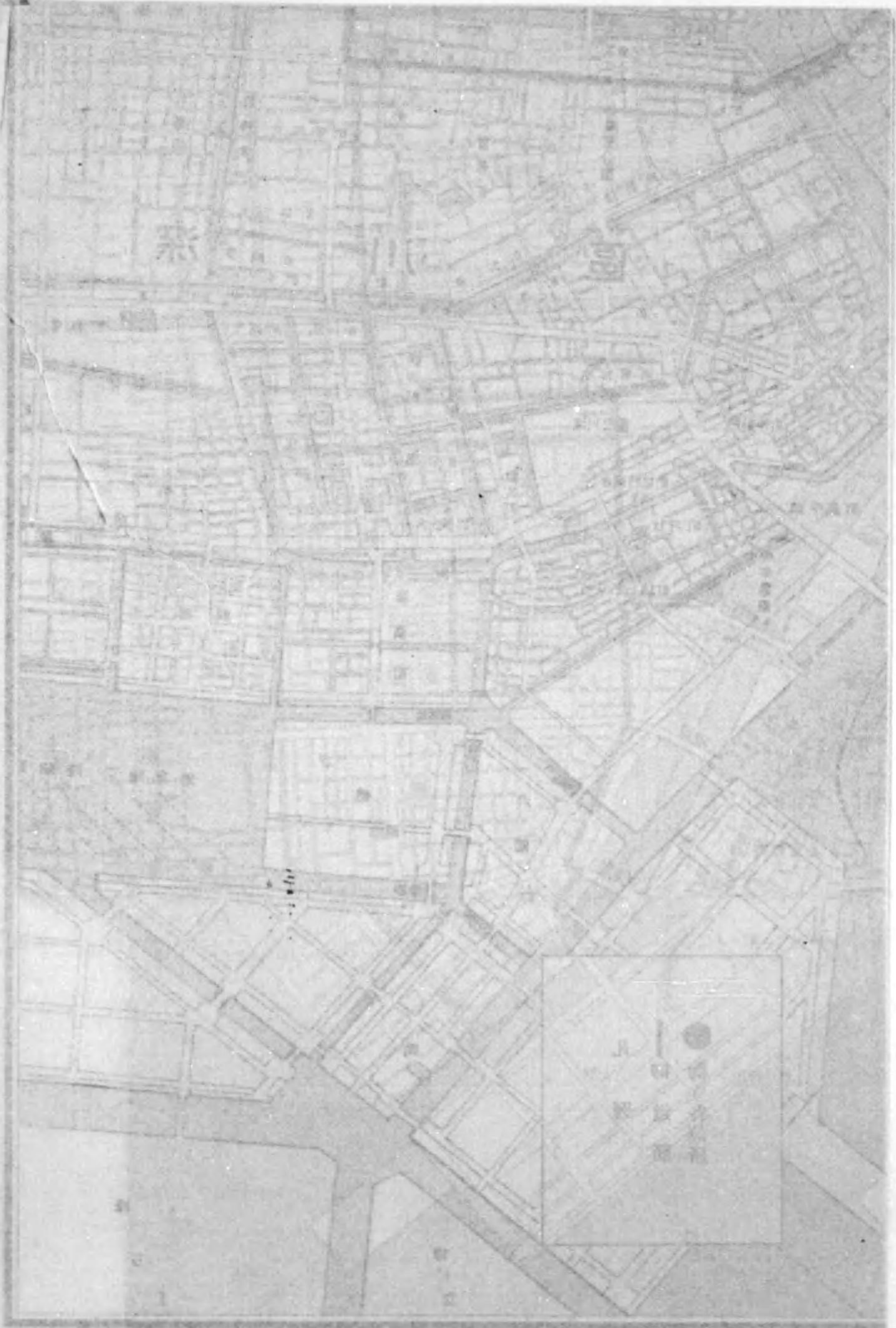
22'

露光量違いの為重複撮影

帝都復興祭志

終





昭和七年三月二十六日印刷
昭和七年三月三十日發行

非賣品

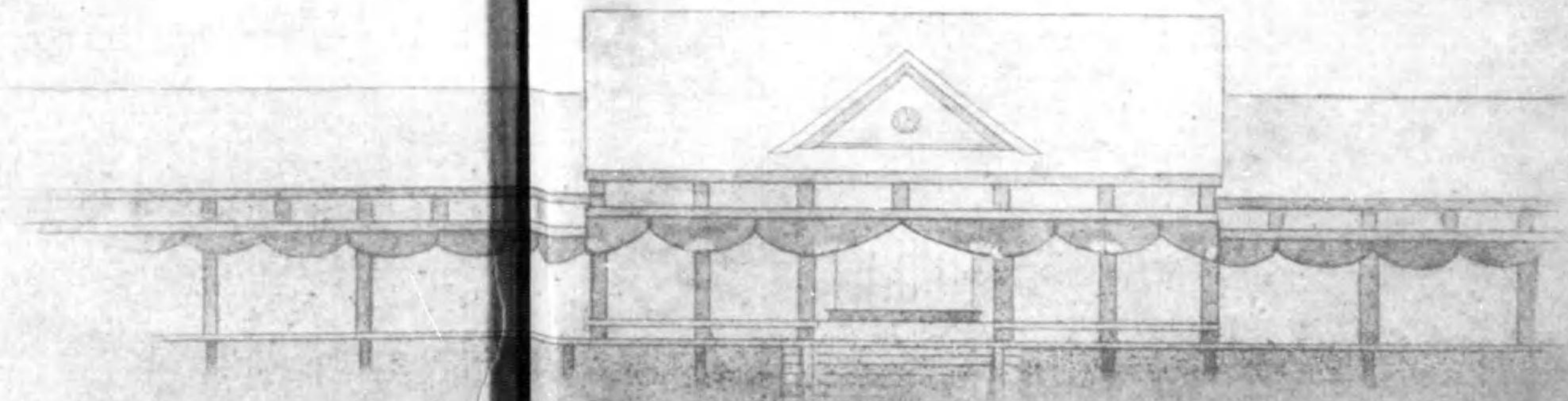
編輯者兼 東京市役所

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 共同印刷株式會社



終

